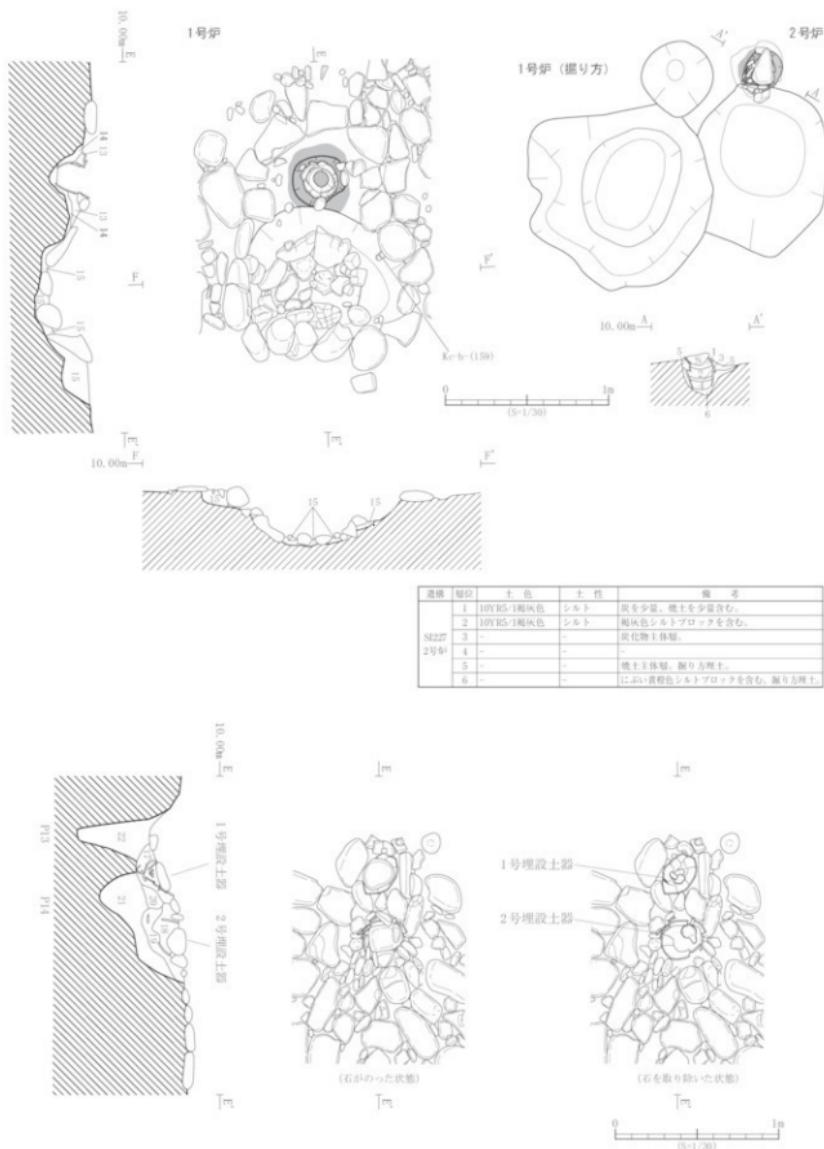
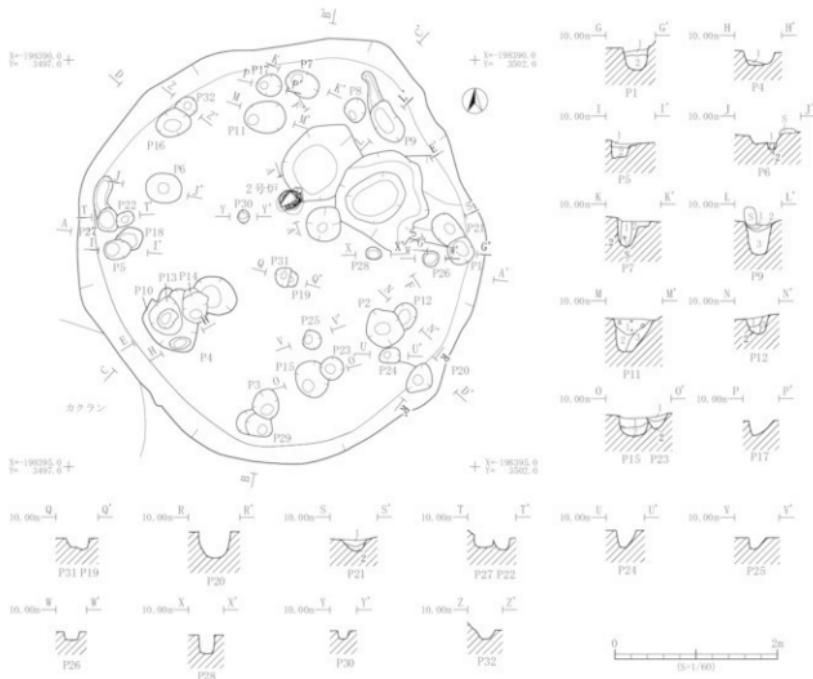


第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



第161図 S1227堅穴住居跡 1・2号炉、1・2号埋設土器平面図・断面図



構造				構造				構造				構造				構造																																																																															
層位	主色	主性	備考	層位	主色	主性	備考	層位	主色	主性	備考	層位	主色	主性	備考	層位	主色	主性	備考																																																																												
S1227 P1	1 10YR5-6褐色	シルト	縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P11	1 25Y5-3黄褐色	シルト	縫隙(φ20mm)と見掛けのブロックを、灰化物をわずかに含む。	S1227 P12	2 25Y5-3黄褐色	シルト	1層に比べて粘性が増す。部分的にグライ化している。	S1227 P13	1 7.5GY4/4暗緑灰岩	粘土	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P14	2 7.5GY4/4暗緑灰岩	粘土	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P15	1 5Gv4/4暗オリーブ色	シルト	縮まりはあるが、粘性がない。	S1227 P16	2 5Gv4/4暗オリーブ色	シルト	縮まりはあるが、粘性がない。	S1227 P17	1 5Gv4/4暗オリーブ色	シルト	粘土-縮み-鐵鉱石やあるが、粘性はない。	S1227 P18	2 7.5GY4/4暗灰	シルト	粘土-縮み-鐵鉱石やあるが、粘性はない。	S1227 P19	1 10YR5-6褐色	シルト	粘土質シルト	S1227 P20	2 10YR4-6褐色	シルト	縮まりはややあるが、粘性はある。	S1227 P21	1 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P22	2 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P23	1 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P24	2 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P25	1 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P26	2 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P27	1 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P28	2 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P29	1 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P30	2 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P31	1 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。	S1227 P32	2 10YR5-6褐色	シルト	灰化物を含む。縮まりはややあるが、粘性がない。				
S1227 P9	1 10YR5-6褐色	シルト	鉄鉱石の小ブロックを多量含む。	S1227 P10	2 10YR5-6褐色	シルト	鉄鉱石の小ブロックを多量含む。	S1227 P11	1 10YR5-28黄褐色	シルト	縫隙のブロックを多量含む。	S1227 P12	2 10YR5-28黄褐色	シルト	縫隙のブロックを多量含む。	S1227 P13	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P14	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P15	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P16	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P17	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P18	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P19	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P20	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P21	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P22	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P23	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P24	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P25	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P26	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P27	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P28	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P29	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P30	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P31	1 10YR5-28黄褐色	シルト	-	S1227 P32	2 10YR5-28黄褐色	シルト	-

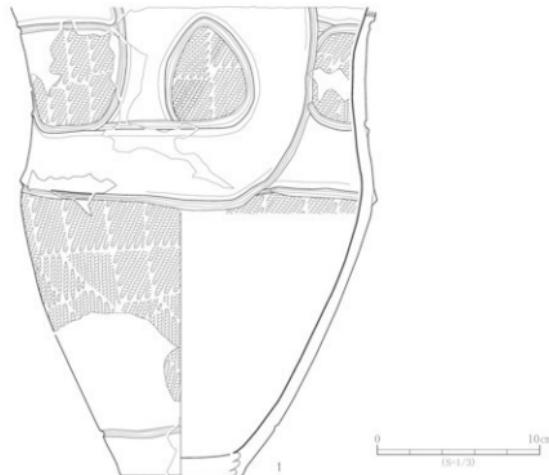
第162図 SI227竪穴住居跡掘り方平面図・断面図

る複式炉である。規模は長さ130cm、最大幅77cmで平面形はダルマ形である。土器埋設部には胴部下半から底部を欠損した深鉢が正位で埋設され、土器内部から敷石に用いられた扁平な礫が蓋をしたような状態で出土した。掘り込み部については1号炉と同様に存在していた敷石が取り除かれた可能性もある。

[その他の施設] 住居跡の中央からやや南東寄りの位置で埋設土器が2基検出された。西側を1号、東側を2号埋設土器とした。いずれも深鉢が正位の状態で埋設されており、土器の内部から2号炉の埋設土器と同様に敷石に用いられた大型の礫が蓋をしたような状態で出土している。断面観察及び敷石の状況から2号(古)→1号(新)の変遷が考えられる。1号は1号炉の主軸の延長線上に位置し、2号は2号炉の延長線上にあたることから、両者の関連が考えられる。

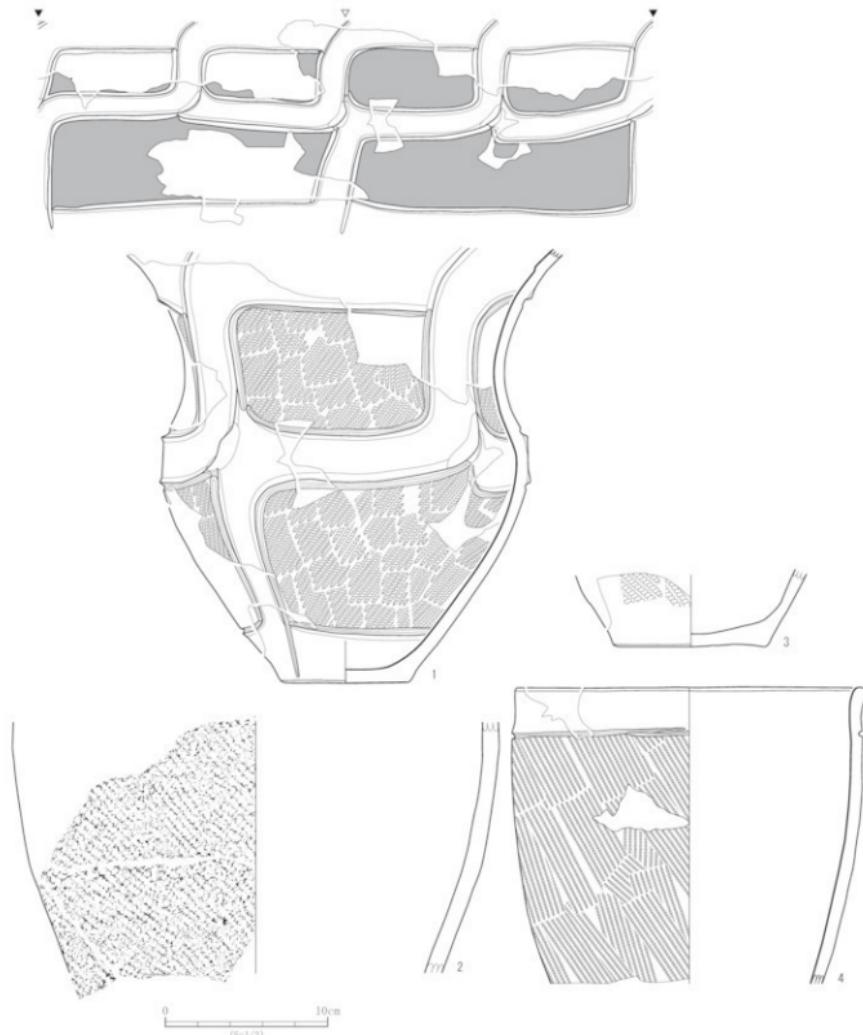
【出土遺物】堆積土及び床面直上より多量の縄文土器・石器が出土した。土器は第163～168図に図示した。土製品では土製円盤が1点出土しており、第167図に図示した。第163図1は1号炉の土器埋設部に埋設されていた深鉢である。口縁部と底部の一部を欠損する。胴部上半には隆沈線文区画の無文帯が横位に連結して「O」字状文となる。第164図1は1号埋設土器で口縁部を欠損している。隆沈線文区画により「クランク」状文が横位に連結して文様が展開する。4は2号炉¹の土器埋設部の土器で、口縁部直下に一条の沈線が巡る。2は2号埋設土器の深鉢である。胴部上半及び底部を欠損する。第167図2は住居北東側の壁際の床面から出土したものであり、胴部～底部を欠損した深鉢が傾倒しになって潰れた状態で出土した。胴部中位に最大径を持ち、口縁部が内済する楔形の器形をもつ深鉢で、口縁部直下には一条の隆線文が巡る。以下、第165図2・第166図1は口縁部に山形の小突起を有し、突起部には刺突文が施される。胴部上半に沈線文で「クランク」状文あるいは楕円区画文が描かれ、胴部中位には部分的に弧状隆線文または刻目を有する隆線文がみられる。第168図は破片資料である。1・2はいずれも波状口縁を呈し、口縁部直下に刺突文が施された隆線文が巡る。3～15は口縁部破片で口縁部または胴部上半に沈線文で文様が描かれる。5は「O」字状文の区画内に刺突文が充填される。

石器は計111点が出土した。器種別の内訳は石礫4点、石錐2点、石匙1点、不定形石器16点、石鏟2点、二次加工のある剥片9点、微細剥離痕のある剥片16点、剥片17点、石核3点、磨石16点、凹石13点、敲石4点、砥石4点、石皿3点、台石1点であり、その内の石錐3点、石匙1点、不定形石器5点、石鏟2点、磨石7点、凹石7点、砥石2点、台石1点を第169～174図に図示した。第169図1～3は石錐である。1は調整加工はやや粗く、裏面は基部の抉り作成の剥離が上部にまで達している。2は調整加工はやや粗く、裏面に素材面が残されている。3は調整加工は正面を中心に施されており、裏面には素材面を大きく残す。4は石匙である。刃部がつまみ部にやや斜行する。つまみ部には表裏に調整加工が施されるが、刃部は縁辺部を中心に裏面から正面に向かう急角度な二次加工によって作出されており、表裏には素材面を大きく残す。5～9は不定形石器である。5は両側縁に裏面から正面



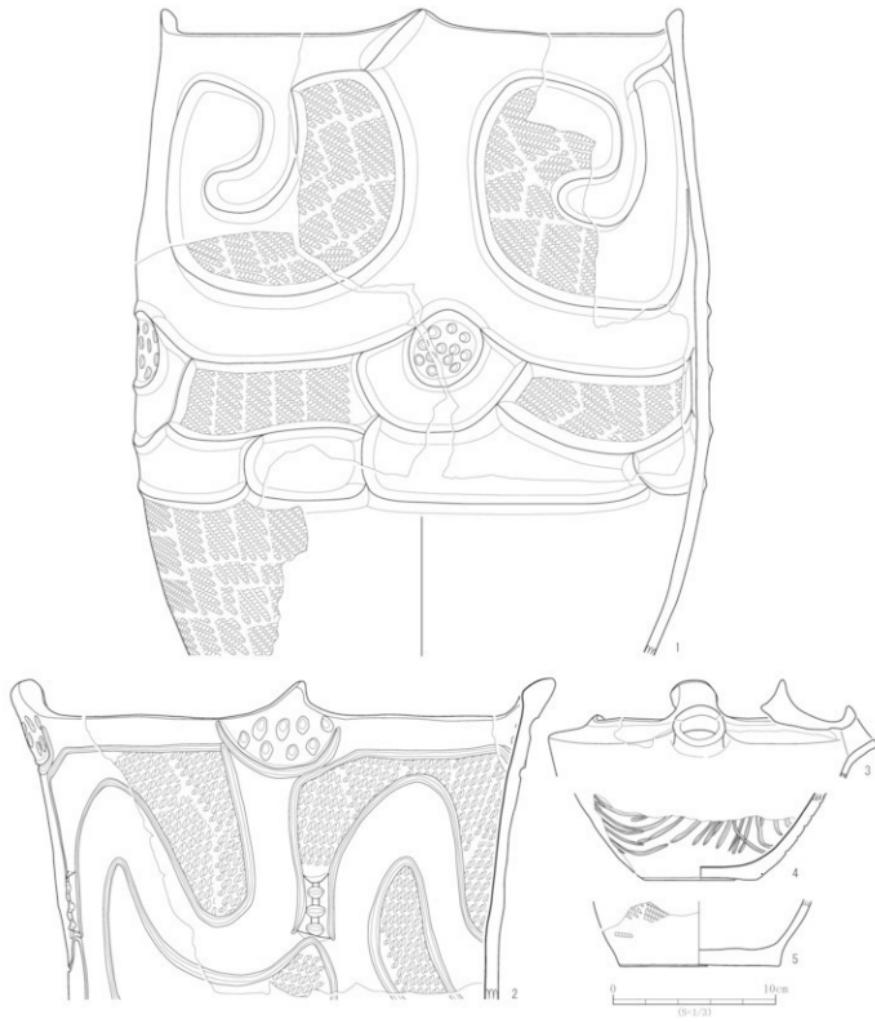
No.	登録番号	出土遺物	類	種	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-1000	S1227 1号炉	-	縄文土器	深鉢	胴部・縁沈線文区画・「O」字状文・BL縄文 肩部・ナゲ		42-9

第163図 S1227竪穴住居跡出土遺物（1）



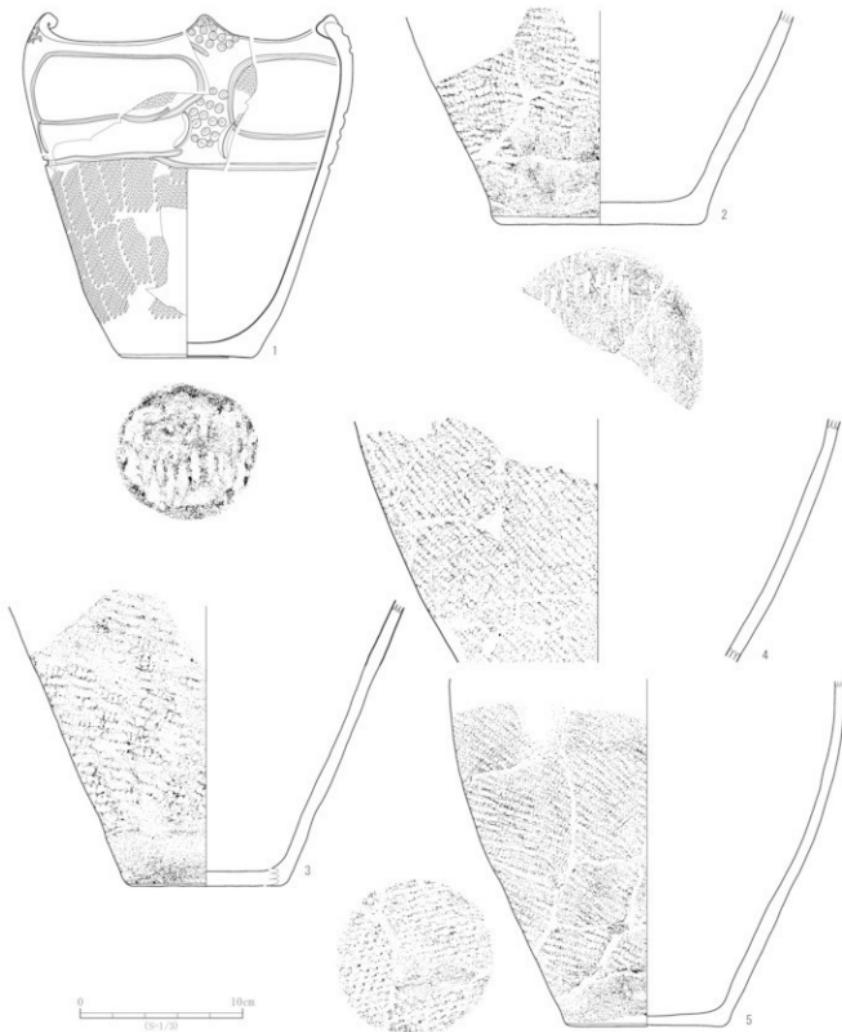
No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	認種	文様等	備考	写真図版
1	A-1091	S1227 19号出土物	-	織文土器	深鉢	側部-斜沈織文区画・「クラク」状文・底織文 前部-ナメ	6-10	
2	A-796	S1227 29号出土物	-	織文土器	深鉢	側部-UB織文	6-11	
3	A-1019	S1227 29号出土物	-	織文土器	深鉢	側部-UB織文 底部-ナメ	-	
4	A-1048	S1227 2号出土物	-	織文土器	深鉢	UB部-UB織文 側部-ナメ毛文	6-12	

第164図 S1227竪穴住居跡出土遺物（2）



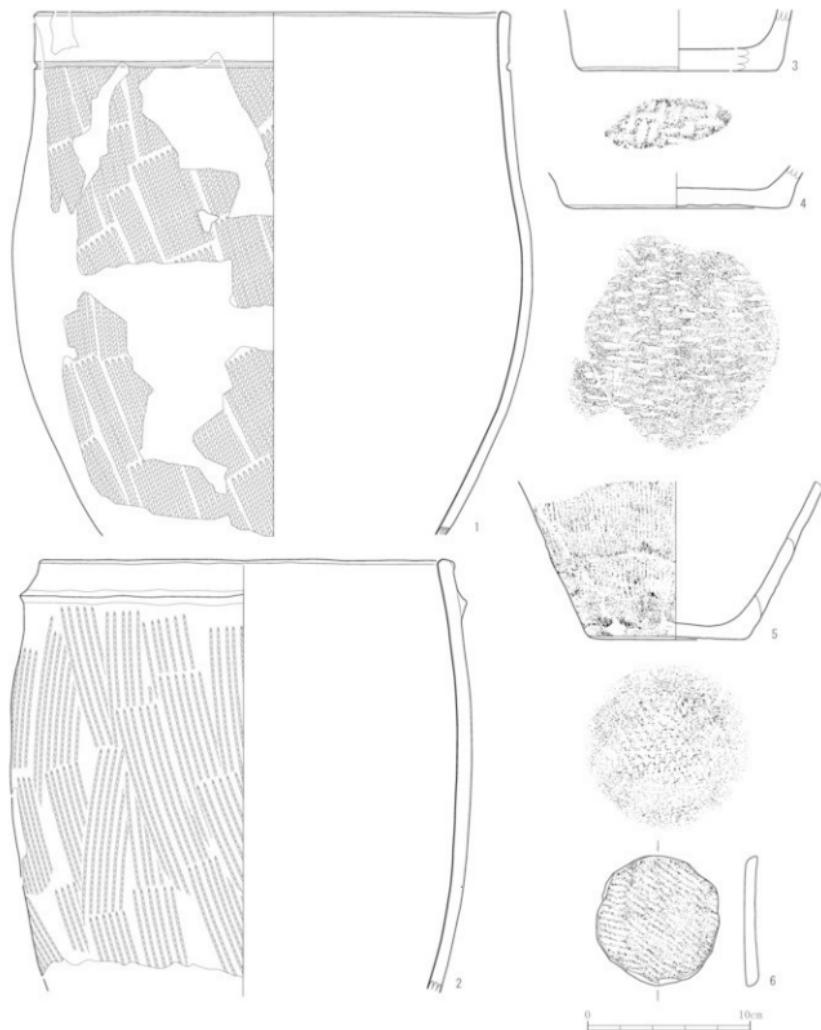
No.	登録番号	出土遺物	層・位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-799	SII227	1・2	陶文土器	深鉢	口縁部-山形突起・波状口縁・降沈縮文筋文区画・「O」字状文・LR縮文	43-1	
2	A-797	SII227	3	陶文土器	深鉢	口縁部-山形突起・波状文区画・有刷縮文・側突文・RL縮文	43-2	
3	A-847	SII227	4	陶文土器	注口付器	口縁部-柱状突起・小型小突起	43-3	
4	A-866	SII227	3	陶文土器	深鉢	側部-沈縮文・底部-十字	-	
5	A-848	SII227	4	陶文土器	深鉢	側部-RL縮文・底部-十字	-	

第165図 SII227竪穴住居跡出土遺物（3）



No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	認種	文様等	備考	写真図版
1	A-795	S1227	3	陶文土器	深鉢一底盤	1輪底-山形空板、底径11mm、浅腹文、斜升文、斜面文、斜面文、斜面文		43-5
2	A-803	S1227	1	陶文土器	深鉢	側部-LR輪文、底部-網代文		43-4
3	A-800	S1227	3	陶文土器	深鉢	側部-LR輪文、浅腹文		43-6
4	A-797	S1227	-	陶文土器	深鉢	側部-LR輪文		43-7
5	A-794	S1227	3	陶文土器	深鉢	側部-LR輪文、底部-網代文		44-1

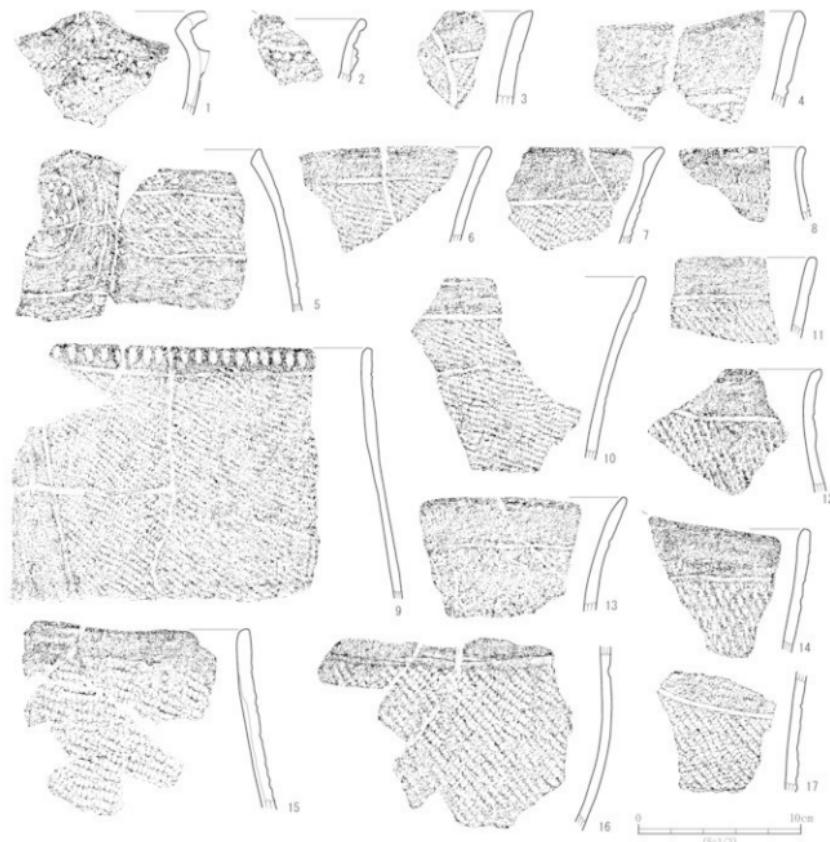
第166図 S1227竪穴住居跡出土遺物（4）



0 10cm
(S=1/20)

No	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	文様等	参考	写真図版
1	A-782	SI227	-	陶文土器	深鉢	口縁部-沈縞文、胴部-自然系文		44-9
2	A-785	SI227	床面	陶文土器	深鉢	口縁部-齊縞文、胴部-自然系文		44-2
3	A-865	SI227	-	陶文土器	深鉢	胴部-ナラ 肩部-網代織		-
4	A-889	SI227	3	陶文土器	深鉢	胴部-ナラ 肩部-網代織		44-5
5	A-1049	SI227	3	陶文土器	深鉢	胴部-ナラ系文 肩部-網代織		44-3
6	P-59	SI227	3	土製品	土製円盤	口縁文	83×78×7mm 51g	44-4

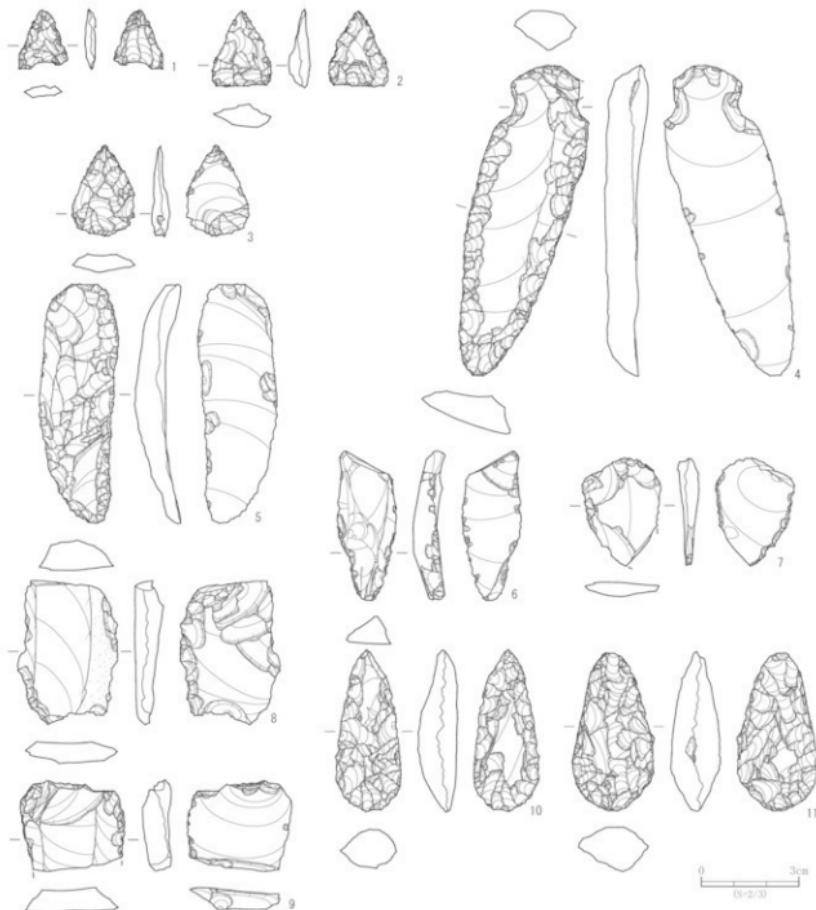
第167図 SI227堅穴住居跡出土遺物（5）



No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	記録	文様等	備考	写真図版
1	A-864	SI227	3	陶文土器	鉢	1168山形突起・楕状把手・直孔口縁・網契文	把手の腹内に泥化物有	45-6
2	A-861C	SI227	1	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文・丸網文・刺突文		45-7
3	A-843	SI227	-	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-8
4	A-842	SI227	3	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-9
5	A-844	SI227	3	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-10
6	A-845	SI227	4	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-11
7	A-860A	SI227	4	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-12
8	A-860B	SI227	4	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-13
9	A-846	SI227	4	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文・沈面文・側部・沈面文・LR網文		45-15
10	A-841	SI227	3	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-16
11	A-830	SI227	4	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-18
12	A-861B	SI227	1	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-14
13	A-804	SI227	3	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文	器底の摩滅が激しい。	45-17
14	A-861A	SI227	1	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-19
15	A-862	SI227	3	陶文土器	深鉢	1168山形突起・直孔口縁・網契文		45-20
16	A-858	SI227	3	陶文土器	深鉢	側部・沈面文・LR網文		45-21
17	A-863	SI227	1	陶文土器	深鉢	側部・沈面文・LR網文		45-22

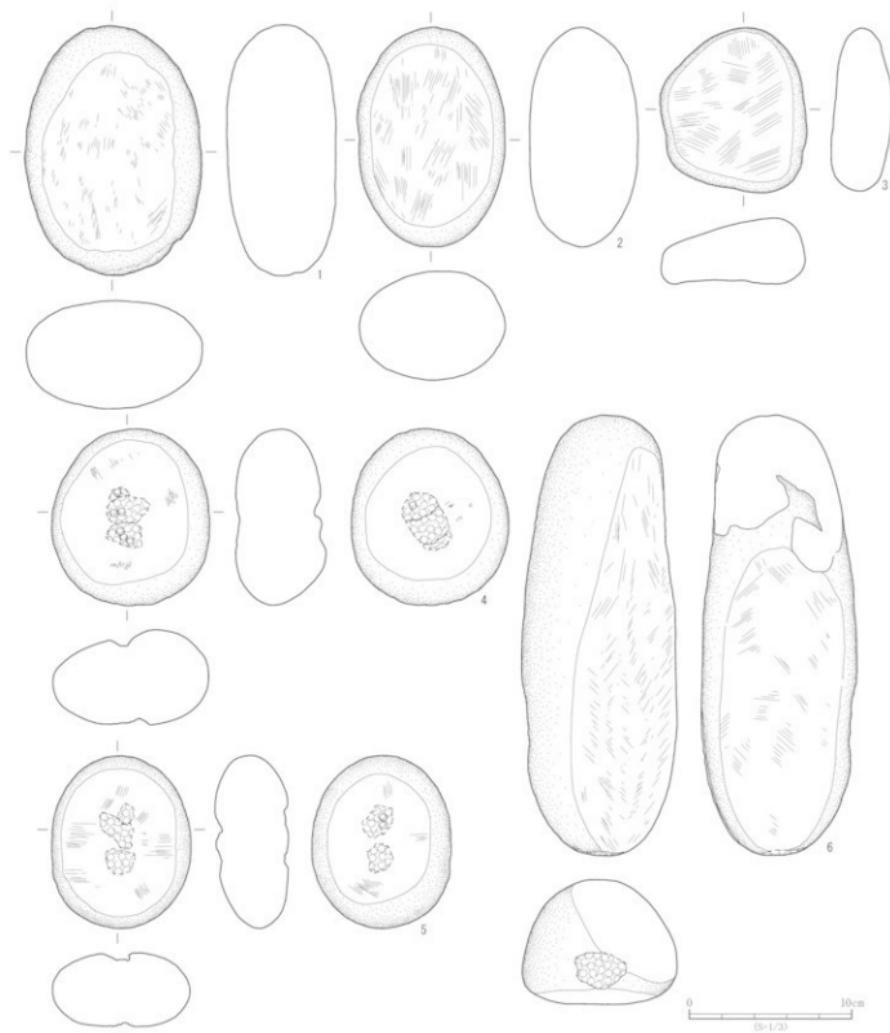
第168図 SI227竪穴住居出土遺物（6）

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



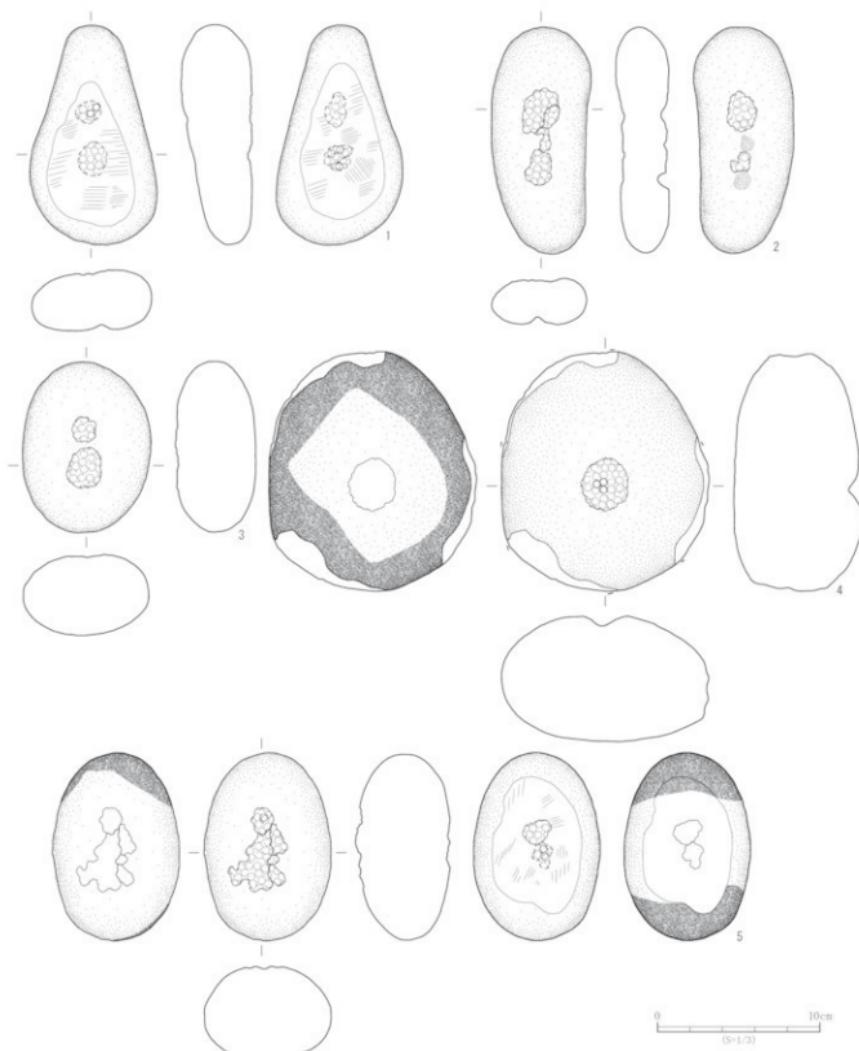
No.	登錄番号	出土遺物	層位	種別	器種	石種	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真版
1	Ka-a3-7	S1227P9	1	打製石器	石核	珪質頁岩	17.5×15×0.3	0.66	円錐形。	45-1
2	Ka-a2-2	S1227	4	打製石器	石核	珪質頁岩	23.5×18×0.7	1.8	平錐形。	45-2
3	Ka-a2-2	S1227 25cm以下土内	-	打製石器	石核	玉髓	27×19×0.5	1.9	円錐形。	45-3
4	Ka-d11-4	S1227	4	打製石器	石核	珪質頁岩	9.5×40×1.4	35.2	範型。刃部斜行。石刃状焼片素材。	45-4
5	Ka-eII-16	S1227	4	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	21×24×1.4	15.7	刮器。石刃状焼片素材。	45-5
6	Ka-eI-17	S1227	3	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	4.5×18×1.0	0.57	刮器。石器の兼用欠損品的可能性あり。	45-6
7	Ka-eI-18	S1227	3	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	(3.2)×24×0.6	(3.5)	刮器。下端膨らむ。	45-7
8	Ka-eI-19	S1227	3	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	4.3×30×0.9	9.8	刮器。	45-8
9	Ka-eI-20	S1227	3	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	(2.8)×(32)×(9.9)	(7.6)	刮器。下端欠損。次相面に加工あり。	45-9
10	Ka-f1-1	S1227 1号堆塗面	-	打製石器	石核	珪質頁岩	49×20×1.2	30.7	平面加工。	45-10
11	Ka-f2-1	S1227	3	打製石器	石核	珪質頁岩	48×25×1.5	36.2	両面加工。	45-11

第169図 S1227堅穴住居跡出土遺物（7）



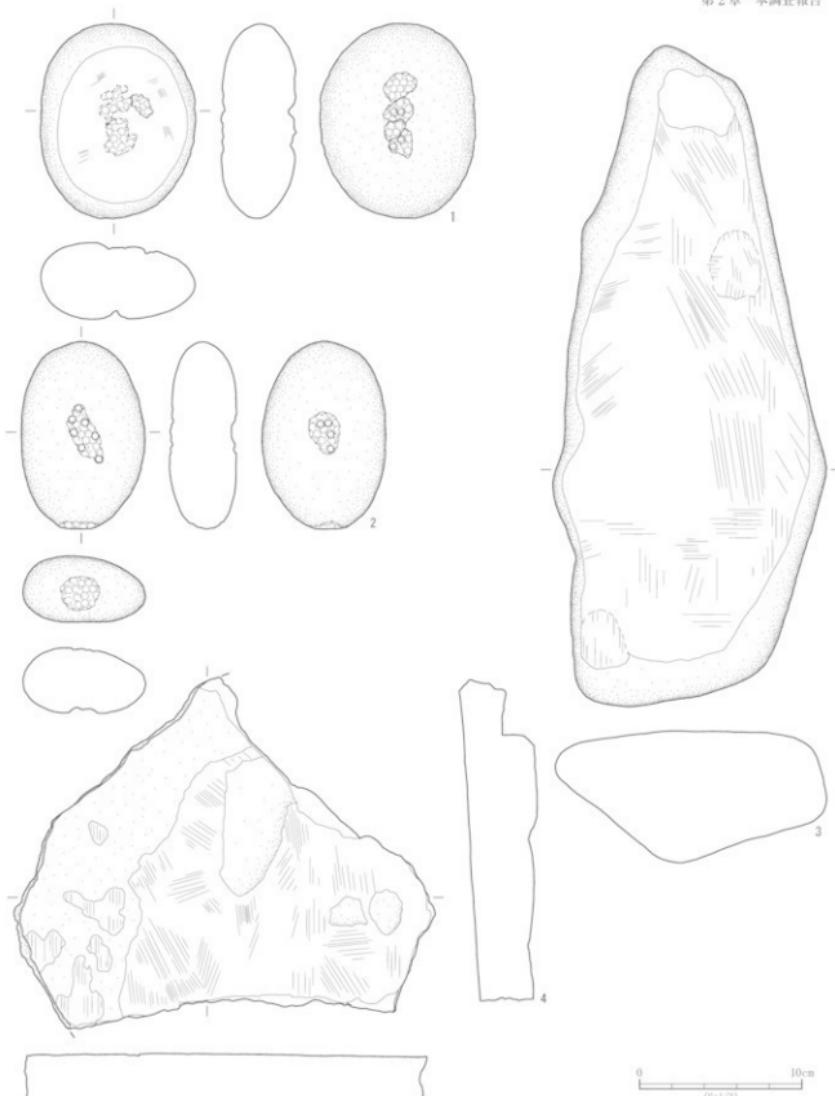
No.	登錄番号	出土遺構	層位	種別	器種	石種	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	図考	写真図版
1	Kc-u-10	SI227	3	搬石器	搬石	安山岩	14.4×10.5×6.4	1,439.0	図1+0,	⑤-12
2	Kc-u-11	SI227	3	搬石器	搬石	安山岩	13.4×9.0×6.6	1,064.0	図1+0,	⑤-13
3	Kc-u-12	SI227搬石	-	搬石器	搬石	安山岩	10.0×8.9×3.0	498.0	図1+0,	⑤-14
4	Kc-u-13	SI227搬石	-	搬石器	搬石	安山岩	10.8×9.6×3.8	725.0	図1+1, 263+3,	⑤-15
5	Kc-u-14	SI227	4	搬石器	搬石	安山岩	10.5×8.5×4.5	505.0	図1+1, 263+2,	⑤-16
6	Kc-u-15	SI227搬石	-	搬石器	搬石	安山岩	26.9×9.4×7.6	(2,320.0)	図1+1, 亂下1, 亂面にハシケによる矢頭あり。	⑤-19

第170図 SI227堅穴住居跡出土遺物（8）



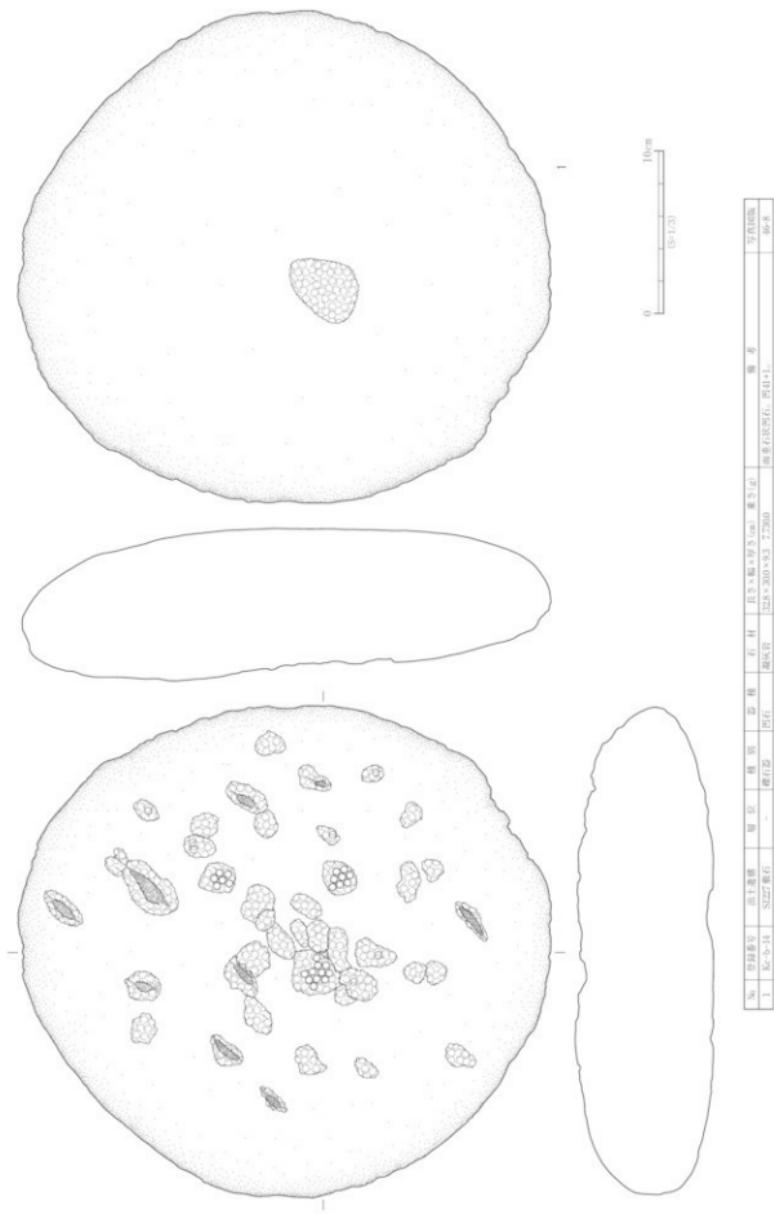
第171図 SI227堅穴住居出土遺物（9）

No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-a-10	SI227 P3	-	搬石器	搬石	ダイサイト	13.4×7.7×4.3	567	P1-1, P2-2,	図-17
2	Kc-b-8	SI227	振り方	搬石器	搬石	安山岩	13.7×6.1×3.2	3750	P2-2,	図-18
3	Kc-b-9	SI227	4	搬石器	搬石	安山岩	10.4×7.8×4.9	5310	P2-0,	図-1
4	Kc-b-10	SI227 搬石	-	搬石器	搬石	安山岩	14.6×14.1×7.8	19200	P1-0, 振刃部熱熱による風化欠損, 熱熱痕あり,	図-2
5	Kc-b-11	SI227	4	搬石器	搬石	安山岩	11.5×7.8×5.7	6640	P1-2, 振0+1, 熱熱痕あり,	図-3

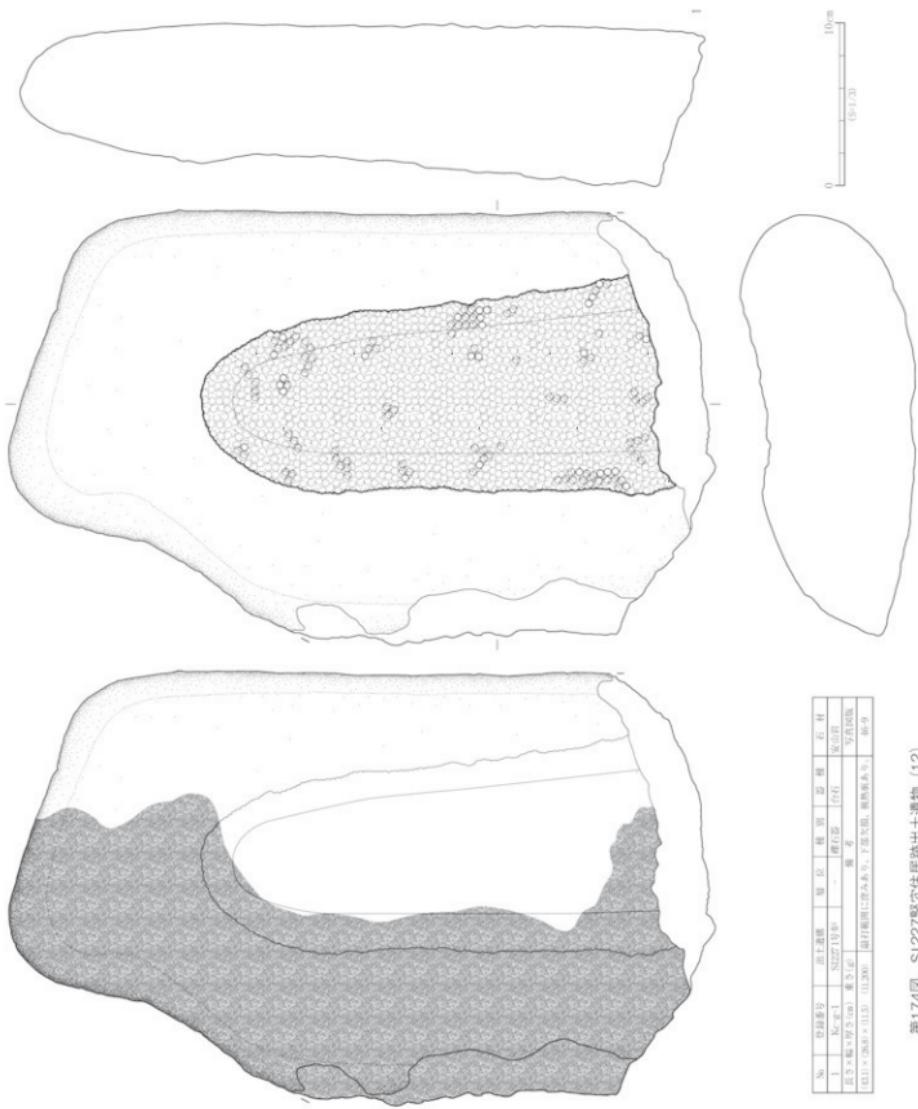


No.	登録番号	出土遺物	層 級	種 別	器 様	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真回数
1	Kc-h-12	S1227骨1	振り刃	柳石器	凹石	安山岩	11.8×9.5×4.7	6330	四3-4, 骨1+0,	06-4
2	Kc-h-13	S1227骨石	-	柳石器	凹石	安山岩	10.8×7.0×2.8	4090	四3-1, 骨1+1,	06-5
3	Kc-d-2	S1227	3	柳石器	凹石	安山岩	40.7×16.8×8.4	770000	四3+0, 表面に部分欠損あり。	06-6
4	Kc-d-3	S1227骨石	-	柳石器	凹石	安山岩	21.0×12.9×14.7	31200	四3+0, 部分破片。	06-7

第172図 S1227堅穴住居跡出土遺物 (10)



第173図 S1227壁穴住居出土遺物（11）



第174図 S1227堅穴住跡出土遺物 (12)

に向かう二次加工により刃部が作出された削器である。下端部が先細りとなる。6は素材の両側縁下部を中心に二次加工を施して刃部を作出した削器であるが、裏面下端部に下方向からの剥離面が観察されることから錐の欠損品の可能性もある。7～9も削器であり、器体の側縁部に連続する二次加工によって刃部が作出されている。10・11は石鏃である。10は素材面を一部残す半両面加工の石鏃である。調整加工は裏面は縁辺部を中心に平坦な剥離が施されており、刃部の縦断面形は片刃状である。11は裏面に素材のごく一部を残すが両面加工として捉えた。刃部の縦断面は両刃に近い形状を呈する。第170図1～6・第171図1は磨石である。1～3はやや扁平な楕円窪の片面に研磨痕が観察され、4～6・第171図1は研磨痕と共に研磨よりも古い凹みや敲打痕が観察される。第171図2～5・第172図1・2・第173図1は凹石である。第171図2～4はいずれもやや扁平な楕円窪の片面あるいは両面に1から2ヶ所の凹みが観察される。第171図5・第172図1は凹みよりも古い研磨痕が観察される。第172図2は表裏1ヶ所ずつの凹みと共に下端部に敲打痕も観察される凹石である。第173図1は大形の扁平窪を素材としてその正面に39ヶ所、裏面に1ヶ所の凹みが認められるもので、所謂雨垂れ石とも呼ばれる凹石である。第172図3・4は砥石である。4は欠損品であるが、扁平窪の平坦な片面に顕著な砥面が観察される。第174図1は台石である。下部を欠損するが、大形扁平窪の片面に敲打による凹みが顕著に認められる。敲打痕のみであることから台石としたが、雀みを持つ石皿の未製品である可能性も考えられる。

2) 土 坑

SK224土坑（第175図、図版14） W300・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-2°-Eである。規模は長軸62cm、短軸55cm、深さ54cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が7点出土した。

SK229土坑（第175図、図版14） W310～320・N20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-76°-Wである。規模は長軸116cm、短軸92cm、深さ7～17cmである。壁面はやや急角度で立ち上がり、断面形は幅広の皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は、縄文土器が22点出土した。石器は磨石1点と凹石1点が出土し、第183図1・2に図示した。1は両側面に使用面が観察され、敲打を併せ持つ。2は片面の平坦部に2ヶ所の凹みが認められる。

SK230土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。SI223と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-52°-Wである。規模は長軸98cm、短軸78cm、深さ21～25cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器8点、石器は微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点が出土した。

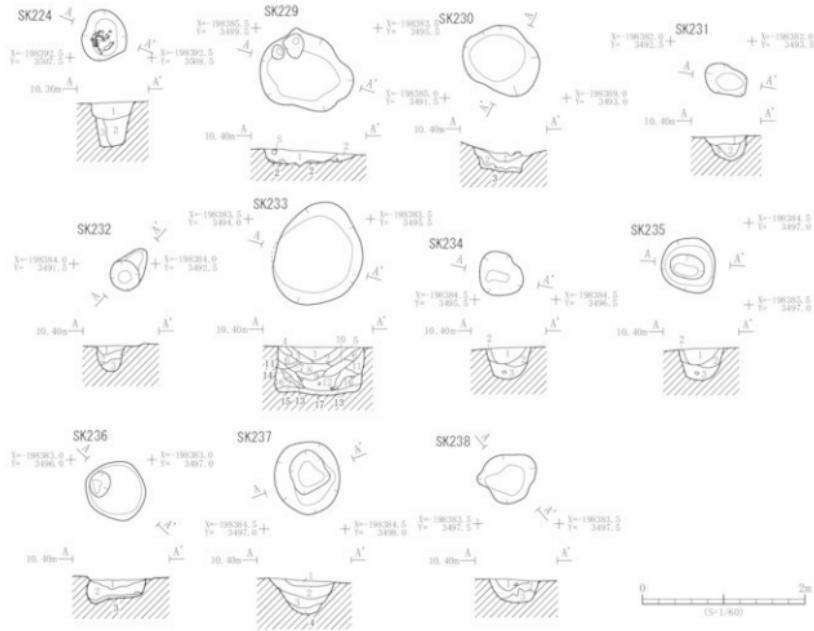
SK231土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。P249と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-76°-Wである。規模は長軸54cm、短軸38cm、深さ30cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が2点出土した。

SK232土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-41°-Eである。規模は長軸57cm、短軸38cm、深さ5～35cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形である。底面には段差があり、南西側が低く北東側が高い。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が5点出土した。

SK233土坑（第175図、図版14） W310・N20グリッドに位置する。SK271と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-17°-Eである。規模は長軸127cm、短軸105cm、深さ52～59cmである。壁面は垂直に立ち上がり、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は17層に分層される。遺物は、縄文土器が104点出土しており、そのうち3点を第180図1～3に図示した。1は深鉢の口縁部で波状口縁の突起中央に貫通孔を有する。2は蓋の胴部で外面に赤彩が残り、蓋の可能性もある。3は隆沈線文による区画文である。石器は二次加工のある剥片1点と剥片2点が出土した。

SK234土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。平面形は不整円形で、規模は径53cm、深さ41cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面は鉢鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が6点出土した。

SK235土坑（第175図）W310・N20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は径65cm、深さ34~42cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が8



第175図 SK224・229～238土坑平面図・断面図

点出土しており、1点を第180図6に図示した。口縁部直下を巡る隆線に連なる橋状の把手を有する。

SK236土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。平面形は不整な円形で、規模は径74cm、深さ20~30cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。底面はほぼ平坦であるが、北西側に浅い掘り込みがある。堆積土は3層に分層され、遺物は出土していない。

SK237土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。平面形は梢円形で、長軸方向はN-23°-Wである。規模は長軸90cm、短軸80cm、深さ24~40cmで、壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形である。底面には段差があり、南側から北側に緩やかに落ち込んでいる。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器8点、石器は不定形石器1点、二次加工のある剥片2点、微細調離痕のある剥片3点、剥片10点、磨石1点、四石1点が出土し、磨石1点と四石1点を第183図3・4に図示した。3は表裏面に研磨痕が観察される。なお、正面には研磨前に施された敲打痕が中央に残る。4は表裏の中央に2ヶ所ずつの凹みが認められる。

SK238土坑（第175図） W310・N20グリッドに位置する。平面形は不整な梢円形で、長軸方向はN-80°-Eである。規模は長軸75cm、短軸60cm、深さ27cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は鉢鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が3点出土し、そのうち1点を第180図7に図示した。

SK241土坑（第176図） W300・N20グリッドに位置する。SK264と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な梢円形で、長軸方向はN-44°-Wである。規模は長軸95cm、短軸60~85cm、深さ25~35cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は鉢鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が26点出土した。

SK246土坑（第176図） W310・N10グリッドに位置する。平面形は梢円形で、長軸方向はN-52°-Wである。規模は長軸78cm、短軸56cm、深さ30cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形だが西側に段を持つ。底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は、縄文土器が3点出土した。

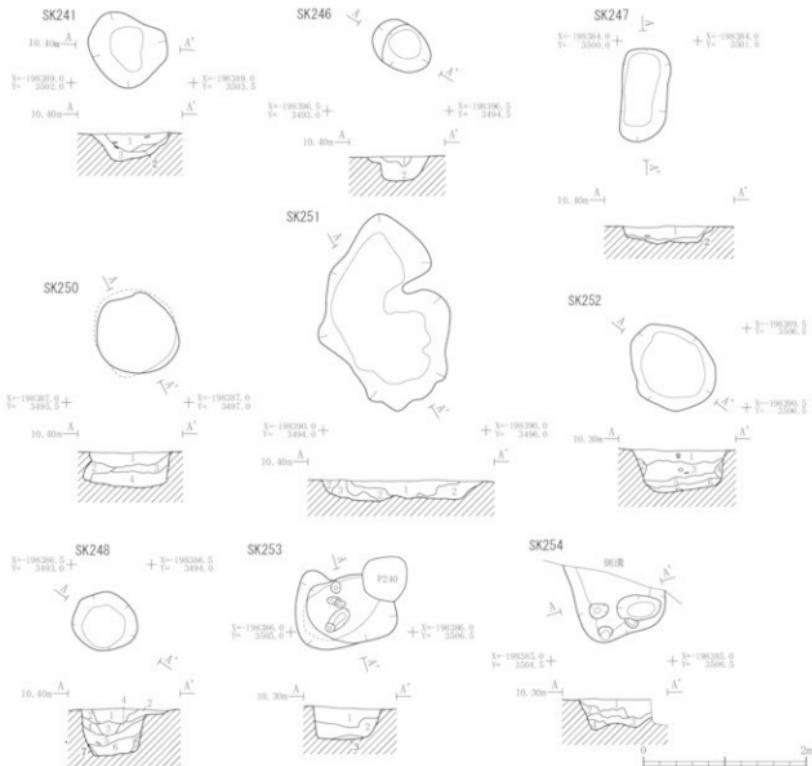
SK247土坑（第176図） W300・N20グリッドに位置する。平面形は梢円形で、長軸方向はN-5°-Eである。規模は長軸114cm、短軸58cm、深さ21cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は、縄文土器が27点出土した。

SK248土坑（第176図、図版14） W310・N20グリッドに位置する。SK265と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向はN-56°-Wである。規模は長軸80cm、短軸70cm、深さ50~60cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は7層に分層される。遺物は、縄文土器14点、剥片1点が出土した。

SK250土坑（第176図、図版14） W310・N20グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、規模は径98cm、深さ43cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状で、底面には若干凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器が39点が出土した。石器は石砲1点が出土し、第183図5に図示した。器体の横断面形はカマボコ状である。器体長軸の下端部に作出された刃部は、表裏に施された二次加工によって作出される。表面に黒色付着物、裏面に光沢が観察された。

SK251土坑（第176図） W310・N20グリッドに位置する。平面形は不整な梢円形で、長軸方向はN-8°-Wである。規模は長軸240cm、短軸95~160cm、深さ18~26cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器16点、砥石1点が出土した。

SK252土坑（第176図） W300・N10~20グリッドに位置する。SK266と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向はN-48°-Wである。規模は長軸120cm、短軸100cm、深さ45~50cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は北東側に傾斜する。堆積土は6層に分層される。遺物は、縄文土器が75点出土し、2点を第180図4・5に図示した。4は口縁部が内傾して梯形となる深鉢で、口縁部直下に沈線文が巡る。



遺構	層位	土 色	性 性	備 考	遺構	層位	土 色	性 性	備 考
SK241	1	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物と礫塊の小ブロックをわずかに含む。	SK251	1	10YR5-2-8黄褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物をわずかに含む。
	2	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックを多く含む。
	3	-	-	炭化物色シルトブロックと礫層のブロック。炭化物を含む。		3	-	-	炭層色粘土層とシルトブロックを少額含む。
SK246	1	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。	SK252	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層色粘土層とシルトブロックを少額含む。
	2	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層色粘土層とシルトブロックを少額含む。
SK247	1	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。	SK253	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭化物を含む。		3	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK250	1	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。	SK254	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭化物を含む。		3	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK248	1	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		4	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK249	1	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-20-4V黃褐色	シルト	炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK251	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK252	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK253	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
SK254	1	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	2	10YR5-2-8V黃褐色	シルト	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
	3	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。
4	-	-	-	炭層のブロックと炭層のブロックを含む。		-	-	-	炭層のブロックと炭化物を含む。

第176図 SK241・246~248・250~254土坑平面図・断面図

5は深鉢の胴部破片で隆沈線文による「O」字状文の区画内に刺突文が充填される。石器は石鑓1点、石砲1点、剥片4点、凹石1点が出土し、石鑓1点、石砲1点、凹石1点を第184図1～3に図示した。1は先端部及び左脚部を欠損する石鑓である。側縁が緩やかに外反し、基部に施された抉りによって脚部は尖頭状を呈する。2は石砲である。縦断面は基本的には対称形であるが、刃部は裏面に残された素材面によりやや片刃状を呈する。3は凹石である。やや扁平な円錐の平坦面に凹みが認められ、正面に3ヶ所、裏面に1ヶ所ある。また、広い範囲に被熱痕が観察された。

SK253土坑（第176図、図版14） W300・N20グリッドに位置する。P240と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-80°-Eである。規模は長軸125cm、短軸85～100cm、深さ35～40cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器1点、二次加工のある剥片1点、剥片1点が出土し、縄文土器1点を第180図8に図示した。深鉢の胴部破片で、沈線文による区画内に縦位の沈線文が施されている。

SK254土坑（第176図） W 300・N 20グリッドに位置し、北側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形または隅丸長方形と思われる。規模は東西110cm、南北105cm、深さ30～40cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器11点、土製円盤1点が出土し、土製円盤1点を第180図9に図示した。胴部破片を打ち欠いて整形している。

SK255土坑（第177図） W 320・N 10グリッドに位置し、西側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形または隅丸長方形と思われ、検出した規模は南北83cm、東西62cm、深さ50cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は5層に分層される。遺物は、土器・石器が出土しており、縄文土器30点の内の1点を第180図10に図示した。石器は剥片8点、石皿1点が出土した、第185図に石皿を図示した。大型扁平蝶の表裏両面に皿状の窪みを持つ使用面が認められる石皿である。表裏の使用面には使用前の敲打痕も観察される。

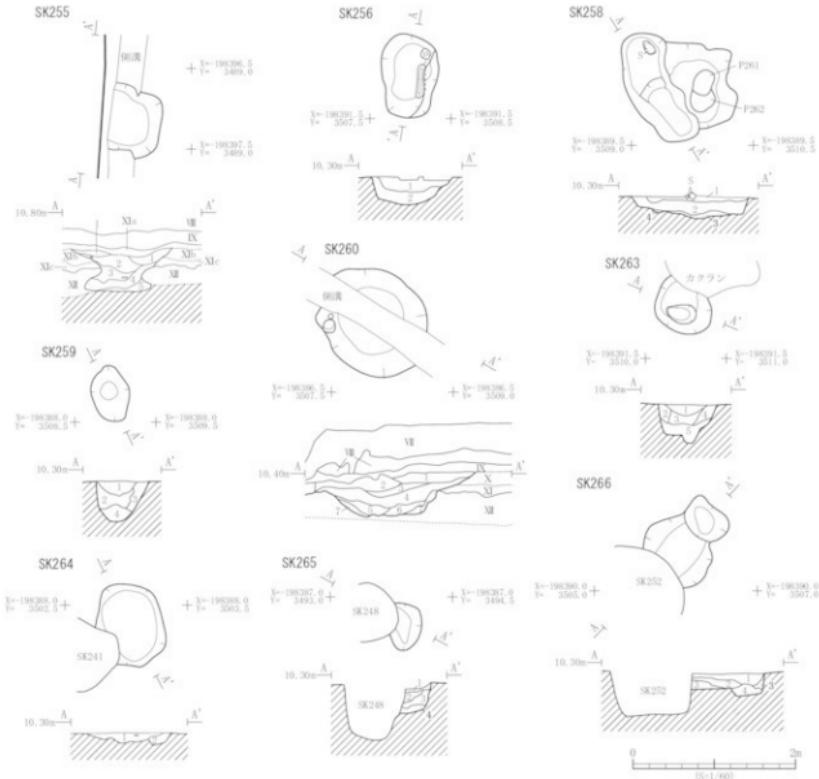
SK256土坑（第177図、図版14） W300・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-4°-Eである。規模は長軸102cm、短軸70cm、深さ35cmで壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は擂鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は、縄文土器が22点出土し、そのうち1点を第180図12に図示した。

SK258土坑（第177図） W290～300・N20グリッドに位置する。平面形は不整台形で、規模は東西・南北ともに90～130cm、深さ11～27cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器が19点出土した。

SK259土坑（第177図、図版14） W300・N20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-8°-Wである。規模は長軸67cm、短軸46cm、深さ50cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器が17点出土した。

SK260土坑（第177図） W 300・N 20グリッドに位置する。本遺構は当初の調査区の北壁際で検出されたことから拡張を行った。そのため拡張前に掘削した側溝により中央が削平されている。平面形は楕円形で、長軸方向はN-58°-Wである。規模は長軸135cm、短軸120cm、深さ32～50cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は7層に分層される。底面の西側から拳大の蝶が検出されている。遺物は、縄文土器9点、石器は二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、石核1点が出土した。

SK263土坑（第177図、図版15） W290・N10グリッドに位置し、北側が掻乱で削平されている。平面形は径75cmのほぼ円形で、深さ35～49cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面の南側にピット状の掘り込みがある。堆積土は5層に分層される。遺物は、縄文土器が3点出土し、そのうち1点を第180図11に図示した。胴部中位に最大径をもつ深鉢で、隆沈線区画文様が展開している。



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK255	1	3IV-28オリーブ色	粘土質シルト	壁面の小ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。	SK260	5	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量、壁面のブロックを多量含む。
	2	3IV-28オリーブ色	粘土質シルト	炭化物を多量含む。グライ化している。		7	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を多量含む。
	3	-	-	炭化物と凝灰のブロックを少量含む。グライ化している。		7	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面土全体。
	4	230YR-1チャコル色	粘土質シルト	炭化物と凝灰のブロックを少量含む。グライ化している。		8	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面土全体。
	5	-	-	壁面土全体。オリーブ色粘土質シルトを少量含む。グライ化している。		9	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面土全体。
SK256	1	-	-	褐色粘土質シルト・黃褐色粘土・灰褐色粘土を含む。	SK263	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面土全体。灰褐色シルトの小ブロックを含む。
	2	-	-	1層に断続する。粘性が増し、炭化物を含む。		2	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面土全体。灰褐色シルトの小ブロックを含む。
SK258	1	10YR4-3に近い黄褐色	シルト	程、炭化物・硬土を含む。	SK264	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面のブロックを少量、炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4-4褐色	シルト	褐色粘土が小ブロック状に入る。		2	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	3	10YR5-6褐色	砂質粘土	-	SK265	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
SK259	4	10YR4-4褐色	シルト	-		2	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面のブロックを多量含む。
	1	10YR4-3に近い黄褐色	粘土質シルト	炭化物・硬土を含む。		3	10YR5-3C-3に近い黄褐色	シルト	壁面ブロックを多量含む。
	2	10YR4-4褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。		4	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面ブロックを多量含む。
SK260	3	10YR5-6褐色	粘土質シルト	炭化物粘土が炭化物と共に小ブロック状に入る。	SK266	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	4	10YR4-4褐色	粘土質シルト	2層に断続するが、粘性が増す。		2	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物が少量、壁面ブロックを多量含む。
	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。		3	10YR5-3C-3に近い黄褐色	シルト	壁面ブロックを多量含む。
	2	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。		4	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面ブロックを少量含む。
SK263	3	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物と硬土を含む。	SK267	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	4	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物と壁面のブロックを少量含む。		2	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	1	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。		3	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面ブロックを少量含む。
	2	10YR5-2W黄褐色	シルト	炭化物と壁面のブロックを少量含む。		4	10YR5-2W黄褐色	シルト	壁面ブロックを少量含む。

第177図 SK255・256・258~260・263~266土坑平面図・断面図

SK264土坑（第177図） W300・N20グリッドに位置する。SK241と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-17°-Wである。規模は長軸105cm、短軸80cm、深さ5～13cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は、縄文土器が4点出土した。

SK265土坑（第177図） W310・N20グリッドに位置する。SK248と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-7°-Wである。規模は長軸58cm、短軸38cm、深さ33cmである。壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器が1点出土した。

SK266土坑（第177図） W300・N20グリッドに位置する。SK252と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整な楕円形と思われ、長軸方向はN-37°-Eである。検出した規模は長軸90cm、短軸45～90cmである。底面には段差があり、北東側が一段低く深さは17～28cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は柄杓状である。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器が2点出土した。

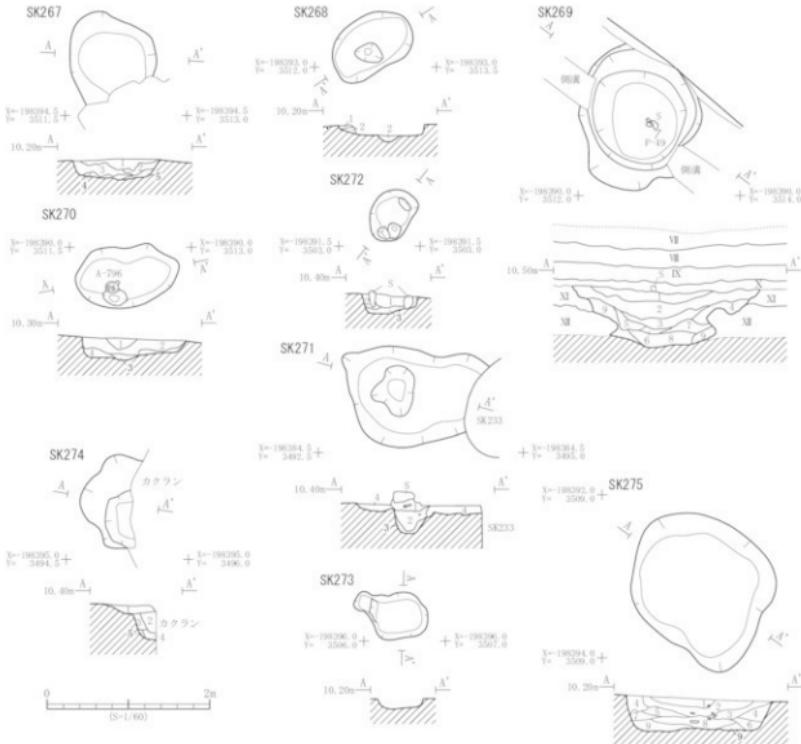
SK267土坑（第178図） W290・N10グリッドに位置し、南側は搅乱で削平されている。平面形は円形と思われ、規模は径105cm、深さ23cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は5層に分層される。遺物は出土していない。

SK268土坑（第178図） W290・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-61°-Eである。規模は長軸108cm、短軸70cm、深さ10cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面のほぼ中央にピット状の落ち込みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK269土坑（第178図、図版16） W290・N20グリッドに位置する。当初の調査区の北壁際で検出されたことから拡張を行った。上端の一部が検出できなかったが平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-12°-Eである。規模は長軸180cm、短軸150cm、深さ73cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフ拉斯コ状で、底面は擂鉢状となり中央部分は緩やかに落ち込む。堆積土は9層に分層される。遺物は、縄文土器が115点出土し、そのうち3点を第181図1～3に図示した。土製品は土偶が底面から出土し、第181図4に図示した。1は深鉢の口縁部破片で、口縁部直下に沈線文が巡る。2・3は深鉢の胴部破片で隆沈線文区画による文様が構成され、3は鱗状の隆線文が施される。4の土偶は、頭部・両腕部・右脚部を欠損する。胸部から胴部のつくりは扁平であり、下半身にかけてやや細くなる。乳房部分には粘土が貼付され、それぞれ外側から内回りの方向に刺突文が施される。腹部では両乳房の間を通る中軸線上に隆線文が貼付され、中央部分はさらにその上に粘土が貼付されている。この隆線沿いには沈線が巡り、外側には2列の円形刺突文が施され胸部の刺突文と連続する。脚部は短く外側に向かって「ハ」の字状に踏ん張る形状のもので、先端部分には沈線で指が表現されている。石器は二次加工のある剥片1点、剥片2点が出土した。

SK270土坑（第178図、図版16） W290・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-82°-Eである。規模は長軸128cm、短軸75cm、深さ13～27cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は、下層から注口土器が口縁部を下にした状態で出土しており、第180図13に図示した。口縁部の一部を欠損するが、胴部中位に最大径をもつ算盤玉状で、注口から口縁部に連結する橋状の把手が付き、反対側の口縁部には貫通孔を有する。文様帯は注口部直下から胴部の棟線上に巡る隆線文を境に上半は無文部分となり、胴部下半にLR縄文が施される。

SK271土坑（第178図） W310・N20グリッドに位置する。SK233と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-85°-Eである。検出した規模は長軸方向175cm、短軸125cm、深さ10～35cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面の西側にはピット状の掘り込みがある。堆積土は4層に分層される。検出面でやや大型の礫が検出された。遺物は、縄文土器20点、剥片2点が出土し、縄文土器1点を第181図5に図示した。深鉢口縁部で沈線区画文で文様が構成される。



遺構	部位	土色	土性	備考
SK267	1	SY4-196色	粘土質シルト	酸化鉄を軽度に含む。グリーン化している。
	2	-	-	オーバーレイシルト。粘土質シルトと褐色粘土質シルトの間に、酸化物を軽度に含む。
SK268	3	SY4-196色	粘土質シルト	オーブン色シルト。粗砂を混じる粒状に含む。
	4	SY6-34ワープ黄色	粘土質シルト	粘土質シルトと粗砂を混じる粒状に含む。
	5	SY6-34ワープ黄色	粘土質シルト	やや砂質。酸化鉄を粒状に含む。
SK269	1	10YR6-26黄褐色	シルト	-
	2	10YR6-26黄褐色	シルト	隕層のプロックを多量含む。
SK270	1	10YR6-26黄褐色	シルト	10YR6-26-26黄褐色シルト。
	2	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	3	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物と隕層のプロックを含む。
	4	-	-	10YR6-26黄褐色シルトと隕層土を含む。
	5	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物と隕層土を含む。
	6	-	-	隕層土。酸化物を含む。
SK271	7	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物・隕層土を含む。
	8	10YR4-26黄褐色	シルト	酸化物・隕層土を含む。
	9	-	-	酸化物色シルトと隕層土。土塊が出土。
	10	-	-	酸化物色シルトと隕層土。
SK272	1	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物をわずかに含む。
	2	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物・隕層土を含む。
	3	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を多量含む。
	4	10YR6-26黄褐色	シルト	隕層のプロックを多量含む。
	5	10YR4-6褐色	粘土質シルト	粘灰褐色和土が焼成鉄を伴う。
	6	10YR5-6褐色	粘土質シルト	黒褐色和土と灰褐色粘土をプロック状に含む。
	7	10YR5-6褐色	シルト	黒褐色和土と灰褐色粘土をプロック状に含む。
	8	10YR6-2-6ZK褐色	シルト	隕層土。隕層色シルトと灰褐色シルトを含む。
	9	-	-	隕層土。隕層色シルトの小プロックを多量含む。
SK273	1	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物をわずかに含む。
	2	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物を多量含む。
	3	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	4	-	-	隕層土。隕層色シルトと隕層のプロックを含む。
	5	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を多量含む。
	6	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物を多量含む。
	7	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	8	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物と隕層のプロックを含む。
	9	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物と隕層のプロックを多量含む。
SK274	1	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	2	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	3	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	4	-	-	酸化物色シルトと隕層土を含む。
	5	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	6	-	-	酸化物を含む。
	7	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	8	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	9	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
SK275	1	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	2	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	3	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	4	-	-	酸化物を含む。
	5	10YR6-26黄褐色	シルト	酸化物を含む。
	6	-	-	酸化物を含む。
	7	-	-	酸化物を含む。
	8	10YR4-26黄褐色	シルト	酸化物・土器片を含む。
	9	10YR5-26黄褐色	シルト	酸化物と隕層のプロックを多量含む。

第178図 SK267~275土坑平面図・断面図

SK272土坑（第178図、図版15） W300・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-32°-Eである。規模は長軸68cm、短軸50cm、深さ13~25cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は3層に分層される。土坑の長軸方向となる北東と南西側の端に立てられた10~15cmの礫を検出した。遺物は、縄文土器が6点出土した。

SK273土坑（第178図） W 300・N 10グリッドに位置する。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-78°-Wである。規模は長軸94cm、短軸25~60cm、深さ12cmである。断面は急角度で立ち上がり、断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦で、西側に段がある。遺物は、縄文土器が3点出土した。

SK274土坑（第178図） W 310・N 10グリッドに位置し、東側が搅乱で削平されている。平面形は不整楕円形と思われ、検出した規模は南北115cm、東西65cm、深さ45cmである。壁面は底面から急角度で立ち上がるが上部は緩やかで、断面形は漏斗状である。底面は擂鉢状である。堆積土は5層に分層される。遺物は、縄文土器が1点出土した。

SK275土坑（第178図、図版15・16） W 290~300・N 10グリッドに位置する。平面形は楕円形である。長軸方向はN-32°-Eである。規模は長軸200cm、短軸160cm、深さ37~43cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には若干凹凸がある。堆積土は9層に分層される。遺物は、底面からまとまって縄文土器が出土しており、そのうち5点を第182図に図示した。1は底部から口縁部にかけて直線的に開く深鉢である。口縁部から胴部中位にかけて横位に展開する沈線区画の文様帯により「O」字状が形成され、胴部下半には1条の沈線文が巡る。2は双輪状突起を有する波状口縁の深鉢の口縁部で突起中央には貫通孔が認められる。その下に巡る弧状の沈線文との間には刺突文が充填される。文様は沈線区画の文様帯で構成され、区画内は継ぎの沈線文で埋められる。3・5は隆沈線区画の文様帯を有する深鉢で、3は口縁部下の隆線上に刺突文がみられる。4は口縁部が内傾する椿形の器形となる深鉢で、口縁直下を沈線が巡る。石器は二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片7点、石核1点、凹石1点が出土した。

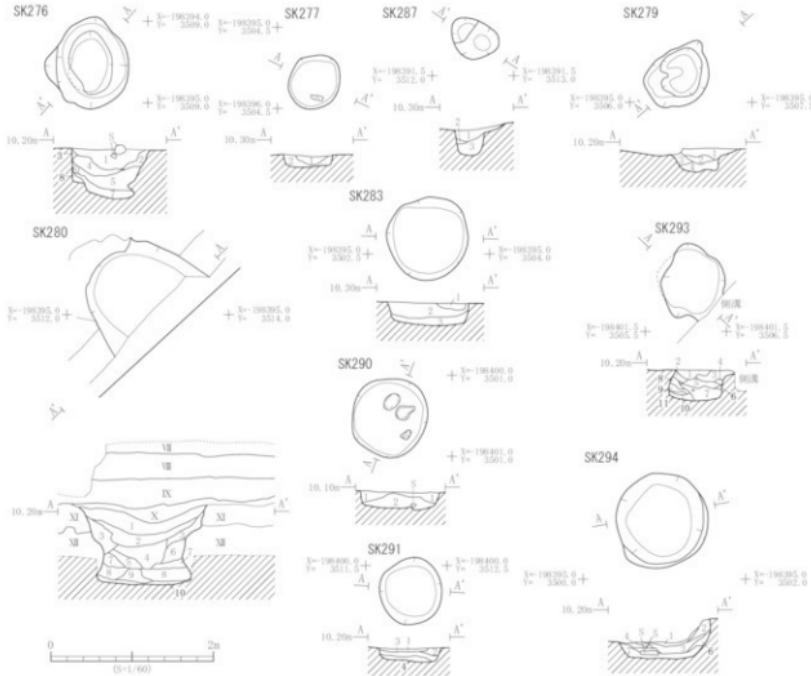
SK276土坑（第179図、図版15） W300・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-4°-Eである。規模は長軸110cm、短軸100cm、深さ42~60cmである。壁面の南側は底面からオーバーハンプして立ち上がり、その他はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は一部がフラスコ状で、底面には段差がある。堆積土は8層に分層される。遺物は、縄文土器9点、剥片2点が出土した。

SK277土坑（第179図） W 300・N 10グリッドに位置する。平面形は径68cmのほぼ円形で、深さ12~15cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。底面の南側から拳大の礫を1点検出し、遺物は、縄文土器が9点出土した。

SK279土坑（第179図、図版15） W300・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-50°-Eである。規模は長軸92cm、短軸70cm、深さ28cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は概ね逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器11点、剥片1点が出土した。

SK280土坑（第179図、図版16） W 290・N 10グリッドに位置し、南東側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形と思われ、検出した規模は北東から南西150cm、北西から南東105cm、深さ90cmである。壁面は底面からオーバーハンプして立ち上がり、断面形はフラスコ状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は10層に分層される。遺物は、縄文土器104点、石器は微細剥離痕のある剥片1点、剥片3点が出土し、縄文土器5点を第181図6~10に図示した。6はやや小型の深鉢で小突起を有する。口縁部から胴部上半に沈線文による文様帯が施される。7・8は沈線区画の文様帯を有する深鉢の破片である。

SK283土坑（第179図、図版15） W300・N 10グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、径100cm、深さ27cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。



遺構	層位	土 色	性 性	備考
SK276	1	HYRS-25K 黄褐色	シルト	-
	2	HYRS-25K 黄褐色	シルト	縛縁のブロックを多量含む。
	3 -	-	縛縁土体。砾混土。	
	4	HYR6-25K 黄褐色	シルト	-
	5	HYRS-25K 黄褐色	シルト	炭化物と縛縁の小ブロックを少量含む。
	6	HYR7-25K 黄褐色	砂質シルト	-
	7	HYR4-25K 黄褐色	シルト	炭化物を多量含む。
	8 -	-	縛縁土体。縛縁シルトの小ブロックを多量含む。	
SK277	1	HYRS-25K 黄褐色	シルト	炭化物と縛縁の小ブロックをわずかに含む。
	2	HYR6-25K 黄褐色	シルト	縛縁の小ブロックを多量含む。
	3	HYR6-25K 黄褐色	シルト	縛縁の小ブロックを多量含む。
	4	HYR6-25-45K 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	5	HYR6-10K 黄褐色	シルト	炭化物と縛縁のブロックを多量含む。
	6 -	-	縛縁土体。褐灰色シルトブロックを少量含む。	
	7 -	-	縛縁土体。褐灰色シルトブロックをわずかに含む。	
	8	HYR6-10K 黄褐色	シルト	炭化物を多量含む。縛縁のブロックを多量含む。
	9	HYR4-10K 黄褐色	シルト	炭化物と縛縁のブロックを多量含む。土塊片を含む。
	10	HYR7-10K 白色	砂質シルト	炭化物をわずかに含み、網目織りがある。
SK280	1	HYR4-25K 黄褐色	シルト	炭化物と縛縁のブロックを多量含む。
	2	HYR6-25K 黄褐色	シルト	縛縁の小ブロックを多量含む。
	3	HYR6-25K 黄褐色	シルト	縛縁の小ブロックを多量含む。

遺構	層位	土 色	性 性	備考
SK278	1	HYR5-25K 黄褐色	シルト	炭化物と砾混土を少量含む。
	2 -	-	-	縛縁のブロック。
SK283	1	HYR6-25K 黄褐色	シルト	砾混土を少量含む。
	2 -	-	-	
SK290	1	HYR4-4 黄褐色	シルト	黄褐色シルトを板状に含み炭化物を含む。
	2	HYR3-4 黄褐色	シルト	やや粘土質。黄褐色シルトを板状に含み炭化物を含む。
	3	HYR5-6 黄褐色	シルト	黄褐色シルトを板状に含み炭化物を含む。
	4	HYR3-4 黄褐色	シルト	やや粘土質。炭化物・礁土を多量含む。
SK291	1	HYR6-25K 黄褐色	シルト	上部に炭化物を含み下部には黄褐色シルトブロックと機工・鉢片を含む。
	2 -	-	-	
	3	HYR5-6 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	4	HYR2-25K 黑褐色	シルト質粘土	炭化物を多量含む。
	5	HYR5-25K 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	6	HYR5-25K 黄褐色	シルト	縛縁の小ブロックを含む。
	7	HYR6-25 黄褐色	シルト	縛縁のブロックと炭化物をわずかに含む。
	8	-	-	炭化物が土体。砾混土。
	9	HYR6-25 黄褐色	シルト	炭化物が土体。砾混土。
	10	HYR5-25 黄褐色	シルト質シルト	炭化物を少量含む。
SK294	1	HYR5-25K 黄褐色	シルト質シルト	炭化物を少量含む。
	2 -	-	-	
	3	HYR6-25K 黄褐色	シルト	縛縁のブロックと炭化物を含む。
	4	HYR6-25K 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	5	HYR6-25 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	6	HYR6-25 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	7	HYR6-25 黄褐色	シルト	縛縁土に炭化物シルト細ブロックと炭化物を含む。
	8	HYR6-25 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	9	HYR6-25 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	10	HYR6-25 黄褐色	シルト	縛縁のブロック。
	11	HYR5-25K 黄褐色	シルト質シルト	炭化物をわずかに含む。
	12	HYR6-25K 黄褐色	シルト	縛縁土に灰黑色シルト細ブロックをわずかに含む。
	13	-	-	炭化物・東壁土分には少い黄褐色。
	14	-	-	縛縁土に灰黑色シルト細ブロックをわずかに含む。
	15	HYR6-25K 黄褐色	シルト	炭化物を多量含む。
	16	-	-	縛縁土に炭化物シルト細ブロックと炭化物を含む。
	17	HYR6-25 黄褐色	シルト	炭化物を少く含む。

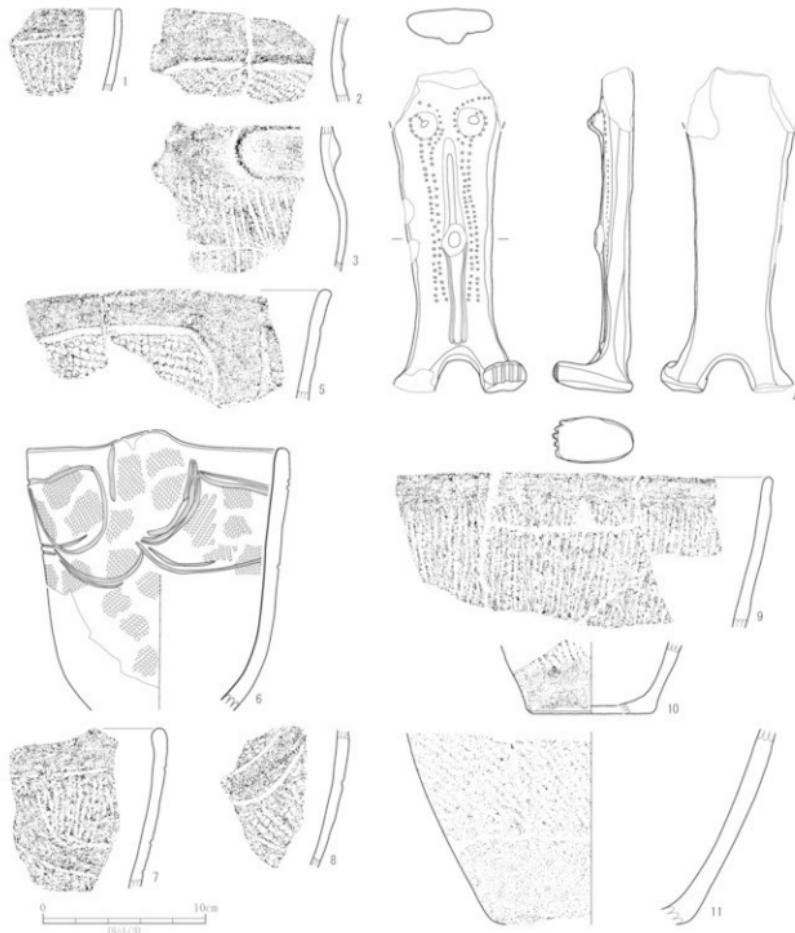
第179図 SK276・277・279・280・283・287・290・291・293・294土坑平面図・断面図

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



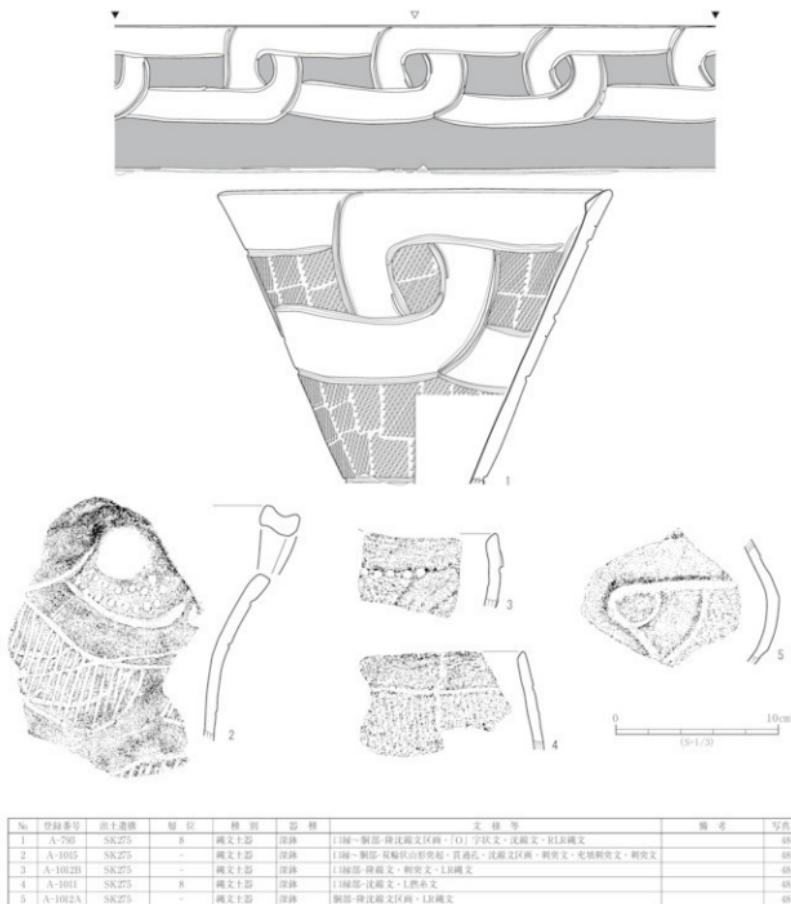
No.	登録番号	出土遺物	層	性	器種	文様等	備考	写真回数
1	A-995	SK233	1	陶瓦上器	深鉢	198落-山形突起、沈縞文、上熱帯文		⑤-3
2	A-997	SK233	13~16	陶瓦上器	深鉢	側部-齊洋縞文(伏面)	外側に赤彩模様。	⑤-4
3	A-990	SK233	13~16	陶瓦上器	深鉢	側部-齊洋縞文-上熱帯文		⑤-5
4	A-984	SK252	2	陶瓦上器	深鉢	198落-汎縞文、上熱帯文		⑤-11
5	A-977	SK252	2	陶瓦上器	深鉢	側部-齊洋縞文、側文		⑤-12
6	A-990	SK233	-	陶瓦上器	深鉢	198落-側部-齊洋縞文、汎縞文、上熱帯文、把手		⑤-6
7	A-994	SK238	-	陶瓦上器	深鉢	側部-齊洋縞文、上熱帯文		⑤-7
8	A-983	SK233	2	陶瓦上器	深鉢	側部-汎縞文区段、沈縞文		⑤-16
9	P-68	SK254	-	土製品	土製円盤	側部-LR縞文、底部-ナデ	48×48×7mm 10g	⑤-17
10	A-986	SK235	-	陶瓦上器	深鉢	側部-ナデ、底部-ナデ		⑤-18
11	A-982	SK263	-	陶瓦上器	深鉢	側部-沈縞文、上熱帯文		⑤-21
12	A-975	SK256	-	陶瓦上器	深鉢	側部-熱帯文、底部-ナデ		⑤-20
13	A-796	SK270	3	陶瓦上器	注口十器	口縁ナデ、1ヨリ、側部-隕縞文、ナデ、ミヨリ、底部-ナデ	注口部の反対側に凸孔あり。	⑤-2

第180図 土坑出土遺物（1）

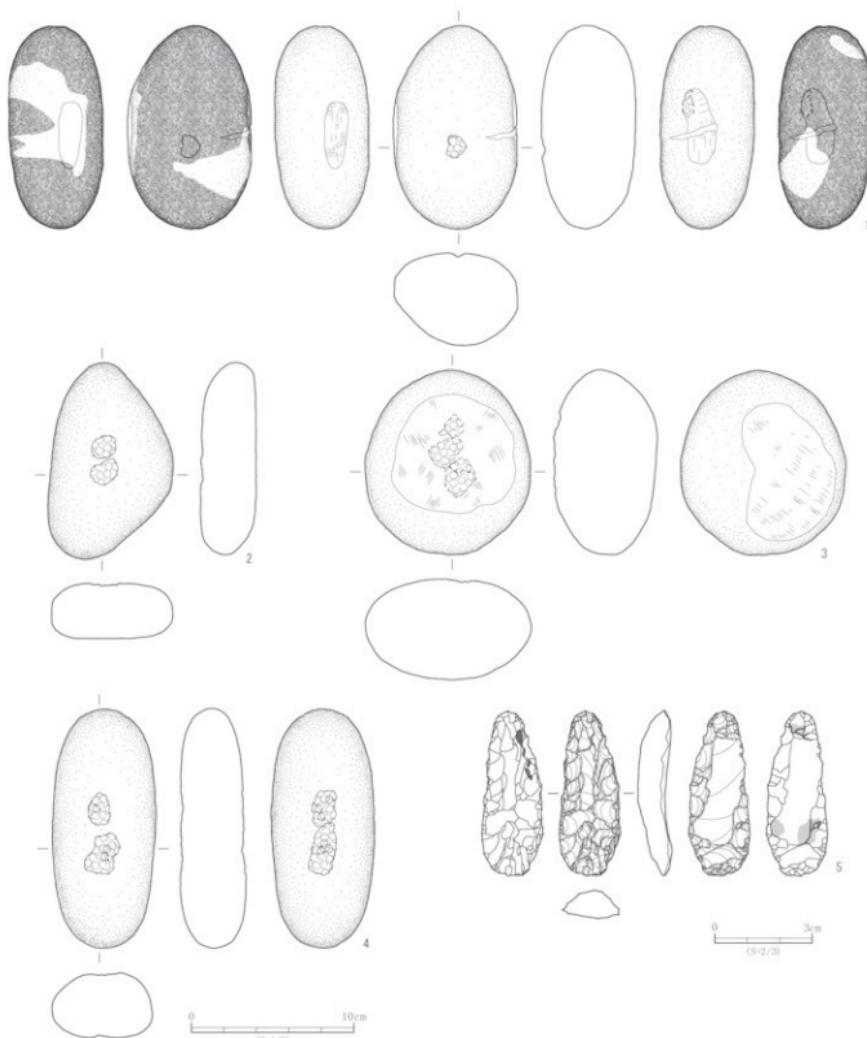


No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-978	SK289	8	陶文上部	深鉢	口縁部-沈殿文、上部系文		C-23
2	A-976	SK289	2	陶文上部	深鉢	側部-沈殿文、口縁文		C-24
3	A-983	SK289	-	陶文上部	深鉢	側部-轉折渦巻文、沈殿文区画、自然系文		C-25
4	P-49	SK289	-	土製品	土鍋	側部-沈殿文、刺空文、十字	図-1	
5	A-1006	SK271	4	陶文上部	深鉢	口縁部-沈殿文区画、1段織文		C-22
6	A-779	SK280	-	陶文上部	深鉢	口縁部-山形突起-小波状口縁 側部-沈殿文、附織文	図-1	
7	A-104A	SK280	-	陶文上部	深鉢	口縁部-山形突起-沈殿文区画、自然系文		図-2
8	A-104B	SK280	-	陶文上部	深鉢	側部-沈殿文、1段織文	内面に炭化物が付着	図-3
9	A-1005	SK280	-	陶文上部	深鉢	口縁部-自然系文		図-4
10	A-1036	SK280	-	陶文上部	深鉢	側部-自然系文、底部十字		図-5
11	A-1004A	SK293	-	陶文上部	深鉢	側部-沈殿文		図-6

第181図 土坑出土遺物（2）

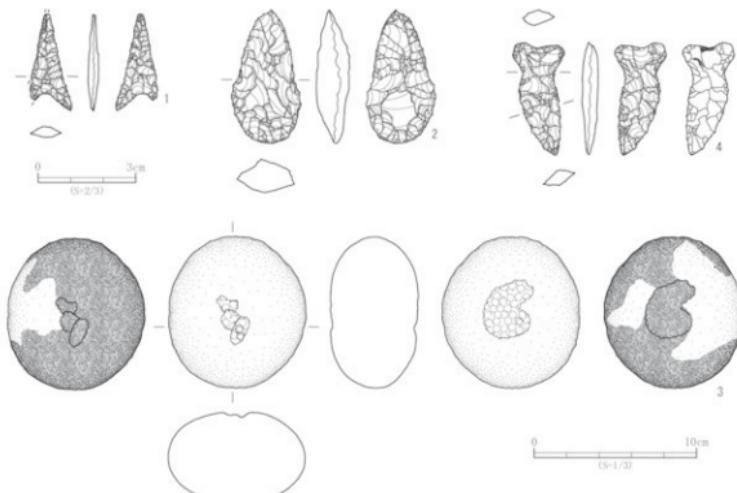


第182図 土坑出土遺物（3）



第183図 土坑出土遺物（4）

No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	石種	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-a-17	SK229	1	砸石器	砾石	花崗閃緑岩	12.5×7.6×5.8	776.0	磨様2、凹1=0、被熱痕あり。	⑦-1
2	Kc-b-15	SK229	1	砸石器	砾石	安山岩	11.9×7.6×3.5	436.0	凹2=0。	⑦-2
3	Kc-a-18	SK237	-	砸石器	砾石	安山岩	11.3×10.1×6.3	927.0	凹1=1、縫3=0。	⑦-8
4	Kc-b-16	SK237	-	砸石器	砾石	安山岩	14.5×6.3×4.0	588.0	凹2=2。	⑦-9
5	Ka-II-2	SK250	-	打擊石器	石塊	珪質頁岩	50×1.9×1.1	85	平面面加工。表面に黒色付着物、裏面に光沢あり。	⑦-10



No.	登録番号	出土遺物	場所	種別	器種	石種	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
1	Ka-60-6	SK252	1	打製石器	石鏟	珪質頁岩	22.9×1.3×0.3 (0.6)		凹面加工、先端及び側面欠損。	C-13
2	Ka-62-2	SK252	-	打製石器	石鏟	珪質頁岩	40.8×2.1×1.1 (6.9)		平面加工、平面形水滴形。	C-14
3	Kc-b-17	SK252	3	磨製器	石臼	安山岩	9.2×8.4×5.4 (65.0)		凹口1。被削痕あり。	C-15
4	Ka-63-3	SK293	-	打製石器	石鏟	珪質頁岩	24.8×1.6×0.5 (2.0)		縦壁。小形圓筒加工。刃部斜行。黑色着色あり。	C-7

第184図 土坑出土遺物（5）

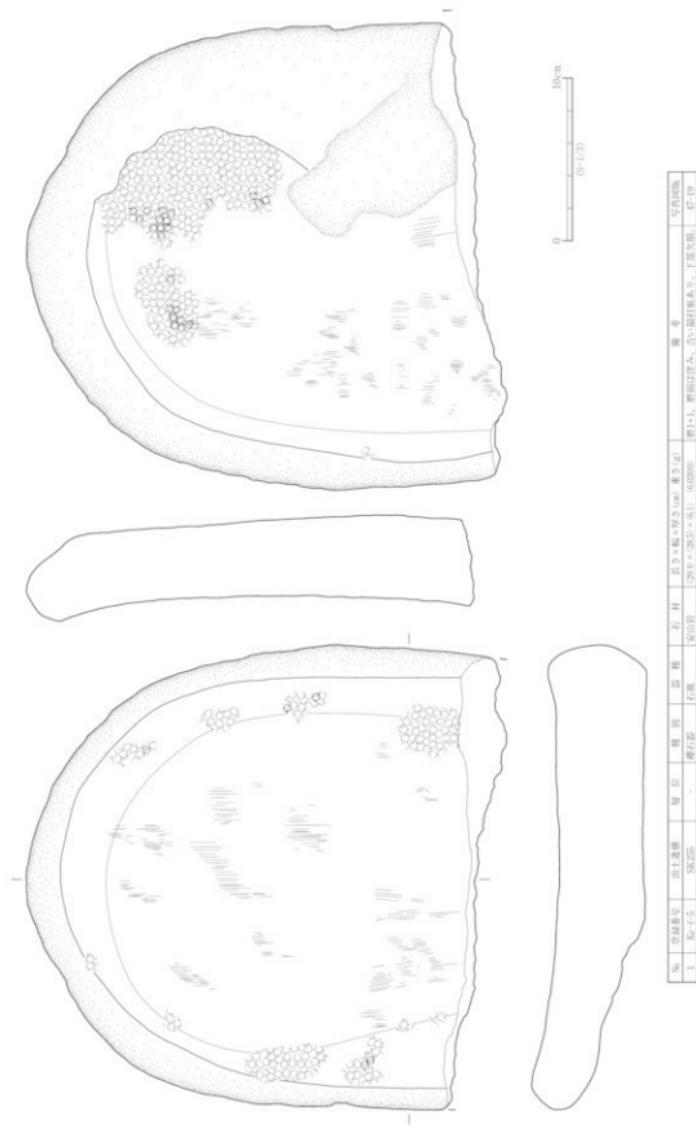
SK287土坑（第179図、図版15） W290・N10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-56°-Wである。規模は長軸64cm、短軸45cm、深さ5~32cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は柄杓状で、底面には段差があり、南東側が低い。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器が6点出土した。

SK290土坑（第179図） W300~310-N0-S0グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、径95cm、深さ21cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。底面から10~20cm程の大きさの礫が検出された。遺物は、縄文土器24点、二次加工のある剥片1点が出土した。

SK291土坑（第179図） W300・N0-S0~N10グリッドに位置する。平面形は径76cmのはば円形で、深さ13~20cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には若干凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は、縄文土器29点、剥片5点が出土した。

SK293土坑（第179図、図版15） W300・N0-S0グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-6°-Eである。規模は長軸98cm、短軸80cm、深さ38cmである。壁面の西側は底面からオーバーハングして立ち上がり、その他はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は一部がフラスコ状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は11層に分層される。遺物は、縄文土器が60点出土し、そのうち1点を第181図11に図示した。石器は石匙1点を第184図4に図示した。長さ34cmと小形のものである。調整加工が表裏の全面に施され、素材面は残されていないなど別分類の可能性がある。

SK294土坑（第179図） W300・N10グリッドに位置する。S1227と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形で、規模は径115cm、深さ20~50cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は7層に分層される。遺物は、縄文土器11点、二次加工のある剥片1点、剥片1点が出土した。

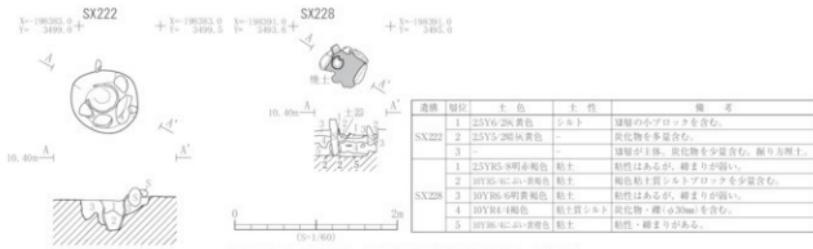


第185図 土坑出土遺物（6）

3) 性格不明遺構

SX222性格不明遺構（第186図、図版17）W310・N20グリッドで検出した。掘り方の平面形は径40cm程の不整な円形で、掘り方の底面までの深さは20cmである。中央に底部を欠損した深鉢が正位の状態で埋設されており、それを囲むように20~35cmほどの大きさの礫が配置されている。北側及び西側では礫がみられなかったが、掘り方底面の断面形から判断して抜き取られたものと考えられる。堆積土は3層に分層され、2層には炭化物が多量に混じることから炉の可能性がある。埋設されていた土器を第187図1に図示した。胴部にくびれをもつ深鉢で、口縁部から胴部上半に沈線文区画の文様帯が横位に展開し、4単位の「コ」字状文と玉抱き文となる。玉抱き文内部には刺突文が充填される。石器は磨石が1点出土し、第187図3に図示した。やや扁平な円礫を素材とし、片面に研磨面が観察され、研磨面の中央部には研磨以前の凹みも認められる。

SX228性格不明遺構（第186図、図版17）W300・N10グリッドで検出した。規模は長軸55cm、短軸48cmの範囲に扁平な礫が方形に組まれ、その内側に焼け面が認められることから炉の可能性がある。南側は礫が抜き取られているものと思われる。土層断面から、石で囲われた内側と外側の土層が同じであることから、礫を設置する部分のみを掘り込んだものと考えられる。石壇の内側では被熱によって赤化した部分が5cm程の厚さで認められた。また、中央の北東寄りで深鉢底部が若干斜めに傾けた正位の状態で出土し、この土器を第187図2に図示した。胴部下半から底部が残存する。



第186図 SX222・228性格不明遺構平面図・断面図

4) ピット（第154図）

18基のピット（P239・240・242・243・244・245・249・257・261・262・278・281・282・284~286・288・289）を検出し、調査区全体に散漫に分布している。P239・240・249・286・288から出土した土器を第188図に図示した。1は深鉢の口縁部破片、2は胴部破片で、沈線文で文様帯が区画される。3は胴部破片で多条沈線文で文様が構成される。4は底部破片である。石器はP249から出土した凹石を、第188図に図示した。扁平な円礫の表裏の平坦面に2ヶ所ずつの凹みが認められる。

（6）遺構外出土の遺物（第189~209図、図版50~58）

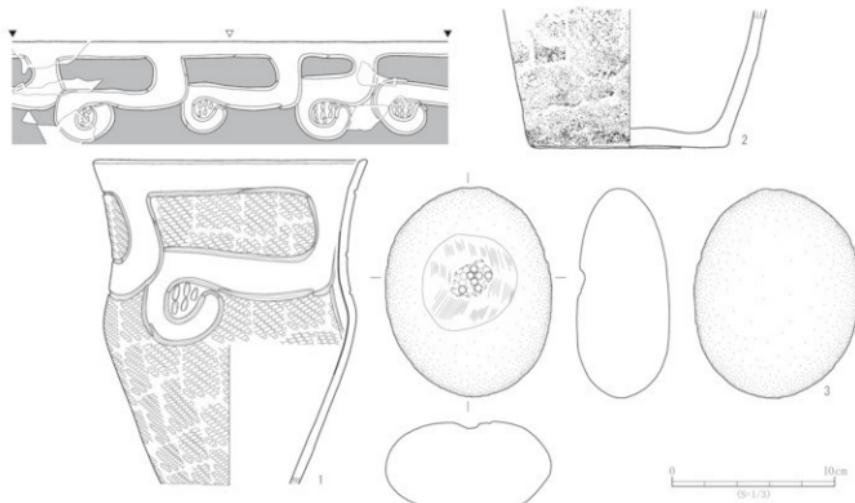
2C区では、V層から古代・古墳時代の土器、III~VI・IX~XI層から縄文土器及び土製品、XI~XII層から石器が出土している。

1) 縄文時代

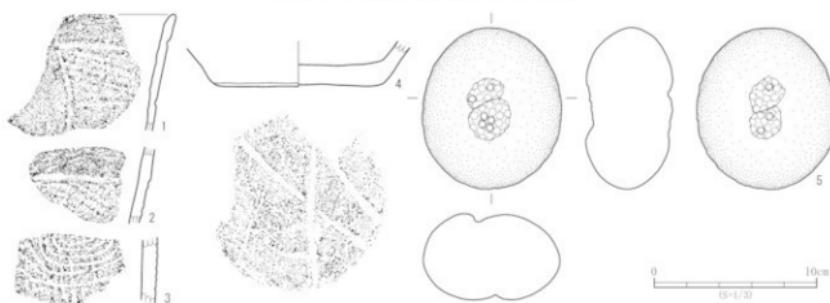
IX層出土土器・土製品（第189・190図、図版50）

縄文土器24点、土製品7点を第189・190図に図示した。第189図1は、胴部上半にかけて括れて口縁部が外反する深鉢の口縁部破片で、隆沈線文区画により文様が構成される。口縁部下に橋状の把手が付く。2は浅鉢または鉢の口縁部破片で、山形突起の頂部下に貫通孔を有し、隆線区画によって文様が区画される。4は口縁部が外側にもむかって緩やかに聞く深鉢で横位の平行沈線間を縦位の条線文で埋める。5は双輪状の突起部の下に貫通孔を有し、

弧状の沈線文区画に刺突文が充填される。その他は口縁部または胴部破片で、平行沈線文または隆沈線文区画の文様帯が構成され、区画内には繩文・撚糸文・刺突文・条線文が施される。12の胴部破片では、隆線上に縱方向の連續刺突文が施される。17は注口土器または鉢につく把手と考えられる。18は注口土器で、口縁部に環状の把手と注



第187図 SX222・228性格不明遺構出土遺物



第188図 ピット出土遺物

口部が連結する。第190図6の底面には網代痕が認められる。第190図7～13は土製円盤で、胴部破片を打ち欠いて整形している。中期末葉から後期初頭と考えられる。

IX・X層出土土器・土製品（第190図、図版50）

縄文土器3点、土製品1点を図示した。第190図14は深鉢の口縁部で、横位の沈線文が巡り、一部には斜位方向の沈線文が施されている。15は胴部中位に最大径をもつ胴部破片で、平行沈線により逆「J」字状文が描かれ、縱横に区画が連結する。16は隆線で文様帯が区画される。17は土製円盤で、胴部破片を利用している。文様構成から14・16は中期末葉、15は後期前葉と考えられる。

XI層出土土器・土製品（第191～199図、図版51～55）

XI層から最も多くの遺物が出土した。時期は中期末葉の遺物が主体であるが、中期中葉、後期前葉の遺物も含まれる。第191図1は深鉢の胴部～底部である。縦位及び渦巻沈線文が描かれ、地文にRL縄文が施文される。2・3は口縁部及び付近の破片で隆沈線文により渦巻文が配される。4は沈線文による輪付渦巻文が施文される。いずれも中期中葉に位置づけられる。5～8は深鉢である。5は平縁、6は貫通孔を有する山形突起、8は波状口縁である。それぞれ口縁部から胴部上半に沈線による区画文を有する。5は格円区画文と波状沈線文、6は「O」字状文を形成し、並行沈線で横位に文様が連結する。8は4単位の「O」字状文が並行沈線文で横位に連結する。7は胴部中位に玉抱き文の区画をもち、区画内には刺突文が施される。第192図1は底部から直線的に開いて口縁部が外側に広がる鉢で、口縁部には貫通孔を有する山形突起が付くものである。隆沈線区画の逆「S」字状の文様帯が横位に連結して文様が展し、区画内には刺突文が充填される。2は口縁部に橋状把手が付き、隆線沿いに刺突文が巡る。3～8も横位展開する文様構成で、3は隆沈線文、4・6は沈線文で区画され、4は条線文、8はR撲糸文及びLR縄文が施文される。6・7は注口土器の破片で、6は口縁部からの把手が注口部分に連結する。第193図1は胴部に最大径を持ち、口縁部に向かって緩やかに内湾する深鉢である。第193図5～7は胴部から底部で5・6は横位の沈線文で区画される。第194～197図は隆線文及び隆沈線文によって区画されるもので、区画内には縄文・撲糸文・条線文・刺突文が施される。第195図18は鱗状隆線文が施される。第196図は沈線区画を有するものである。第197・198図は口縁部下に横位の沈線が巡るもの、無文のものである。第198図12～17は小型土器である。12は樽形である。土製品は土製円盤を第199図に15点図示した。全て胴部破片を加工して整形している。最も大きいものは長さ83mm、重さ71gである。

III～VI層出土土器・土製品（第200図、図版55）

縄文土器5点、土製品2点を図示した。第200図1は胴部中位が大きく張る深鉢で、隆沈線区画の文様帯により文様が構成され、重なる部分は鱗状となる。2は小型の壺の破片で、隆線文と刺突文が施される。3は壺の胴部破片で平行する沈線区画により幾何学文が施文される。4は口縁部に最大径をもち外側に聞く深鉢で、口縁部周辺は無文である。5は小型土器で、山形突起を有しており小波状口縁を呈する。内外面ともに成形時の輪積み痕が残る。6・7は土製円盤である。胴部破片を利用し、打ち欠いて成形を行っている。1は中期末葉、2～5は後期中葉と考えられる。

IX層出土石器（第201図、図版56）

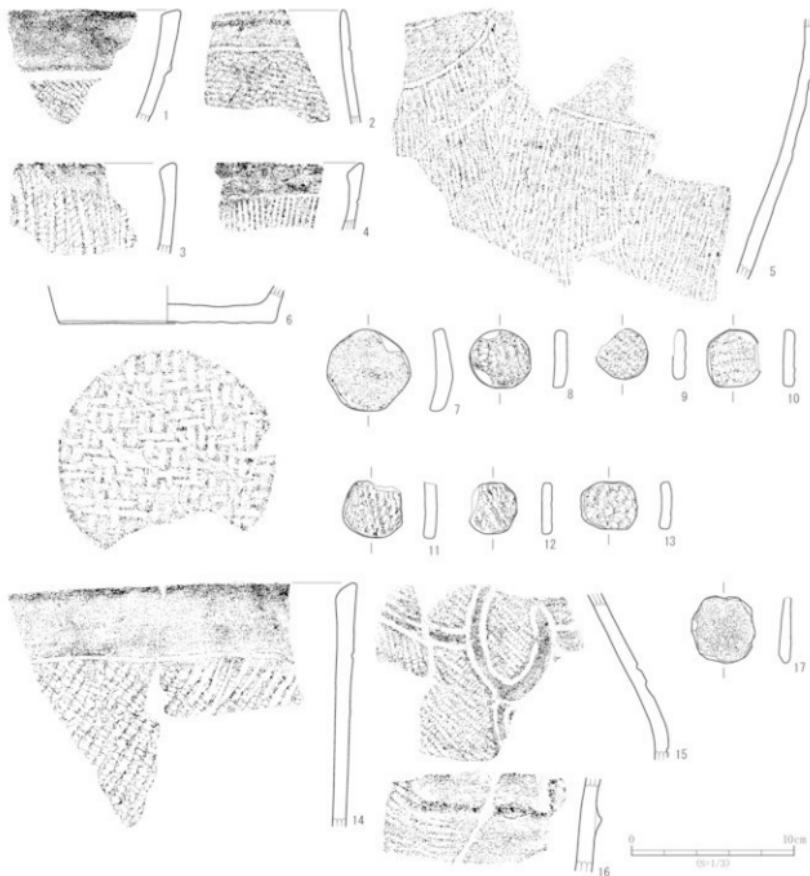
IX層から計64点の石器が出土した。器種別の内訳は石錐1点、石匙1点、不定形石器5点、石鏟1点、二次加工のある剥片7点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片24点、石核1点、磨製石斧1点、磨石3点、凹石7点、敲石5点、砥石2点、台石1点であり、そのうち石錐1点、石匙1点、不定形石器2点、石鏟1点、磨製石斧1点、磨石1点を第201図に図示した。1は石錐である。二次加工は器体の縁辺部に施される。錐部は下端部に作出され、横断面形は薄い台形状を呈する。2は石匙である。端部に二次加工による小さなつまみ部が作出される。刃部の形状は両側縁に施された鋭角な二次加工により、端部は円形に整形されているが、打面は小さく残されている。3・4



No.	登録番号	種別	遺物・グリッド	格別	器種	文様等	備考	写真版
1	A-896	瓦	W310・N5	陶文土器	深鉢	1)縁部-楕円形把手-降沈文区画	50-1	
2	A-702	瓦	W296・NS9	陶文土器	深鉢	1)縁部-楕円形突起-直轄文-降沈文-RL繩文	50-2	
3	A-758	瓦	W295・NS9	陶文土器	深鉢	1)縁部-降沈文区画-RL繩文	50-3	
4	A-756	瓦	W295・NS9	陶文土器	深鉢	1)縁部-直轄文-条縞文	50-4	
5	A-895	瓦	W310・N15	陶文土器	深鉢	1)縁部-楕円形把手-背負孔-波状文-降沈文区画-斜直文-沈縞文	50-5	
6	A-900	瓦	W310・N15	陶文土器	深鉢	1)縁部-直轄文-降沈文区画-斜直文	50-6	
7	A-900	瓦	W315・N20	陶文土器	深鉢	1)縁部-柱状突起-波状文-斜直文	50-7	
8	A-709	瓦	-	陶文土器	深鉢	1)縁部-直轄文-斜直文	50-8	
9	A-894	瓦	W310・N15	陶文土器	深鉢	側部-突起-楕円形把手-直轄文-降沈文-RL繩文	50-9	
10	A-902B	瓦	W310・N20	陶文土器	深鉢	側部-直轄文-斜直文-1.5cm繩文	50-10	
11	A-757	瓦	W310・N5	陶文土器	深鉢	1)縁部-直轄文区画-(O)字状文-斜直文-1.5cm繩文	-	
12	A-564	瓦	W305・N15	陶文土器	深鉢	側部-直轄文-斜直文-尼縞文	-	
13	A-770	瓦	W300・NS9	陶文土器	深鉢	側部-直轄文区画-RL繩文	50-11	
14	A-890	瓦	W305・N15	陶文土器	深鉢	側部-直轄文	50-12	
15	A-897A	瓦	W310・N15	陶文土器	深鉢	側部-直轄文-条縞文	50-13	
16	A-897B	瓦	W310・N15	陶文土器	深鉢	側部-直轄文区画-RL繩文	50-14	
17	A-891	瓦	W300・NS9	陶文土器	深鉢-背起	側部把手-降沈文-斜直文	50-15	
18	A-892	瓦	W300・N15	陶文土器	注口1寸器	1)縁部-注口部-ナット-2.5cm	50-16	

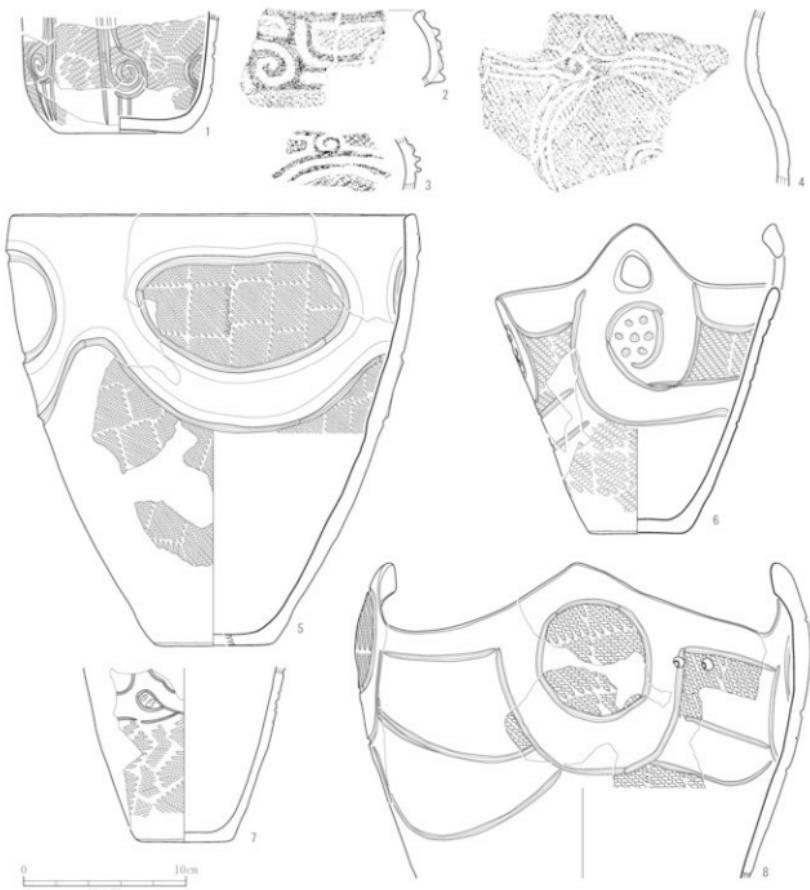
第189図 次層出土土器

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



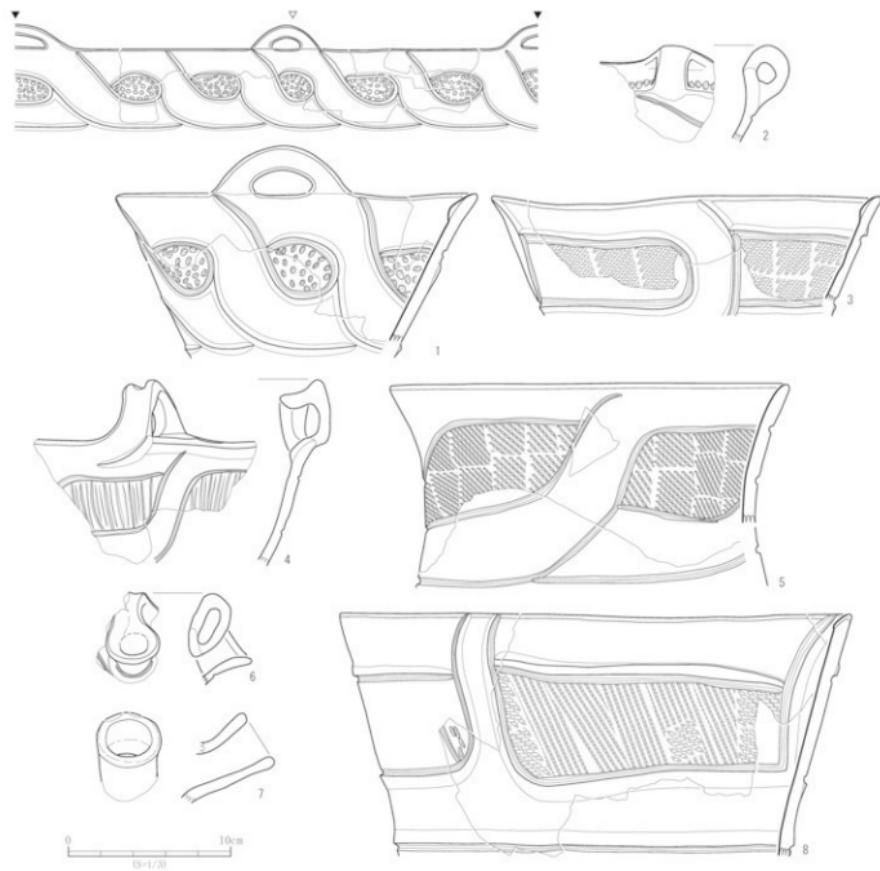
No.	登録番号	種 類	遺跡・グリッド	種 別	器 種	文様 等	備 考	写真図版
1	A-899	陶	W310・N5	绳文土器	深鉢	11縦部-横沈綱文・LB網文	50-17	
2	A-899	陶	W305・N10	绳文土器	深鉢	11縦部-横綱文・L網文	50-18	
3	A-900	陶	W315・N10	绳文土器	深鉢	11縦部-自然水文	50-19	
4	A-902A	陶	W310・N20	绳文土器	深鉢	11縦部-沈綱文・L網文系	50-21	
5	A-754	陶	W300・NS0	绳文土器	深鉢	側部-沈綱文・側・L網水文	50-20	
6	A-730	陶	-	绳文土器	深鉢	側部-ナメ 前部-網目痕	50-22	
7	P-71	陶	W315・N15	土製品	土製円盤	ナメ	50×40×10mm 2kg	50-23
8	P-65	陶	-	土製品	土製円盤	LB網文	36×38×7mm 12g	50-24
9	P-66	陶	W205・N5	土製品	土製円盤	LB網文	35×30×7mm 7g	50-25
10	P-76	陶	W310・N10	土製品	土製円盤	LB網文	33×30×7mm 9g	50-26
11	P-69	陶	W310・N5	土製品	土製円盤	LB網文	35×32×7mm 11g	50-27
12	P-70	陶	W310・N20	土製品	土製円盤	LB網文	30×28×6mm 6g	50-28
13	P-73	陶	W310・N15	土製品	土製円盤	LB網文	33×23×6mm 8g	50-29
14	A-760	陶・X	W300・NS0	绳文土器	深鉢	11縦部-沈綱文・LB網文・一部綱文の上に斜状の沈綱文	50-33	
15	A-735	陶・X	W205・NS0	绳文土器	江口土器	側部-「」字状沈綱文・側面 LB網文	50-32	
16	A-766	陶・X	W205・NS0	绳文土器	深鉢	側部-沈綱文・L網文	50-31	
17	P-77	陶・X	W315・N15	土製品	土製円盤	ナメ	50×40×10mm 2kg	50-30

第190図 IX・X層出土土器



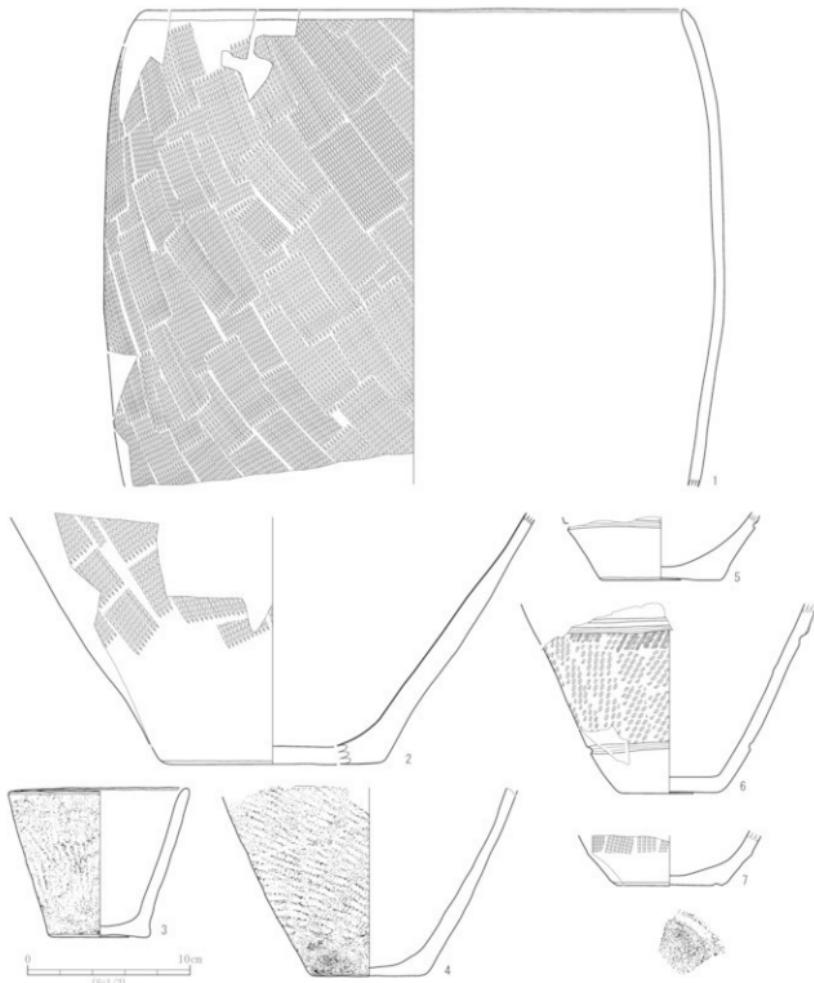
No.	登録番号	場所	遺構・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-969	XI	W 320・N20	圓文土器	深鉢	側部-渦巻沈縞文・LB縞文 底部-ナデ		51-1
2	A-968A	XI	W 315・N15	圓文土器	深鉢	1)縦部-渦巻沈縞文 2)縦部-沈縞文 3)縦部-LB縞文	A-968Bと同一	51-2
3	A-917A	XI	W 295・N15	圓文土器	深鉢	1)縦部-渦巻沈縞文 2)縦部-LB縞文		51-3
4	A-968B	XI	W 315・N15	圓文土器	深鉢	側部-渦巻沈縞文・LB縞文	A-968Aと同一	51-4
5	A-930	XI	W 295・N15	圓文土器	深鉢	側部-渦巻沈縞文・1)O字状文・LB縞文 底部-ナデ		51-6
6	A-778	XI	W 300・N10	圓文土器	深鉢	1)縦-渦巻山形地紋 2)縦部-沈縞文 3)O字状文・LB縞文		51-7
7	A-974	XI	W 305・N10	圓文土器	深鉢	側部-沈縞文区画・刺突文・刺繡文 底部-ナデ		51-5
8	A-868	XI	W 300・N5	圓文土器	深鉢	1)縦-側部-山形突起・沈縞文区画 2)O字状文・LB縞文	補修孔あり。	51-11

第191図 X層出土土器（1）



No.	登錄番号	種 類	遺構・グリッド	種 別	器 形	文様 等	備 考	写真図版
1	A-877	Ⅲ	W300・NS	陶文土器	深鉢	1[縦]一[横]部-山形突起、乳頭丸、背北側区画、「クラシク」状文、区画内光滑剥落文	5-10	
2	A-910	Ⅲ	W300・NS	陶文土器	深鉢	1[縦]部-把手下-隆起文、側斜文、浅羅文	5-8	
3	A-933	Ⅲ	W300・NSD	陶文土器	深鉢	1[縦]部-浅羅文区画、底-浅文	5-9	
4	A-879	Ⅲ	W300・NS	陶文土器	深鉢	1[縦]部-実輪状突起、側羅文、「クラシク」状文、北側区画、区画内条羅文	5-12	
5	A-1036	Ⅲ	W300・NSD	陶文土器	深鉢	1[縦]一部-浅羅文区画、「クラシク」状文、LRL羅文	5-13	
6	A-892	Ⅲ	W300・NS	陶文土器	II(1)12	II(1)部-曲羅文、浅羅文	5-15	
7	A-912	Ⅲ	W300・NS	陶文土器	II(1)12	II(1)部-ナメ	5-14	
8	A-1046	Ⅲ	W300・NSD	陶文土器	深鉢	1[縦]一部-浅-浅羅文区画、贝壳状文、LRL羅文	5-16	

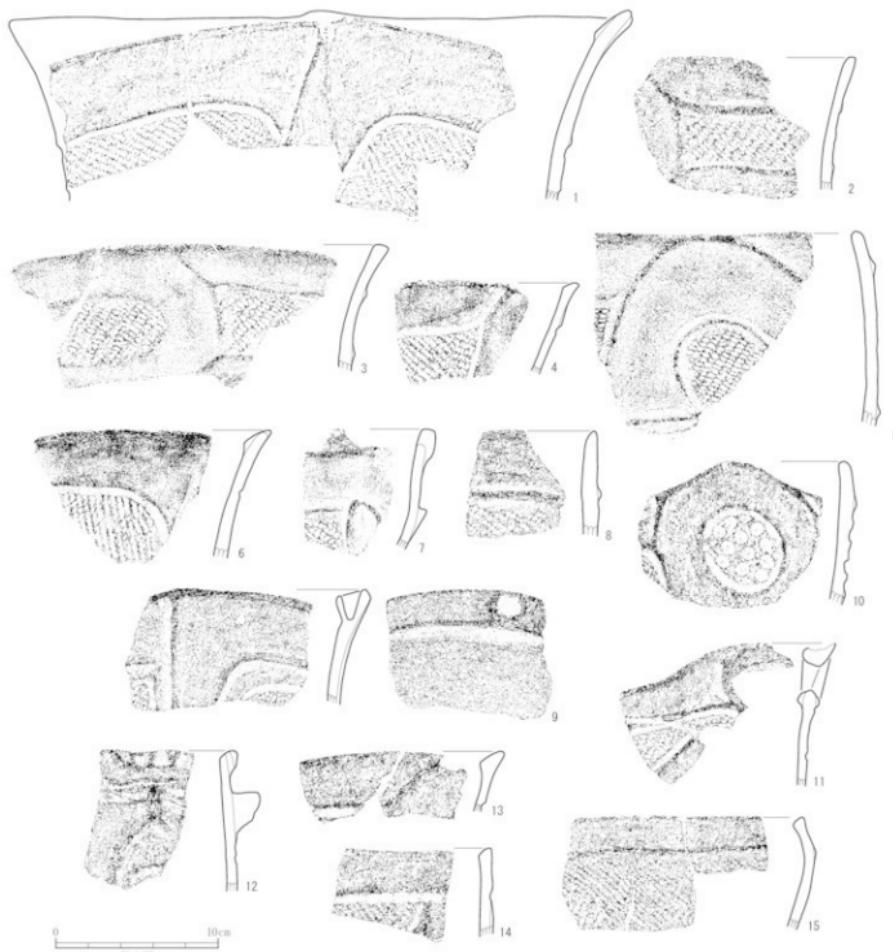
第192図 X層出土土器（2）



No.	登録番号	種類	遺物・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-793	XI	W300・NSD	绳文土器	深鉢	口縁-側部-自然系文		52-1
2	A-872	XI	W300・NS	绳文土器	深鉢	側部-自然系文・ナデ 底部-ケイリ・ナデ		52-2
3	A-873	XI	W300・NS	绳文土器	小型土器	口縁-側部-自然系文 底部-ナデ		52-4
4	A-881	XI	W300・NS	绳文土器	深鉢	側部-L型網文 底部-ナデ		52-5
5	A-878	XI	W300・NS	绳文土器	深鉢	側部-沈縮文・ナデ 底部-ナデ		-
6	A-874	XI	W300・NS	绳文土器	深鉢	側部-降沈縮文・RLR網文・沈縮文 底部-ナデ		52-3
7	A-1096	XI	W300・NS	绳文土器	深鉢	側部-自然系文 底部-沈縮文・ナデ		-

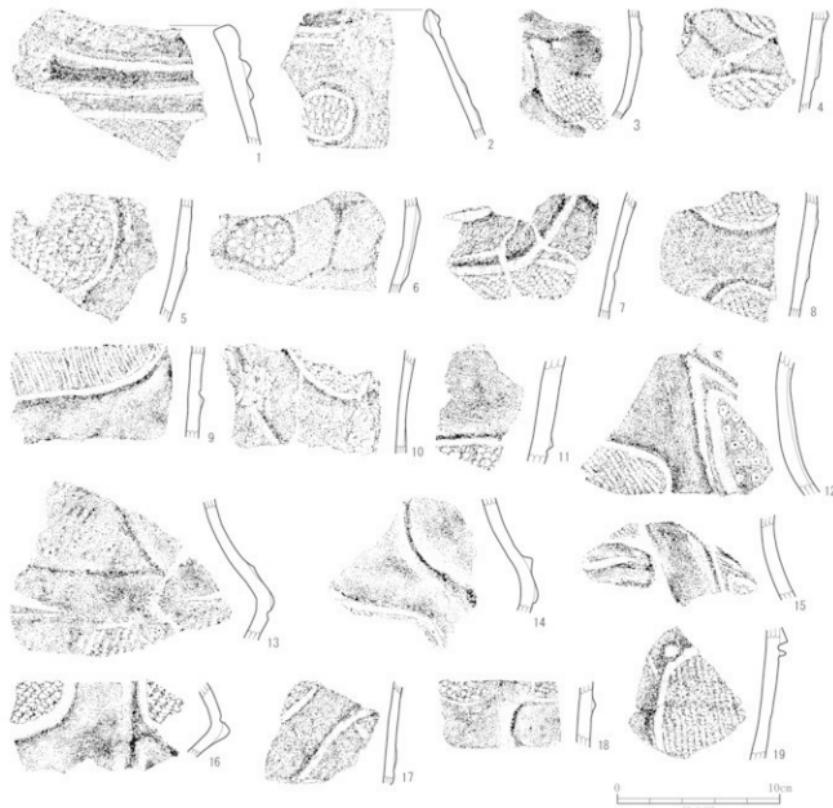
第193図 XI層出土土器（3）

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



登録番号	場所	遺物・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1 A-774	Ⅲ	W315・N10	陶土器	深鉢	(1)縦筋・平行小筋・波状面文・LBR織文		52-7
2 A-909A	Ⅲ	W300・N5	陶土器	深鉢	(2)縦筋・波状面文・LBR織文		52-6
3 A-932	Ⅲ	W295・N5	陶土器	深鉢	(3)縦筋・波状面文・LBR織文		52-8
4 A-953B	Ⅲ	W300・N5	陶土器	深鉢	(4)縦筋・波状面文・LBR織文		52-9
5 A-905A	Ⅲ	W300・N5	陶土器	深鉢	(5)縦筋・波状面文・LBR織文		52-11
6 A-905B	Ⅲ	W300・N5	陶土器	深鉢	(6)縦筋・波状面文・LBR織文		52-10
7 A-964	Ⅲ	W310・N10	陶土器	深鉢	(7)縦筋・波状面文・LBR織文	外面に赤彩残る。	52-12
8 A-962B	Ⅲ	W310・N5	陶土器	深鉢	(8)縦筋・波状面文・LBR織文		52-13
9 A-962A	Ⅲ	W310・N5	陶土器	深鉢	(9)縦筋・波状面文・LBR織文・(1)縫隙内側に円形削り穴		52-14
10 A-915	Ⅲ	W295・N15	陶土器	深鉢	(10)縦筋・波状面文・(O)字状文・斜葉文		52-1
11 A-940	Ⅲ	W300・N50	陶土器	深鉢	(11)縦筋・波状面文・(1)縫隙孔・波状面文・LBR織文	内部に炭化物付着。	52-2
12 A-911	Ⅲ	W300・N5	陶土器	深鉢	(12)縦筋・波状面文・LBR織文	内部に炭化物付着。 発泡火照。口部剥離。	52-3
13 A-1096C	Ⅲ	W300・N5	陶土器	深鉢	(13)縦筋・波状面文・LBR織文	A-2090上貝	52-4
14 A-960C	Ⅲ	W295・N10	陶土器	深鉢	(14)縦筋・波状面文・LBR織文	内部に炭化物付着。	52-5
15 A-939	Ⅲ	W295・N50	陶土器	深鉢	(15)縦筋・波状面文・LBR織文		52-6

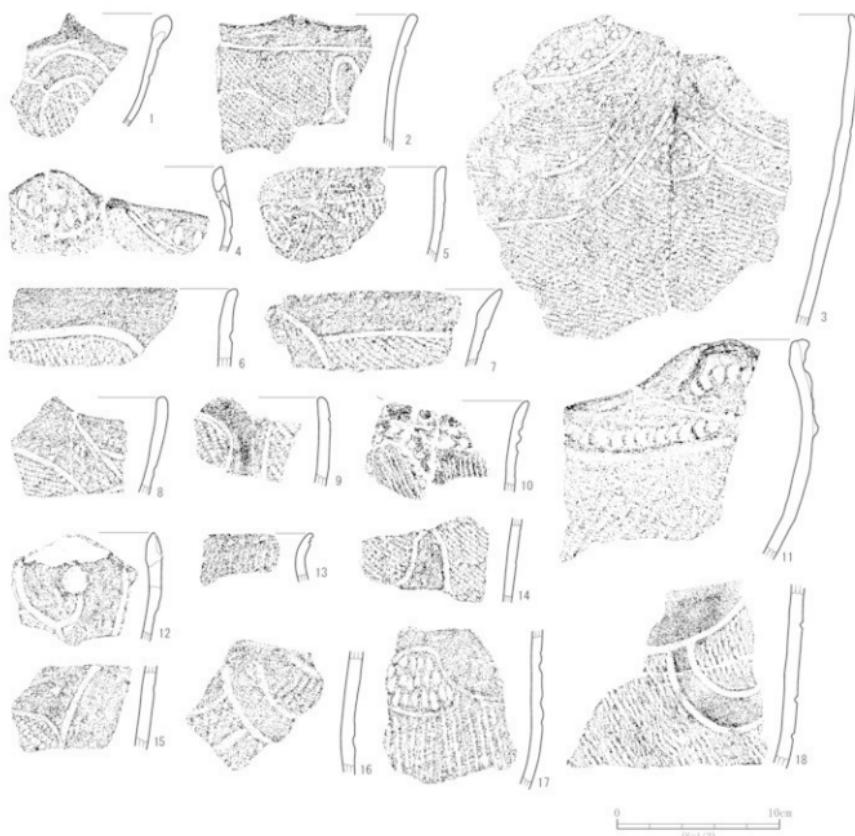
第194図 X層出土土器（4）



No.	登録番号	場所	遺物・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
								(S-1/3)
1	A-956A	XI	W300-N15	陶文土器	深鉢	口縁部・神龜文・LR網文	把手溝無。	50-7
2	A-941D	XI	W300-NSD	陶文土器	深鉢	口縁部・黄目3縦・模擬羅文区画・「O」字状文・刺文	表面または把手付近に、内側に苔苔斑あり。	50-8
3	A-903	XI	W300-N5	陶文土器	深鉢	側部・神龜文・RL網文		50-9
4	A-936A	XI	W300-NSD	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・LR網文		50-10
5	A-942B	XI	W300-NSD	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・L巻文		50-11
6	A-945	XI	W925-N5	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・「O」字状文・刺文		50-12
7	A-870	XI	W300-N5	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・LR網文		50-13
8	A-956B	XI	W300-N15	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・LR網文		50-14
9	A-907A	XI	W300-N5	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・疣文		50-15
10	A-1096B	XI	W300-N5	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・LR網文	A-1096上同一	50-16
11	A-927C	XI	W310-N20	陶文土器	深鉢	側部・神龜文・RL網文		50-17
12	A-947A	XI	W925-NSD	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・刺文・LR網文	外側に水彩模様・X-987上同一	50-18
13	A-928A	XI	W305-N15	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・RL網文		50-19
14	A-919	XI	W295-NSD	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・模擬羅文区画・LR網文	外側に赤彩模様。	50-20
15	A-947B	XI	W925-NSD	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・模擬羅文区画・LR網文	外側に水彩模様・X-987A上同一	50-21
16	A-914	XI	W295-N15	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・LR網文		50-22
17	A-908A	XI	W300-N5	陶文土器	深鉢	側部・神龜文区画・LR網文		50-23
18	A-927B	XI	W310-N20	陶文土器	深鉢	側部・模擬羅文・刺文・LR網文		50-24
19	A-950	XI	W305-N10	陶文土器	深鉢	側部・神龜文・刺文・LR網文		

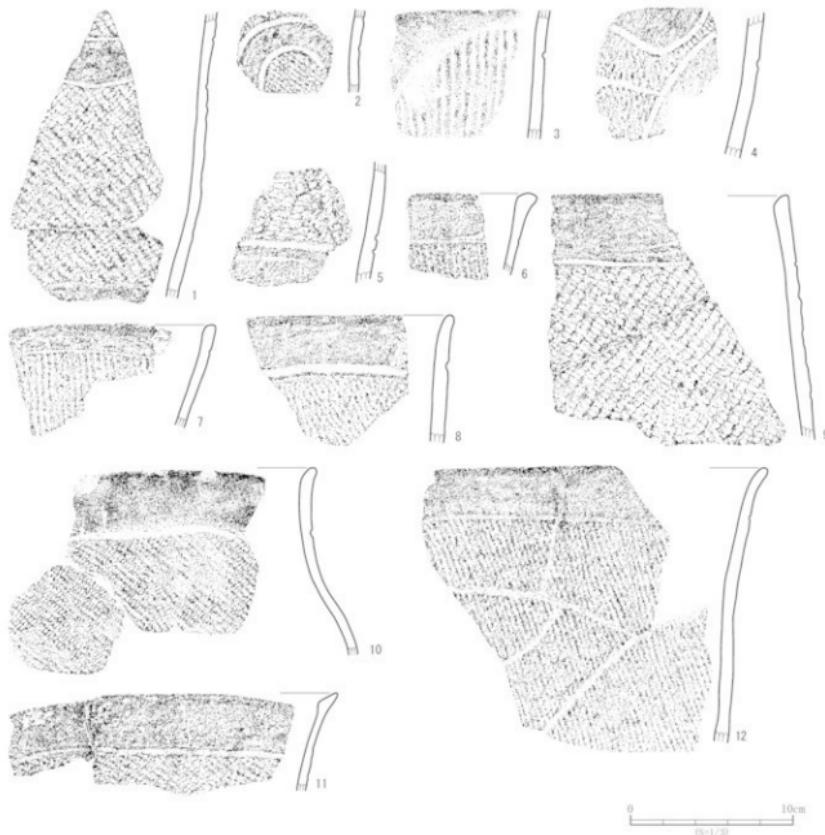
第195図 X層出土土器（5）

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



No.	登錄番号	層	遺跡・グリッド	種別	部	文様等	備考	写真回数
1	A-9460	XI	W 290・N10	陶土器	深鉢	口縁部-小形突起、沈殿文区画・(O)字状文・L型系文		58-25
2	A-884	XI	W 300・N5	陶土器	深鉢	口縁部-小底付・(H)字状文・L型系文		58-26
3	A-970	XI	W 200・S10	陶土器	深鉢	口縁部-側面沈殿文区画・刺突文・L型系文	外側の消磨痕らしい。	58-29
4	A-773B	XI	W 310・N15	陶土器	深鉢	口縁部-口沿突起・直筋文・沈殿文区画・押付織文区画		58-27
5	A-773A	XI	W 295・N15	陶土器	深鉢	口縁部-口沿突起・直筋文		58-28
6	A-962C	XI	W 310・N5	陶土器	深鉢	口縁部-直筋文区画・L型系文		58-1
7	A-773C	XI	W 305・N20	陶土器	深鉢	口縁部-直筋文区画・L型系文		58-2
8	A-925A	XI	W 305・N15	陶土器	深鉢	口縁部-小突起・直筋文・沈殿文区画・L型系文		58-3
9	A-917B	XI	W 295・N15	陶土器	深鉢	口縁部-直筋文区画・L型系文		58-4
10	A-908C	XI	W 300・N5	陶土器	深鉢	口縁部-直底付・(H)字状文区画・刺突文・L型系文		58-5
11	A-973	XI	W 305・N15	陶土器	深鉢	口縁部-小形突起・薄壁文・刺突文・L型系文		58-6
12	A-962B	XI	W 295・N20	陶土器	深鉢	口縁部-口沿突起・浅灰(?)色・(O)字状文・L型系文		58-7
13	A-908D	XI	W 300・N5	陶土器	盆	口縁部-刺突文・L型系文		58-8
14	A-908C	XI	W 300・N5	陶土器	深鉢	側部-沈殿文区画・L型系文	A-908Bと同一	58-9
15	A-923A	XI	W 305・N15	陶土器	深鉢	側部-刺突文・L型系文		58-10
16	A-942A	XI	W 300・NS0	陶土器	深鉢	側部-沈殿文区画・L型系文		58-11
17	A-957A	XI	W 300・N20	陶土器	深鉢	側部-沈殿文区画・刺突文・直筋系文		58-12
18	A-772	XI	W 305・N15	陶土器	深鉢	側部-沈殿文区画・L型系文		58-13

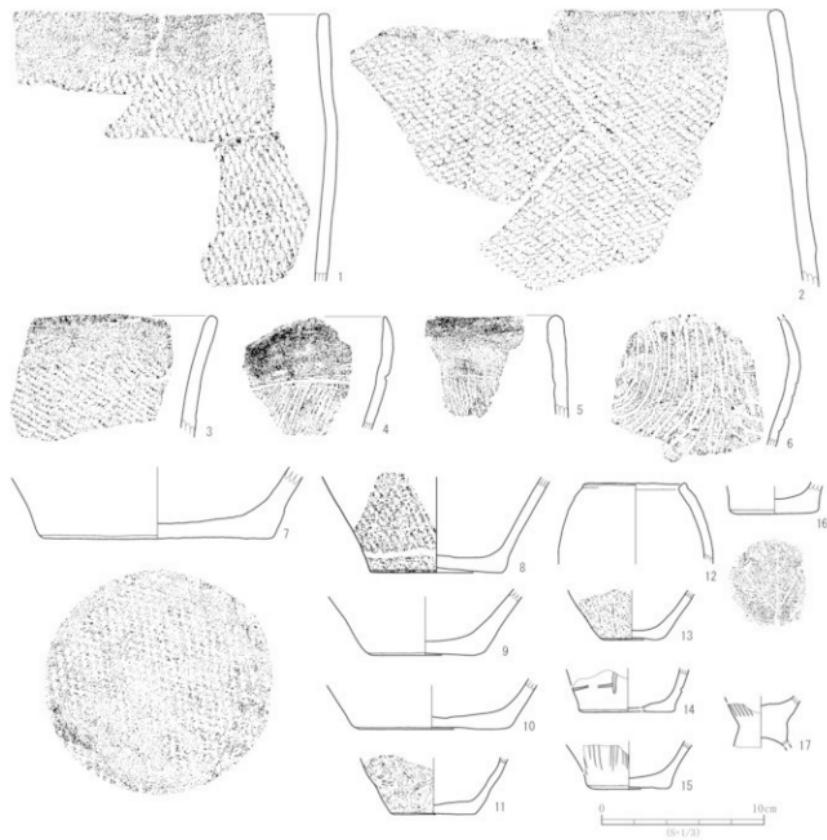
第196図 XI層出土土器（6）



No.	登録番号	場所	遺跡・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真版
1	A-871	XI	W300・N5	陶土器	深鉢	網目・北朝文・区角・LB網文		5a-14
2	A-9080	XI	W300・N5	陶土器	深鉢	網目・北朝文・区角・LB網文	A-908Cと同一	5a-15
3	A-927A	XI	W310・N20	陶土器	深鉢	網目・北朝文・区角・沈目文		5a-16
4	A-908B	XI	W300・N10	陶土器	深鉢	網目・北朝文・区角・利多文・L形系文	A-908Aと同一	5a-17
5	A-923B	XI	W310・N20	陶土器	深鉢	網目・北朝文・区角文		5a-18
6	A-957B	XI	W300・N20	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・区角文		5a-19
7	A-941A	XI	W300・N50	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・区角文		5a-20
8	A-960A	XI	W310・N15	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・区角文	A-908Bと同一	5a-21
9	A-869	XI	W300・N5	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・区角文	A-875と同一	5a-22
10	A-934	XI	W300・N50	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・区角文		5a-23
11	A-865	XI	W300・N5	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・LB網文		5a-24
12	A-890	XI	W300・N5	陶土器	深鉢	1層目・北朝文・網目・L形系文	内面に灰化物付着	5a-25

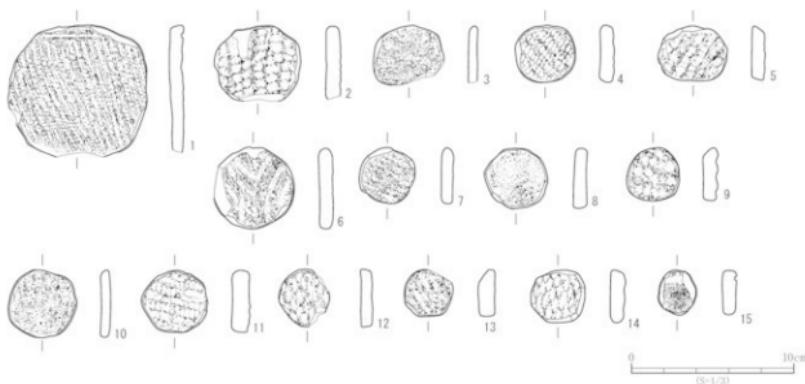
第197図 X層出土土器（7）

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



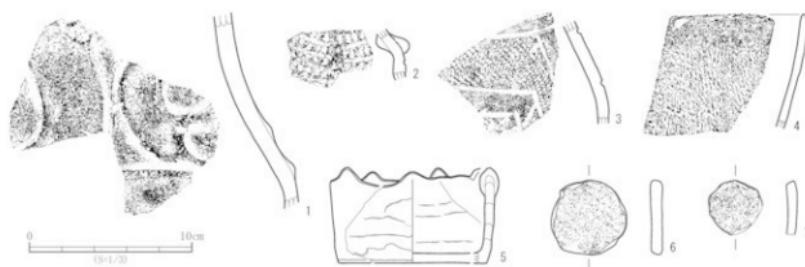
No.	登録番号	層位	遺物・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-935	Ⅲ	W300・N50	陶文土器	深鉢	口縁一部無・L巻条文	50-1	
2	A-924	Ⅲ	W305・N15	陶文土器	深鉢	口縁一部・L巻文	50-2	
3	A-936A	Ⅲ	W290・N10	陶文土器	深鉢	口縁一部・L巻文	50-25	
4	A-905C	Ⅲ	W300・N5	陶文土器	深鉢	口縁一部・波状1周・沈縮文、EL巻文	50-3	
5	A-932C	Ⅲ	W300・N5	陶文土器	深鉢	口縁一部・波文・条文	50-4	
6	A-931A	Ⅲ	W300・N5	陶文土器	深鉢	側部・波文	50-5	
7	A-1095	Ⅲ	W310・N15	陶文土器	深鉢	側部・十字・波形・網代文	50-7	
8	A-826	Ⅲ	W300・N5	陶文土器	深鉢	側部・L巻条文、底部・ナフ	50-6	
9	A-930B	Ⅲ	W310・N20	陶文土器	深鉢	側部・ナフ・底部・ナフ	50-6	
10	A-908A	Ⅲ	W310・N20	陶文土器	深鉢	側部・ナフ・底部・網代文	-	
11	A-896	Ⅲ	W300・N5	陶文土器	深鉢	側部・L巻条文、底部・ナフ	-	
12	A-883	Ⅲ	W300・N5	陶文土器	小型土器	口縁一部・側部・ナフ	50-13	
13	A-929A	Ⅲ	W305・N15	陶文土器	小型土器	側部・L巻条文、底部・ナフ	50-8	
14	A-946	Ⅲ	W925・N5	陶文土器	小型土器	側部・沈縮文、底部・ナフ	50-9	
15	A-949	Ⅲ	W310・N15	陶文土器	小型土器	側部・条文、底部・ナフ	50-10	
16	A-913	Ⅲ	W290・N15	陶文土器	小型土器	側部・ナフ・底部・本粟張	50-11	
17	A-921	Ⅲ	W310・N20	陶文土器	小型土器	側・側部・R巻条文	50-12	

第198図 X層出土土器（8）



No.	登録番号	場所	遺跡・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	P-40	Ⅲ	W 303・N20	土製品	土製円盤	沈縞文・其他の布文	83×79×8mm 71g	55-14
2	P-55	Ⅲ	W 295・N20	土製品	土製円盤	IR縞文	52×45×9mm 23g	55-15
3	P-52	Ⅲ	W 300・N5	土製品	土製円盤	ミガキ	41×34×5mm 12g	55-16
4	P-58	Ⅲ	W 310・N20	土製品	土製円盤	IR縞文	36×34×9mm 12g	55-17
5	P-74	Ⅲ	W 300・N20	土製品	土製円盤	IR縞文	41×33×8mm 14g	55-18
6	P-63	Ⅲ	W 300・N5	土製品	土製円盤	沈縞文	49×47×9mm 26g	55-19
7	P-51	Ⅲ	W 310・N15	土製品	土製円盤	IR縞文	33×33×7mm 10g	55-20
8	P-57	Ⅲ	W 310・N15	土製品	土製円盤	ナマ	37×36×8mm 12g	55-21
9	P-78	Ⅲ	W 295・N15	土製品	土製円盤	IR縞文	31×31×9mm 9g	55-22
10	P-96	Ⅲ	W 300・N5	土製品	土製円盤	IR縞文	40×40×5mm 13g	55-23
11	P-47	Ⅲ	W 300・N5	土製品	土製円盤	IR縞文	39×37×1mm 16g	55-24
12	P-50	Ⅲ	W 305・N10	土製品	土製円盤	IR縞文	34×31×8mm 8g	55-25
13	P-62	Ⅲ	—	土製品	土製円盤	IR縞文	28×28×10mm 9g	55-26
14	P-53	Ⅲ	W 305・N20	土製品	土製円盤	IR縞文	32×31×9mm 12g	55-27
15	P-75	Ⅲ	W 310・N10	土製品	土製円盤	沈縞文	26×22×9mm 6g	55-28

第199図 X層出土土器（9）



No.	登録番号	場所	遺跡・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-897	Ⅲ	SD6	陶文土器	深鉢	側部・楕円降龍文・隣面文区画	55-29	
2	A-1032	Ⅴ	W 290・N20	陶文土器	皿	側部・沈縞文・沈縞文・別沈縞文・刺突文	55-30	
3	A-1054	Ⅴ	SD209	陶文土器	皿	側部・沈縞文区画・IR縞文	55-31	
4	A-1053	Ⅴ	SD12	陶文土器	深鉢	口縁部・自然系	55-32	
5	A-1055	Ⅴ	SD10	陶文土器	小型土器	口縁・側部・山形文・小波状口縁・ナマ	55-33	
6	P-61	Ⅲ	SD6	土製品	土製円盤	IR縞文	45×44×6mm 20g	55-34
7	P-64	Ⅴ	SD209前0 月	土製品	土製円盤	沈縞文	34×31×6mm 7g	55-35

第200図 III～VI層出土土器

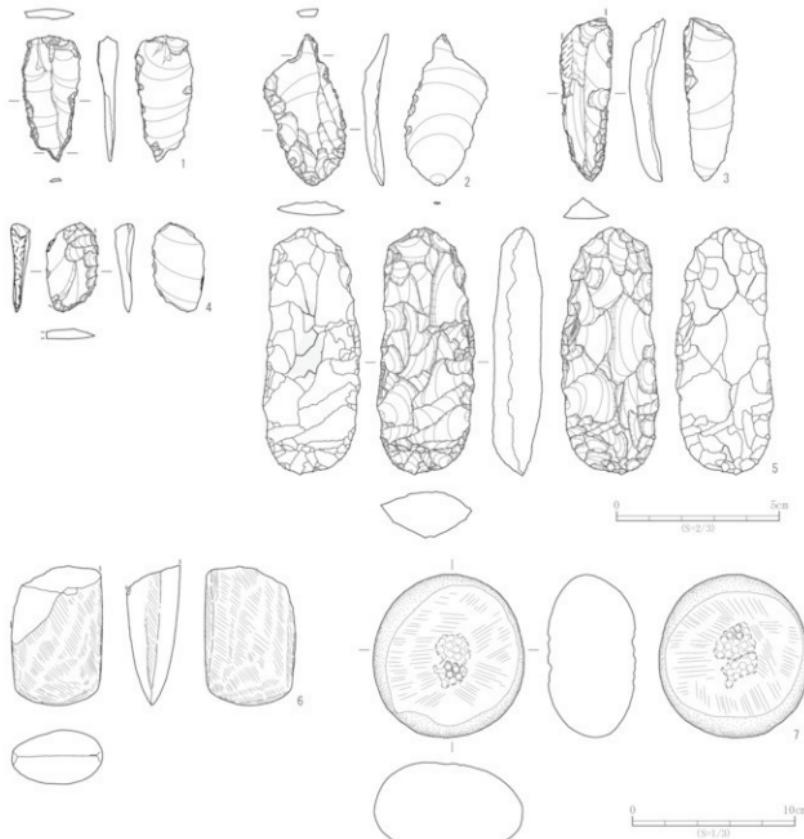
は不定形石器である。3は上部を欠損するが、両側縁に施された二次加工により刃部が作出され、特に下端部はやや鈍角ではあるが尖頭状の加工が認められる削器である。4も側縁に連続する二次加工が施された削器の破片である。5は石砲である。長さが7.5cmを測る比較的大形のもので、調整加工は器体の表裏全面に施されている。やや粗い剥離によって面的な整形を行い、その後に縁辺部に細かな二次加工を施している。6は磨製石斧の欠損品であり、胴部から基部を欠損する。研磨は全面に施されており、個面の顕著な面取りから石斧主面との間に棱が作られ、横断面形が隅丸長方形に近い。7は磨石である。やや扁平な円錐の表裏の平坦面に研磨痕が観察されるもので、研磨痕の中央部には研磨以前の凹みを2ヶ所残す。

IX・X層出土石器（第202図、図版56）

IX・X層から計11点の石器が出土した。器種別の内訳は石鏃2点、石錐2点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片3点、石核1点であり、そのうち石鏃1点を第202図1に図示した。正面の中央部には素材面が残される。

X層出土石器（第202～207図、図版56～58）

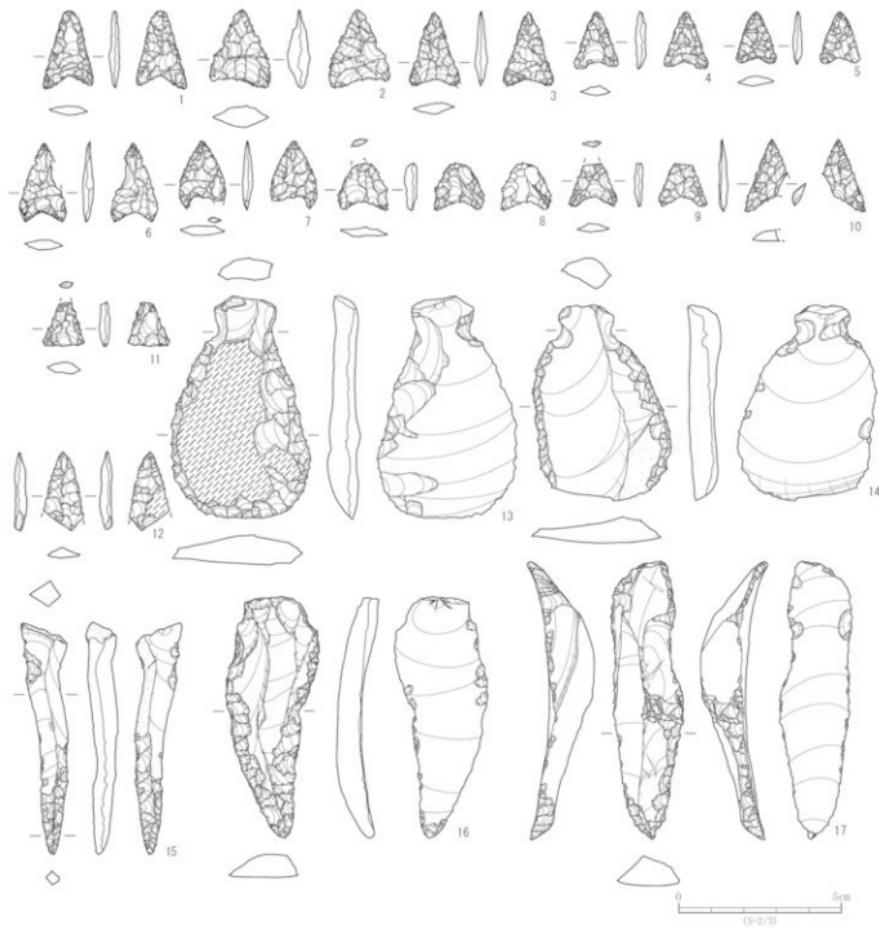
XI層からは計390点の石器が出土した。器種別の内訳は石鏃15点、石錐5点、石匙2点、不定形石器32点、石砲1点、楔形石器1点、二次加工のある剥片50点、微細剥離痕のある剥片24点、剥片189点、石核14点、磨製石斧1点、磨石13点、凹石20点、敲石16点、砥石3点、石皿2点、台石1点、礫器3点、その他2点であり、そのうち石鏃11点、石匙2点、石錐1点、不定形石器10点、石砲1点、磨製石斧1点、磨石6点、凹石4点、砥石1点を第202～207図に図示した。第202図2～12は石錐である。平面の形状は3～5・9・10は両側縁が直線状に開いて基部に施された抉りによって脚部が作出されるもので、特に10では基部の抉りがやや深く、脚部の形状も尖頭状である。調整加工はいずれも表裏の両面に施されている。2・6・8は側縁の脚部が内湾するものであり、2・6・8では側縁の脚部付近に角を持つ。また、7は両側縁が緩やかに湾曲し、脚部に向かってきつくなり、基部の抉りによって円脚鏃に近い形状となる。調整加工は表裏両面に施されている。11は先端部を欠損する。12は基部を欠損する。残存部の調整加工は裏面の一部に節理面を残すが、表裏の両側縁から二次加工が施されている。13・14は石匙である。縁辺部を中心で二次加工を施している。打面部側をつまみ部としており、打面及び打点は残される。つまみ部は、両側縁の表裏に施された二次加工の抉りによって作出されている。刃部の形状は素材の側縁を中心に施された二次加工によって縦型を呈するが、13では刃部の二次加工が端部を回り込んで施されており、円刃を呈する。15は石錐である。断面が菱形の棒状の剥片を素材とし、端部を中心に両側縁から表裏への二次加工により錐部が作出されている。なお、平面形の上での明確な切り替えは認められないが、錐部作出の二次加工が途切れた上半をつまみ部とした。第202図16～203図8は不定形石器である。第202図16・17・第203図1～5はいずれも側縁に刃部作出のための二次加工が認められる削器である。これらの削器の内、第202図16・17・第203図1～3は両側縁に施された連続した二次加工によって、器体下端部の形状が先細り状となるものである。調整加工はいずれも両側縁に施されるが、5は裏面の右側縁に部分的に施されており、その形状から抉り入り削器、所謂ノッチとしても捉えられる可能性もある。6～8も素材の側縁に二次加工が認められる削器であるが、いずれも欠損品である。第204図1は石砲としたが、全体的な状況は使用により先端部がつぶれた尖頭器とも言えるような形状である。本石器は特に作りが薄手であり、両端の形状が丸みを帯びている。刃端部の位置は断面の形状から器体の下端としたが、それほど明確なものではない。2は磨製石斧である。平面の形状は刃部に向かって両側縁が広がる撥形に近い形状で、器体のほぼ全面に研磨痕が観察される。全体的な形状は側面の顕著な面取りから石斧主面との間に棱が作られ、横断面形が隅丸長方形に近い形状である。なお、器体の胴部及び側面の一部には敲打による整形痕と剥離痕もある。第204図3～6・第205図2・第206図1は磨石である。やや扁平な円錐の表裏両面あるいは片面の平坦部に研磨痕が観察される。なお、第204図5・6・第205図2・第206図1には研磨よりも古い凹みや敲打痕も観察される。特に第204図



No.	登錄番号	層位	遺構・グリット	種別	器種	石種	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
1	Ka-c2-4	B	W300-N5	打製石器	石器	珪質岩	2.7×1.7×0.6	2.3	つまみ付き、縦長溝片素材。	56-1
2	Ka-e1-5	B	W305-N20	打製石器	石器	珪質岩	4.5×2.5×0.7	4.0	縦溝、刃部鋒行、縦長溝片素材。	56-2
3	Ka-eH-21	B	W300-NS0	打製石器	不定形石器	珪質岩	4.8×1.6×1.1	5.1	角器、刃部ト彫刻先端底、石刃状剥片素材、上部欠損。	56-3
4	Ka-e1-22	B	W305-N15	打製石器	不定形石器	珪質岩	(2.27)×(1.6)×(0.5)	(2.0)	角器、左側縫ハサツ、上部欠損。	56-4
5	Ka-e2-3	B	W300-N15	打製石器	石器	珪質岩	2.5×3.0×1.6	35.9	両面加工、剝離形、表面に光沢あり。	56-5
6	Kb-a-1	B	W300-NS0	磨製石器	磨製石器	矽灰岩	(9.4)×(5.5)×(3.2)	(182.0)	定角形、頭端欠損。	56-6
7	Ke-a-20	B	-	磨石器	磨石	安山岩	99×92×5.3	207.0	擦1+1, 擦2+2,	56-7

第201図 Kita層出土石器

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査



No.	登録番号	規. 号	遺構・グリッド	種	形	器種	石・材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Ka-a3-9	X-X	W 300-N80	打製石器	石織	猿賀直絶	23.5×1.5×0.3	66	凹基面。	56-8	
2	Ka-a2-10	X	W 300-N 5	打製石器	石織	猿賀直絶	23.5×0.9×0.7	16	凹基面。	56-9	
3	Ka-a2-11	X	W 300-N 5	打製石器	石織	猿賀直絶	(2.20×1.5)×0.4 (0.7)		凹基面、右側端部欠損。	56-10	
4	Ka-a2-12	X	W 295-N 5	打製石器	石織	猿賀直絶	17.5×1.3×0.3	55	凹基面。	56-11	
5	Ka-a2-13	X	W 300-N80	打製石器	石織	猿賀直絶	15.5×1.2×0.3	53	凹基面。	56-12	
6	Ka-a2-14	X	W 300-N80	打製石器	石織	猿賀直絶	24.5×1.4×0.3 (0.7)		凹基面、右側端部欠損。	56-13	
7	Ka-a2-15	X	W 300-N10	打製石器	石織	猿賀直絶	20×1.4×0.3 (0.6)		凹基面、右側端部欠損。	56-14	
8	Ka-a2-16	X	W 300-N80	打製石器	石織	猿賀直絶	(1.4)×1.5×0.4 (0.6)		凹基面、先端部欠損。一連バティアあり。	56-15	
9	Ka-a2-17	X	W 300-N 5	打製石器	石織	猿賀直絶	(1.3)×1.5×0.3 (0.3)		凹基面、先端部欠損。	56-16	
10	Ka-a2-18	X	W 300-N 5	打製石器	石織	猿賀直絶	21×1.3×0.3	64	凹基面、右側端部欠損。	56-17	
11	Ka-a2-3	X	W 300-N80	打製石器	石織	猿賀直絶	(1.3)×1.3×0.3 (0.3)		平基面、先端部欠損。	56-18	
12	Ka-a2-3	X	W 300-N 5	打製石器	石織	猿賀直絶	(2.3)×(1.2)×(0.4) (0.7)		基底欠損。	56-19	
13	Ka-a1-6	X	W 300-N20	打製石器	石丸	猿賀直絶	67×43×1.0	251	縦型、刃部が溝状。縦長剥片去材。	56-20	
14	Ka-a1-7	X	W 300-N20	打製石器	石丸	猿賀直絶	59×42×1.0	206	縦型、刃部が溝状。縦長剥片去材。	56-21	
15	Ka-e2-5	X	W 300-N20	打製石器	石織	猿賀直絶	58.8×1.0	49	「つみ付き」。	56-22	
16	Ka-e11-23	X	W 305-N10	打製石器	不定形石器	猿賀直絶	7.2×28×1.3	36.3	削形、刃部Y字溝状剥片去材。	56-23	
17	Ka-e11-24	X	W 300-N 5	打製石器	不定形石器	猿賀直絶	8.4×22×2.1	19.1	削形、刃部Y字溝状剥片去材。	56-24	

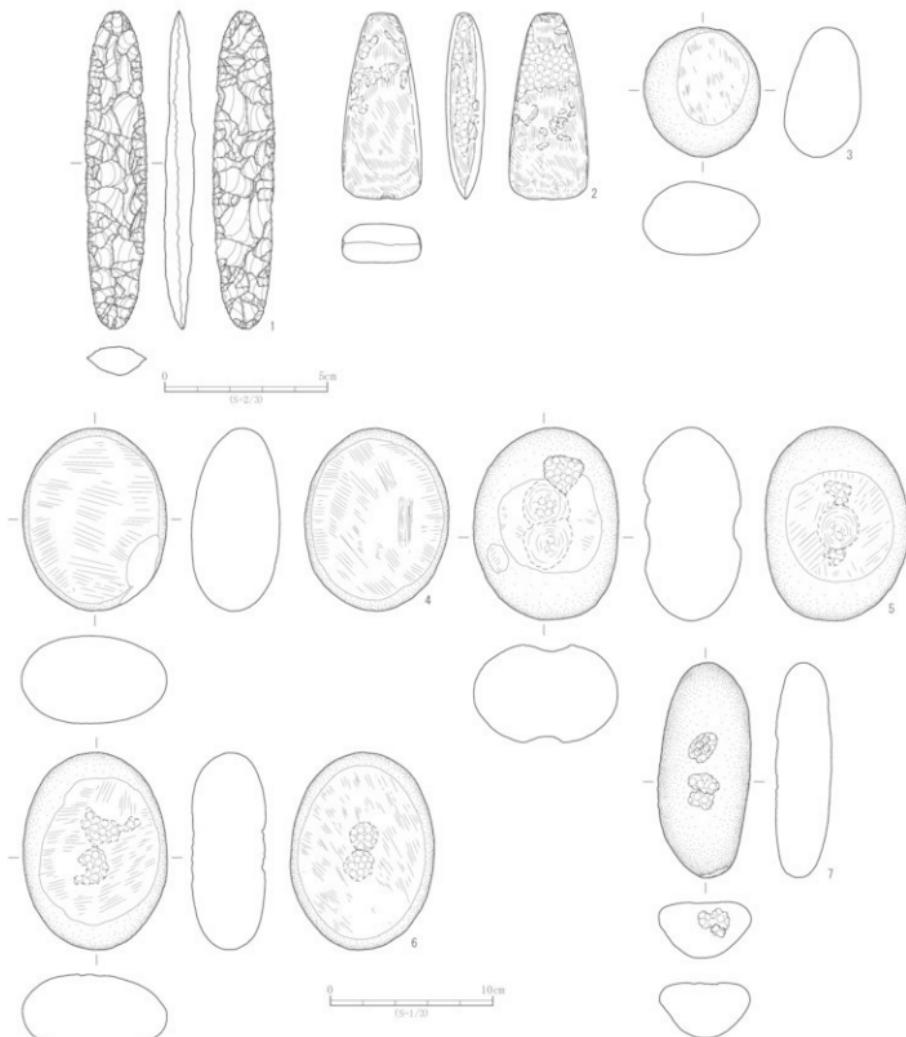
第202図 IX・X層出土石器、XI層出土石器（1）



No.	登錄番号	層	記	遺物・アリット	種別	器種	石質	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
1	Ka-el-25	XI		W300・N20	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	10.5×5.1×2.8	97.5	刮削器、刃端不規則鋸歯状、基部に複数斜行溝、細長薄片素材。	56-25
2	Ka-el-26	XI		W300・N10	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	7.2×2.5×1.0	33.6	刮削器、刃端不規則鋸歯状、右刃状剥片素材。	56-1
3	Ka-el-27	XI		W300・N15	打製石器	不定形石器	玉髓	5.7×1.8×0.8	46	刮削器、刃端不規則鋸歯状、右刃状剥片素材。	56-2
4	Ka-el-28	XI		W300・N50	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	9.9×2.2×1.0	(10.1)	刮削器、刃端不規則鋸歯状、下端部欠損。	56-3
5	Ka-el-29	XI		W300・N30	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	8.9×3.1×1.1	37.6	刮削器、右刃状剥片素材。	56-4
6	Ka-el-30	XI		W295・N50	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	4.5×2.6×1.5	30.6	刮削器、上端欠損。	56-5
7	Ka-el-31	XI		W300・N5	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	2.7×3.7×1.0	7.3	刮削器、上端欠損後の再生品の可能性あり。	56-6
8	Ka-el-32	XI		W300・N5	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	(3.9)×(3.4)×(0.8)	(7.4)	刮削器、上端欠損。	56-7

第203図 XI層出土石器（2）

第4節 下ノ内遺跡2C区の調査

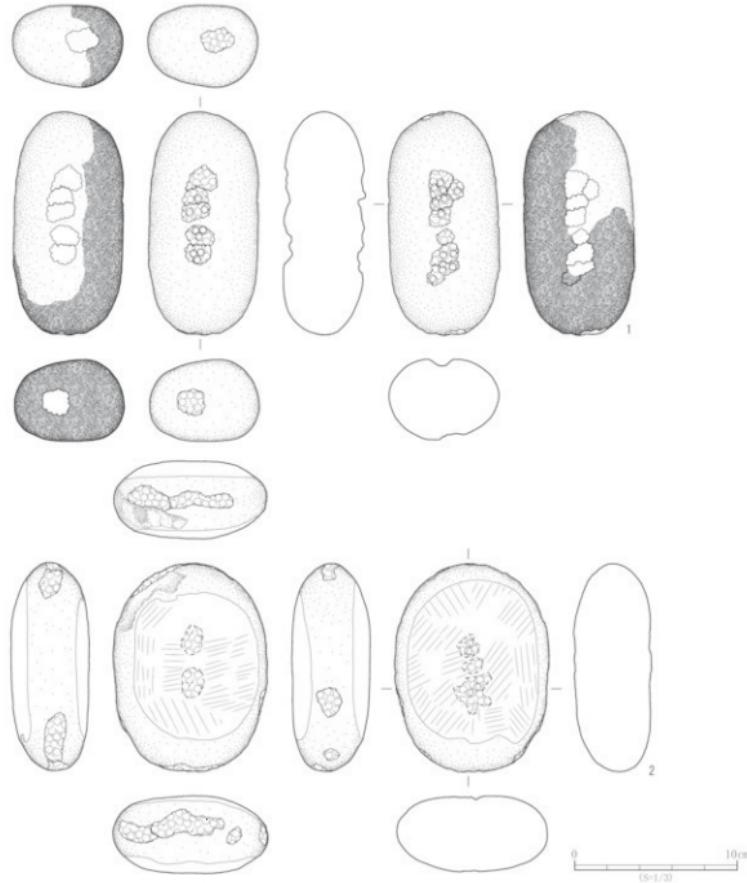


No.	登録番号	類	遺構・グリッド	種	羽	器・縫	石・材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-22-4	XI	W300・N20	打製石器	石塊	鍛貫貝殻	9.4×1.9×0.9	15.8	両面加工、縫身の鉄骨形。	図-8	
2	Kb-2-2	XI	W300・N15	打製石器	磨製石斧	鍛貫貝殻	11.3×4.8×2.4	213.0	定角形、調整溝及び敲打痕を残す。	図-9	
3	Kc-2-21	XI	W295・N 5	砸石器	磨石	安山岩	7.8×7.1×1.5	277.0	図1+0。	図-10	
4	Kc-2-22	XI	W305・N15	砸石器	磨石	安山岩	10.0×8.8×3.4	742.0	図1+1。正面部分欠損。	図-11	
5	Kc-2-23	XI	W300・N50	砸石器	磨石	安山岩	11.6×8.7×5.9	790.0	図2+1、図2+1、図1+2。側に粗い研磨面あり。	図-12	
6	Kc-2-24	XI	W300・N15	砸石器	磨石	安山岩	11.8×8.8×4.5	614.0	図1+1、図2+2。	図-13	
7	Kc-2-19	XI	W305・N15	砸石器	閃石	安山岩	12.0×5.6×3.4	338.0	図2+0、図2+1。	図-14	

第204図 XI層出土石器（3）

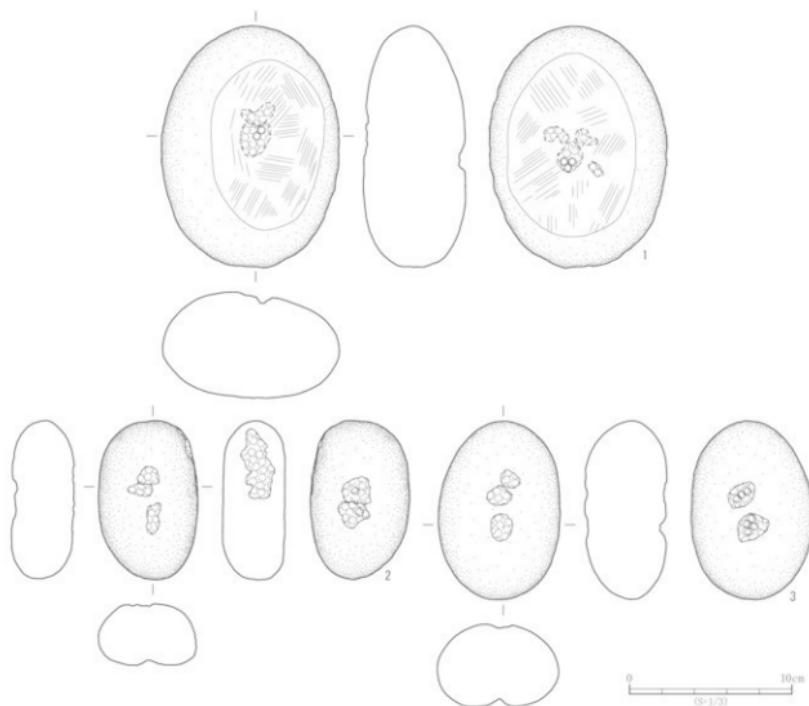
5では通常の研磨痕と共に表裏に施された凹みにも粗い擦痕状の研磨が観察される。

第204図7・第205図1・第206図2・3は凹石である。楕円縁あるいは棒状縁の片面あるいは両面に凹みが観察されるものである。なお、第204図7・第205図1・第206図2には器体の端部あるいは側縁にも敲打痕が観察されるが、主要な使用部位として凹石とした。凹みは敲打集中のために深くなったものとした。また、第205図1には被熱痕も観察されたが、この被熱は凹みや敲打よりも古いものである。第207図1は砥石である。大型扁平縁の片面の中央部に砥面が認められるものである。研磨痕が細かく面的であり、敲打による整形も認められないことから砥石とした。



第205図 XI層出土石器（4）

No.	登録番号	層	遺構・グリッド	種別	認 種	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	Kc-b-20	XI	W310-N10	砸石器	凹石	頁岩	13.7×6.7×5.0	6330	凹5+7, 頂上下, 被熱痕あり。	22-15
2	Kc-a-25	XI	W310-N10	砸石器	凹石	安山岩	12.7×9.4×4.7	8040	凹1+1, 凹2+3+上7+横1,	22-16

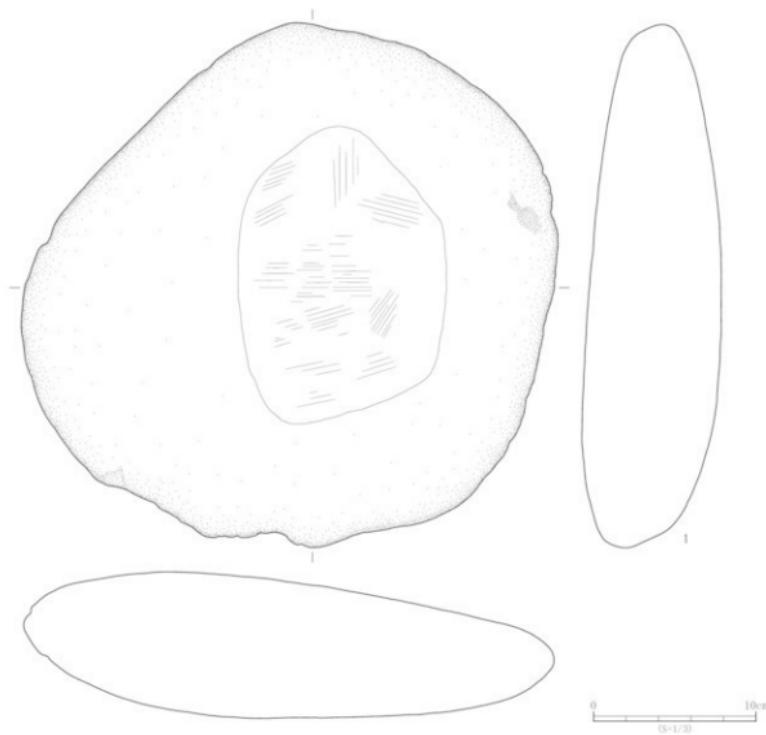


No.	登錄番号	層	遺構・グリッド	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	標示	写真図版
1	Kc-g-20	XI	W 305+N50	椎石器	磨石	安山岩	14.7×10.7×6.4	1201.0	P01+1, P02+4,	22-17
2	Kc-h-21	XI	W 305+N15	椎石器	磨石	安山岩	9.6×6.1×3.8	360.0	P02+2, 調査1,	22-18
3	Kc-h-22	XI	W 315+N 5	椎石器	磨石	安山岩	10.8×7.5×5.0	603.0	P02+2,	22-19

第206図 XI層出土石器（5）

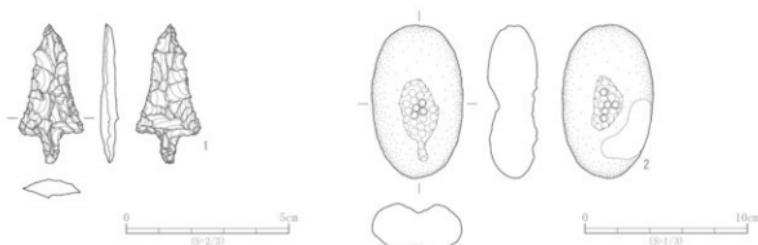
III・V層出土石器（第208図、図版58）

2C区の古代の遺構及び包含層から出土した石器は計24点である。器種別の内訳は石鏃1点、不定形石器6点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片8点、磨石2点、凹石4点、石鍤1点であり、そのうち石鏃1点、凹石1点を第208図に図示した。1は有茎石鏃である。調整加工は器体の両面に施される。平面の形状は両側縁の先端部付近に小突起が認められ、そこから基部にかけては緩やかに外反する。基部はほぼ水平に作出され、茎部の作り出しは顕著である。2は扁平な円錐を素材とし、表裏の中央部に1ヶ所ずつの凹みが認められるものである。



No.	登録番号	層 位	遺構・グリッド	種 別	器 物	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	Kc-b-4	XI	W305・N20	擦石器	研石	安山岩	32.3×32.8×8.9	12,500	鶴1+0.	58-3

第207図 XI層出土石器（6）

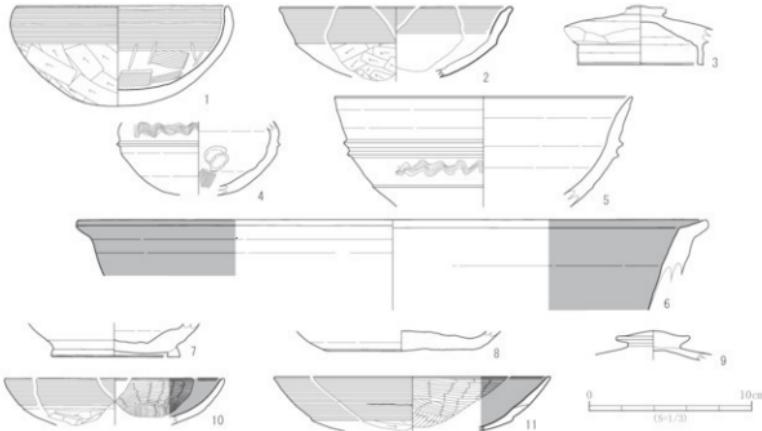


No.	登録番号	層 位	遺構・グリッド	種 別	器 物	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	Ka-a-2	V	W300・N10	打撲石器	石器	頁岩	42×20×0.5	21	有多石縫。	58-1
2	Kc-b-23	III	SK205・3層	擦石器	凹石	安山岩	92×56×3.0	18,600	鶴1+1。表面一部欠損。	58-2

第208図 III・V層出土石器

2) 古墳時代～古代（第209図、図版58）

11点を図示した。第209図1・2は、土師器の坏である。1は底部～体部が半球形で、そのまま口縁部にいたる。2は有段丸底坏である。3は須恵器蓋である。4は罐の体部片である。体部中央や上半に一条の棱を持ち、その直下に櫛描波状文が施されている。5は須恵器高坏の坏部である。体部に二条の鋭い棱を持ち、その直下に櫛描波状文が施されている。器形・文様から無蓋短脚高坏の可能性が考えられる。6は土師質土器の口縁部片である。鉢と考えられる。7は須恵器壺、8は須恵器坏底部、9は須恵器蓋フマミである。10・11は有段丸底坏である。



No.	登録番号	層位	遺構・グリッド	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外側調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-44	V	W 299・S13	土師器	坏	12.8××6.0	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナギのちもぎき	58-4	
2	C-45	V	W 300・N20	土器	坏	(14.2)××規42	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ	58-5	
3	E-13	V	W 310・N10	須恵器	蓋	規21×規6×規30	ロクロナデ	ロクロナデ	58-6	
4	E-14	V	W 300・N10	須恵器	罐	×××規4.1	ロクロナデ・櫛描波状文	ロクロナデ・ヘラナギ・指オサス	58-7	
5	E-25	V	-	須恵器	高坏	(18.2)××規6.7	ロクロナデ・櫛描波状文	ロクロナデ	無蓋短脚?	58-8
6	I-24	V	-	土器	鉢	(26.8)××規6.0	ロクロナデ・黒色處理	ロクロナデ・黒色處理	58-9	
7	E-16	N	W 300・N20	須恵器	壺	-×7.8×規2.0	ロクロナデ 見込み部斜削ヘラのち周縁ナガ	ロクロナデ	58-10	
8	E-37	N	W 300・N10	須恵器	坏	×10.8×規1.3	ロクロナデ 表面斜削ヘラケズリ	ロクロナデ	58-11	
9	E-38	N	W 300・N10	須恵器	壺	×××規1.7	ロクロナデ 斜削ヘラケズリ	ロクロナデ	58-12	
10	C-46	N	W 300・N20	土器	坏	(13.4)××規2.8	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色處理	58-13	
11	C-47	N	W 300・N20	土器	坏	(16.8)××規3.3	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色處理	58-14	

第209図 古墳時代～古代出土遺物

9. 3A区の調査

3A区では基本層Ⅲ層上面（古代～近世の遺構検出面）において、竪穴住居跡1軒、土坑39基、性格不明遺構2基、溝跡14条、ピット938基、V層上面（古墳時代・古代の遺構検出面）において、土坑1基、性格不明遺構1基、小溝状遺構群2群、ピット104基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては、遺構配置図にのみ表示している。

（1）Ⅲ層検出の遺構と遺物（第212図、図版17・18）

1) 竪穴住居跡

SI337竪穴住居跡（第210図）

【位置】 W350・N0-S0グリッドに位置するが、遺構間の重複と搅乱により遺存状態は良好ではない。

【新旧関係】 SX346、P1401と重複関係にあり、SX346より新しく、P1401より古い。

【規模・形態】 南北2.65m、東西の残存長22.0

mで、平面形は方形と思われる。

【主軸方位】 カマドが検出されず確定できないが、遺存する西壁を基準にするとN-11°-Wである。

【堆積土・構築土】 住居跡の遺存部分は少ないが、住居堆積土は4層に分層される。

【壁面】 壁は床面から急傾斜で立ち上がり、壁高は25～40cmである。

【床面】 掘り方底面であるⅢ層を直接床面としており、ほぼ平坦である。

【柱穴】 住居跡の遺存状態が良好でないことから判然としないが、配置・規模からP1・2が主柱穴と考えられ、本米は4本柱の形式と推定される。規模は径25～40cm、深さは10～18cmである。柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】 検出されていない。

【カマド】 カマドの構築位置は不明である。

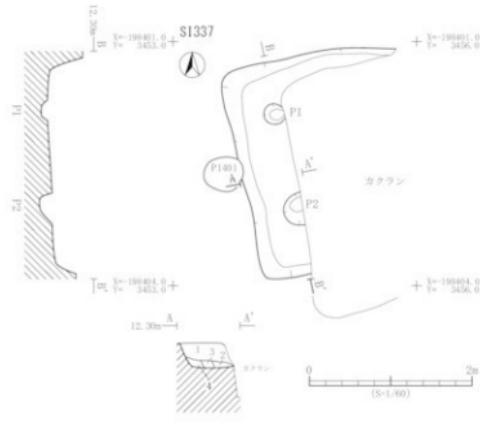
【出土遺物】 遺物は出土していない。

2) 土坑

SK297土坑（第213図） W360・N0-S0グリッドで検出した。P1549・1550・1553と重複関係にあり、P1549より新しく、他の遺構より古い。平面形は長方形で、長軸方向はN-88°-Wである。規模は長軸230cm、短軸90cm、深さ89～95cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は3層に分層される。遺物は、土師器壺片が出土した。

SK298土坑（第213図） W360・N0-S0グリッドで検出した。P1537と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は長方形で、長軸方向はN-1°-Eである。規模は長軸180cm、短軸65cm、深さ55～60cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は5層に分層される。遺物は、土師器壺片が出土した。

SK299土坑（第213図、図版18） W360～370・N0-S0グリッドで検出した。P1572と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、規模は一辺100cm、深さ10cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底



第210図 SI337竪穴住居跡平面図・断面図

番号	部位	土色	性質	備考
1	P0Y1	褐色	粘土質シルト	炭化物と褐色シルトブロックを含む。
2	P0Y1.24リープ	褐色	粘土	粘性はややあるが、練り土が混入。
3	P0Y1.24リープ	褐色	褐色シルトブロックを少量含む。	
4	P0Y1.24リープ	褐色	粘土	粘性はややあるが、練まりが悪い。

面は擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

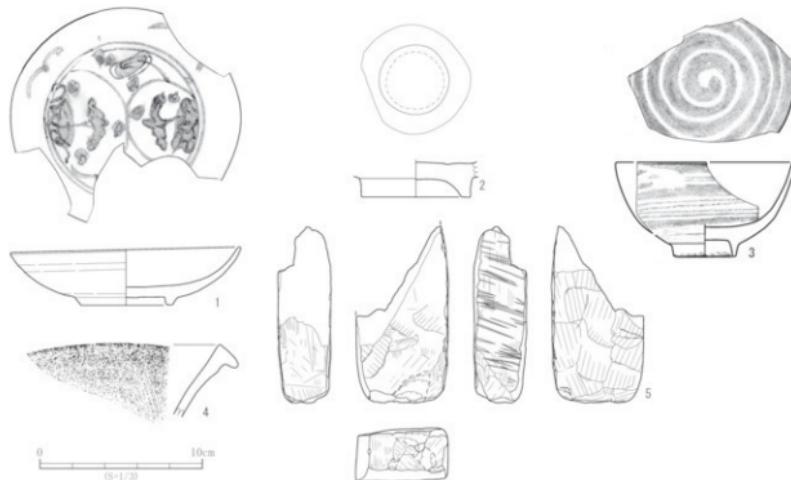
SK300土坑（第213図） W360~370・S10グリッドで検出した。SK304、SD296、P1604と重複関係にあり、P1604より古く、他の遺構より新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-89°-Wである。規模は長軸202cm、短軸116cm、深さ17cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は、陶器類・砥石が出土し、第211図に5点を示した。1は初期伊万里の染付皿であり、SD296で出土した破片と接合した。2は肥前産陶器の輪剥げ碗の高台部破片、3は肥前産陶器（唐津）の粉引碗、4は在地産の擂鉢破片で、5は砥石である。

SK301土坑（第213図） W370・S20グリッドで検出した。P1620と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は長方形で、長軸方向はN-3°-Wである。規模は長軸128cm、短軸77cm、深さ10~18cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK302土坑（第213図） W370-S20グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-2°-Eである。規模は長軸94cm、短軸55cm、深さ35cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は5層に分層される。遺物は、土器師壺小片が出土した。

SK303土坑（第213図） W370-S20グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径100cm、深さ45~53cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は概ね逆台形で、底面の東側にはピット状の窪みがある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

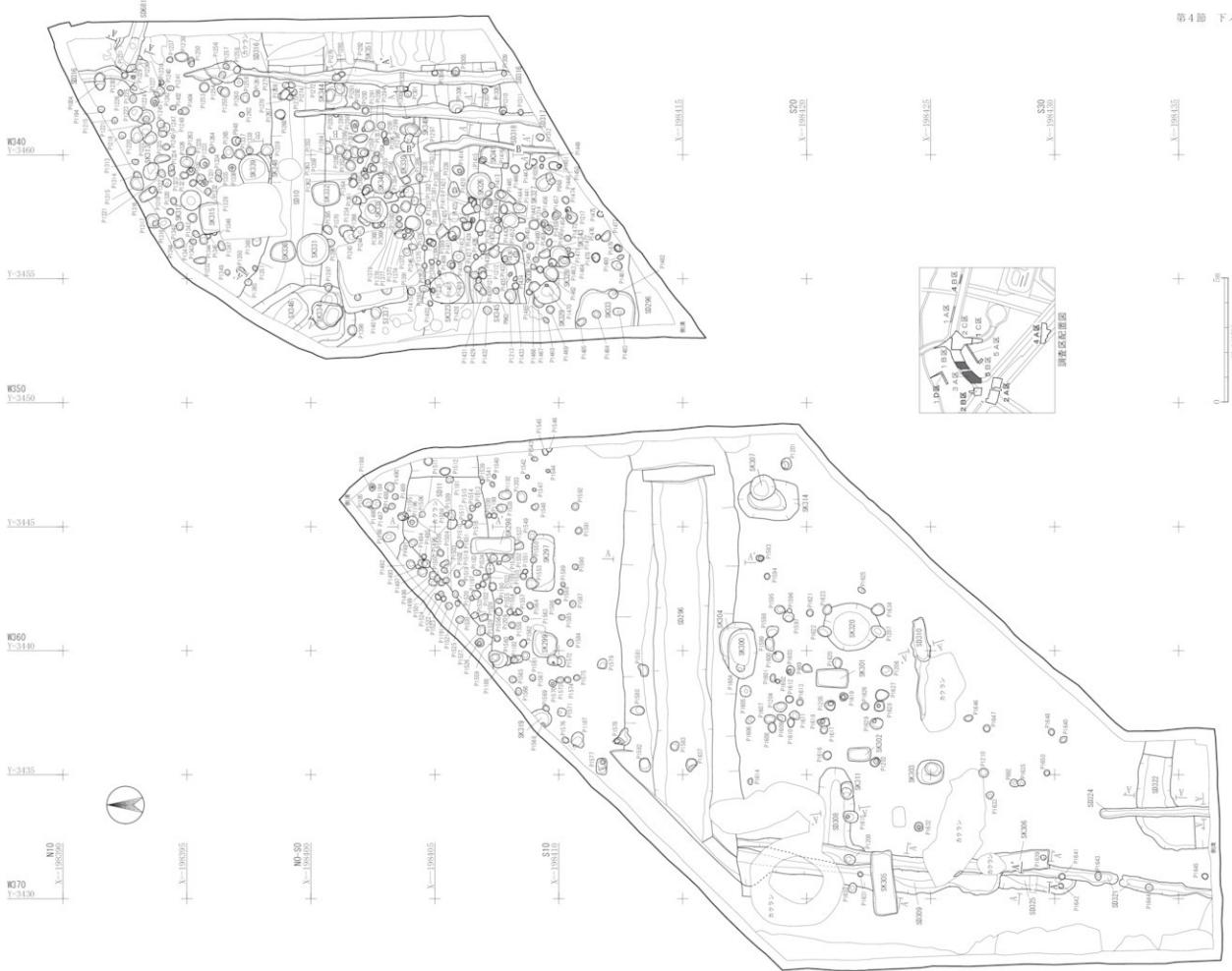
SK304土坑（第213図） W360~370・S10グリッドで検出した。SK300、SD296と重複関係にあり、SD296より



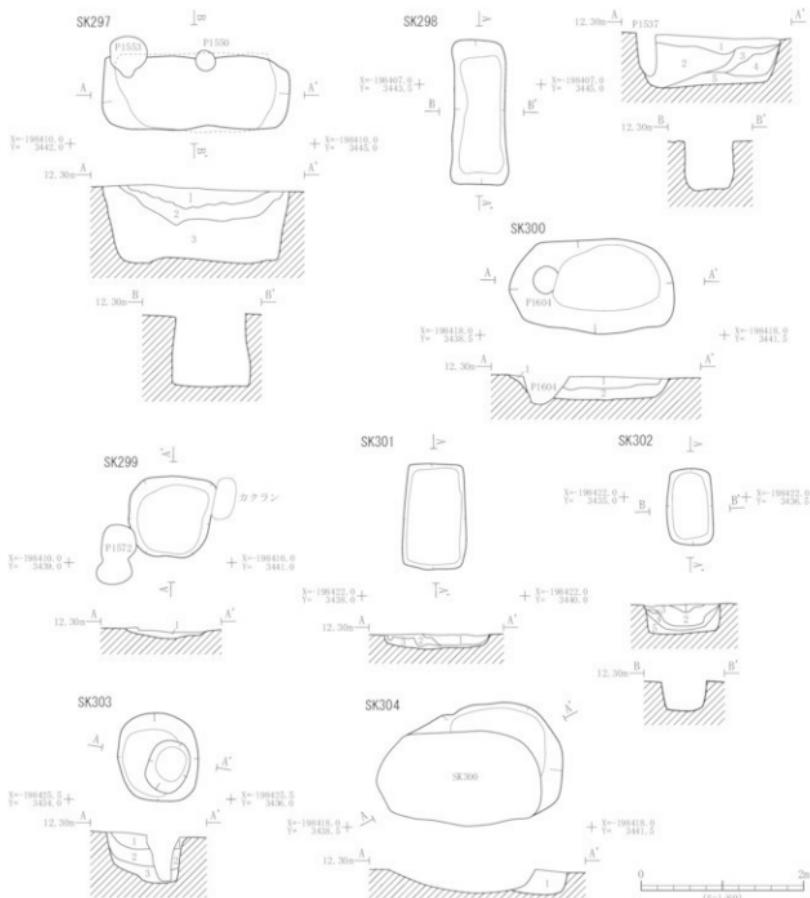
No.	登録番号	出土遺構	規格	種別	材質	器種	口径×底径×高さ(cm)	特徴	来地	時期	写真図版
1	J-7	SK300・SD296	-	磁器	染付耐熱皿	13.2×13.8×5.5×3.5	ロクロ 見込み・草花文 初期伊万里	肥前	1650年代	50-15	
2	1-14	SK300	-	施釉陶器	青釉輪剥げ	φ6.5×高さ2.1	ロクロ 青釉 見込み輪剥げ	肥前	17世紀前半	50-16	
3	1-15	SK300	-	施釉陶器	粉引碗	φ11.0×3.7×5.8	ロクロ 粉引 11号部・底輪	唐津	18-19世紀後半	50-17	
4	1-16	SK300	-	施釉陶器	擂鉢	φ×H14	ロクロ 施釉 全面模様	在地	19世紀前半	50-18	

No.	登録番号	出土遺構	規格	種別	材質	器種	大きさ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kd-9-8	SK300	1	石質品	砥石	(106)×(56)×(31)	(2290)	流紋岩		50-19	

第211図 SK300土坑出土遺物



第212图 下／内道路3A区III层滑槽配置图



遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SK297	1	10YR4/3C-4S-黄褐色	シルト	灰黃褐色シルトの小ブロックを複点状に含む。	SK301	1	10YR4/3C-4S-黄褐色	シルト	マンガン鉱を含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	灰黃褐色シルトの小ブロックを複点状に含み、明黄色細砂シルトブロックを多く含む。		2	10YR5/2B-黄褐色	シルト	酸化鉄・マンガン鉱をわずかに含む。
	3	10YR3/2B-褐色	粘土質シルト	明黄色細砂シルトと黒褐色シルトを小複点状に含む。		3	10YR5/1暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン鉱をわずかに含む。
SK298	1	10YR4/3C-4S-黄褐色	シルト	明黄色細砂シルト・暗褐色細砂シルトを複点状に含む。	SK302	1	10YR4/3C-4S-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
	2	25Y/1素灰褐色	粘土質シルト	暗褐色細砂シルト・暗褐色粘土質シルト・暗褐色粘土・マンガン鉱を複点状に含む。		2	10YR4/3C-4S-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
	3	25Y/5-2B-黄褐色	粘土	マンガン鉱を含む。		3	10YR4/3C-4S-黄褐色	粘土	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
	4	10YR4/2B-黄褐色	砂質シルト	マンガン鉱を含む。		4	10YR4/4B-褐色	粘土質シルト	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
	5	10YR4/2C-4S-黄褐色	砂質シルト	粘土質シルトを含む。		5	10YR4/4B-褐色	シルト	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
SK299	1	10YR2/2B-褐色	シルト	にいし黄褐色砂質シルトを小ブロックを含む。	SK303	1	10YR5/2B-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
SK300	1	10YR2/4暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン鉱を含む。		2	10YR4/2B-黄褐色	粘土	10YR4/3C-4S-黄褐色シルトを複点状に含む。
	2	10YR4/2B-黄褐色	粘土	灰化物・酸化鉄を含む。		3	10YR4/3C-4S-黄褐色	粘土	マンガン鉱をまばらに含み、灰化物をわずかに含む。

第213図 SK297～304土坑平面図・断面図

新しく、SK300より古い。平面形は楕円形と思われる。検出した規模は東西190cm、南北135cm、深さ27cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや東側に傾斜する。堆積土は単層である。遺物は、土師器内黒環片や須恵器甕片が出土した。

SK305土坑（第214図） W370～380・S20グリッドで検出した。SD309・321と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-84°-Eである。規模は長軸255cm、短軸90cm、深さ10～18cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器片が出土した。

SK306土坑（第214図） W370・S20グリッドで検出し、北側が搅乱で削平されている。SD309・321、P1639と重複関係にあり、本遺構が最も新しい。平面形は長方形と考えられ、長軸方向はN-6°-Wである。検出した規模は長軸方向220cm、短軸80cm、深さ5～16cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面には若干凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は、土師器環片が出土した。

SK307土坑（第214図） W360・S10グリッドで検出した。SK314と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形である。規模は径102cm、深さ45～50cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には若干凹凸がある。堆積土は5層に分層される。遺物は、土師器小片が出土した。

SK311土坑（第214図） W370・S20グリッドで検出した。SD308と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-86°-Eである。規模は長軸72cm、短軸52cm、深さ12～48cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は概ねU字形で、底面には段差があり、西側が低く、東側が高い。堆積土は単層である。遺物は、土師器小片が出土した。

SK312土坑（第214図） W350・N10グリッドで検出した。平面形は円形で、規模は径80cm、深さ18cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK313土坑（第214図、図版18） W350・N10グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-81°-Wである。規模は長軸70cm、短軸58cm、深さ41cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

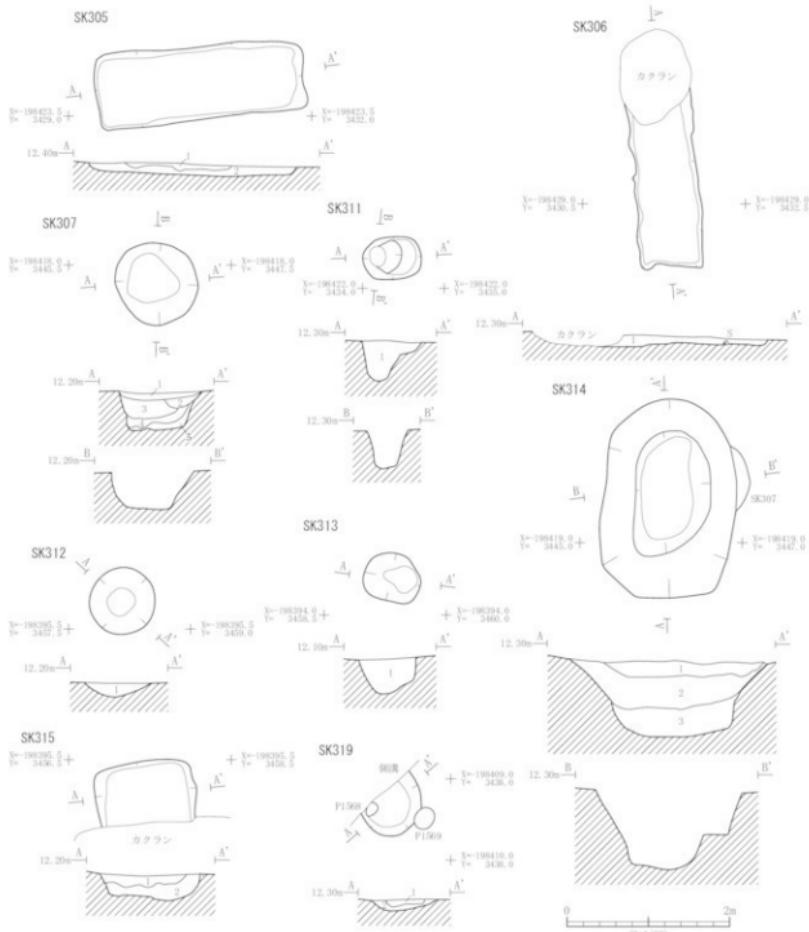
SK314土坑（第214図） W360・S10グリッドで検出した。SK307と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-3°-Eである。規模は長軸246cm、短軸165cm、深さ95cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は、土師器環片や須恵器片が出土した。

SK315土坑（第214図） W350・N10グリッドで検出し、南側は搅乱で削平されている。P1345・1346と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は方形ないしは長方形と思われ、検出した規模は東西126cm、南北の検出長75cm、深さ25～33cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器小片が出土した。

SK319土坑（第214図） W370・N0-S0グリッドで検出し、北西側の調査区外へ延びる。P1568・1569と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は円形または楕円形と思われ、検出した規模は北東から南西80cm、北西から南東55cm、深さ11cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK320土坑（第215図） W360・S20で検出した。P1207・1622・1623・1634と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-16°-Eである。規模は長軸220cm、短軸196cm、深さ39cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層され、遺物は出土していない。

SK323土坑（第215図、図版18） W350・N0-S0グリッドで検出した。SD11、P1235と重複関係にあり、SD11より新しく、P1235より古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-10°-Wである。規模は長軸140cm、短軸125cm、



地塊	層別	土色	土性	備考	地塊	層別	土色	土性	備考
SK305	1	HYR4/2C-1.黄褐色	シルト	炭化物・酸化鉄・マンガン・並列のブロックを含む。	SK312	1	HYR3/1黑褐色	粘土質シルト	炭化物・マンガン・並列シルト・小ブロックを含む。
	2	HYR4/2B.黄褐色	シルト	炭化物・酸化鉄・マンガン・粒を多量含む。		2	HYR4/2B.黄褐色	砂質シルト	明瞭な砂質シルト・に赤い黄色シルト・黒色
SK306	1	HYR5/2B.黄褐色	シルト	鐵(φ50mm)・褐色シルト・プロックと炭化物・鐵化物・マンガン鉄をまばらに含む。	SK313	1	HYR4/2B.黄褐色	砂質シルト	シルトを含む。
	2	HYR4/1褐色	砂質シルト	鐵(φ50mm)・褐色シルト・鐵を多量含む。		2	HYR5/2B.黄褐色	砂質シルト	炭化物・酸化鉄を含む。
SK307	1	HYR5/1オーライト	シルト	鐵(φ50mm)・褐色シルト・鐵を多量含む。	SK314	2	SY4/1褐色	粘土	炭化物・酸化鉄を多く含む。
	2	HYR5/1オーライト	シルト	鐵(φ50mm)・褐色シルト・鐵を多量含む。		3	SY5/1褐色	粘土	酸化鉄を多く含み、2層より粘性が強い。
SK311	1	HYR5/1褐色	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄をまばらに含む。	SK315	1	HYR3/2B.褐色	シルト	炭化物・酸化鉄・マンガン・並列のブロックを含む。
	2	HYR5/1オーライト	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄をまばらに含む。		2	HYR4/1褐色	-	炭化物・酸化鉄を含む。
SK312	1	HYR4/2オーライト	粘土	酸化鉄を多量含む。	SK319	1	HYR3/4褐色	シルト	炭化物・他土を少量含む。
	2	HYR4/2C-1.黄褐色	シルト	豊富の小ブロックとマンガン鉄を斑点状に含む。		2	HYR3/1黑褐色	粘土質シルト	炭化物・他土を多く含む。

第214図 SK305～307・311～315・319土坑平面図・断面図

深さ33cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は4層に分層される。遺物は、内黒土器坏片が出土した。

SK326土坑（第215図） W350・N0-S0グリッドで検出した。SD11、P1417と重複関係にあり、P1417より古く、SD11より新しい。平面形は円形である。規模は径105、深さ14～20cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は凹凸がある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK327土坑（第215図、図版18） W350・N0-S0グリッドで検出した。P1450と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-40°-Wと思われる。規模は長軸方向で65cm、短軸60cm、深さ10～16cmで、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK328土坑（第215図） W350・N0-S0グリッドで検出した。P1463と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-60°-Eである。規模は長軸68cm、短軸55cm、深さ3cmで、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

SK329土坑（第215図） W350・N0-S0～S10グリッドで検出した。P1466・1467・1470と重複関係にあり、P1467より新しく、他の遺構より古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸105cm、短軸88cm、深さ31cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

SK330土坑（第215図） W340～350・N0-S0グリッドで検出した。P1386と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-71°-Eである。規模は長軸100cm、短軸70cm、深さ10～15cmで、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面には僅かに段差がある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK331土坑（第215図、図版19） W350・N0-S0～N10グリッドで検出した。SD10、P1396と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は円形、規模は径130cm、深さ50cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

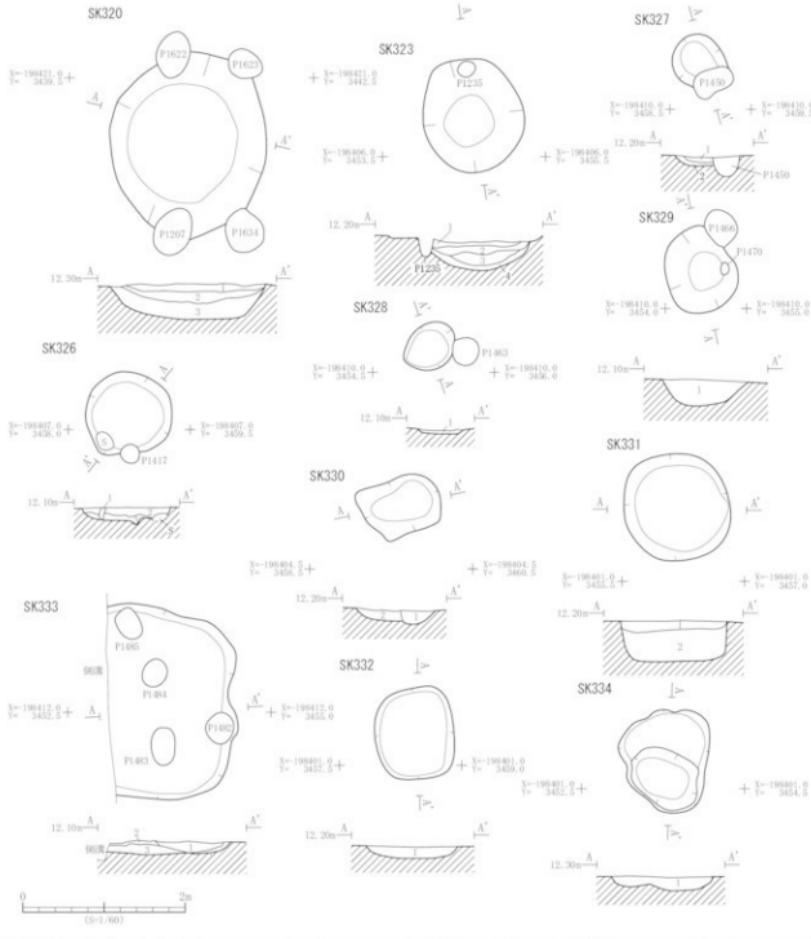
SK332土坑（第215図） W350・N0-S0グリッドで検出した。SD10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-4°-Wである。規模は長軸114cm、短軸98cm、深さ13cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

SK333土坑（第215図） W350・S10グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。P1482～1485と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形と思われ、検出した規模は南北240cm、東西160、深さ18cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK334土坑（第215図） W350・N0-S0グリッドで検出した。SX346と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-10°-Wである。規模は長軸128cm、短軸115cm、深さ10～15cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は概ね皿状で、底面には段差があり、南側が低く、北側が高い。堆積土は单層である。遺物は、須恵器壺片が出土した。

SK335土坑（第216図、図版19） W350・N0-S0グリッドで検出した。P1366・1368と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な円形で、規模は径112cm、深さ15～33cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は概ね逆台形で、底面のはば中央にピット状の掘り込みがある。堆積土は单層である。遺物は、上部器坏片や壺片が出土した。

SK336土坑（第216図） W350・N10グリッドで検出した。SD10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-11°-Wである。規模は長軸105cm、短軸84cm、深さ7～10cmで、壁面は開きぎみに立



構造	層位	主色	主性	備考	構造	層位	主色	主性	備考
SK320	1	10YR4-4褐色	粘土質シルト	炭化物・マンガン・鉄・輝(Φ100mm)・Ⅲ層の小ブロックを含む。	SK328	1	10YR2-2(0)褐色	粘土質シルト	炭化物・鐵・Ⅲ層の小ブロックを大量に含む。
	2	10YR3-4C灰褐色	砂質シルト	炭化物・酸化鉄と鉄色1箇所シルトブロックを含む。		2	10YR3-4C灰褐色	粘土	炭化物・マンガン鉄・Ⅲ層のブロックと輝(Φ50mm)を含む。
	3	10Y5-4C灰褐色	粘土	炭化物・酸化鉄を含む。		3	10Y4-1(0)褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガンを含む。
SK323	1	25Y4-2(0)灰褐色	粘土	酸化鉄・マンガンを含む。	SK330	1	30Y4-1(0)褐色	砂質シルト	酸化物・Ⅲ層の小ブロックを含む。
	2	25Y5-1(0)褐色	砂質シルト	酸化鉄・風化砂質シルトブロックを含む。		2	10Y4-1(0)褐色	粘土	炭化物・酸化鉄を含む。
	3	25Y4-1(0)褐色	砂質シルト	Ⅲ層の小ブロックを含む。		3	75G5Y4-1(0)褐色	砂質シルト	酸化鉄を含む。
	4	23Y4-2(0)灰褐色	-	酸化鉄・風化砂質シルトブロックを含む。		4	35Y4-2(0)灰褐色	シルト	酸化鉄・風化鉄を含む。
SK326	1	25Y3-2(0)褐色	粘土	炭化物を含む。	SK332	1	35Y4-2(0)灰褐色	砂質シルト	酸化物・Ⅲ層の小ブロックを含む。
	2	10Y3-2(0)灰褐色	粘土質シルト	炭化物・オリーブ鉄色シルトブロックを含む。		2	10Y4-1(0)褐色	粘土	炭化物・マンガン・鉄色シルトブロックを含む。
	3	25Y4-2(0)灰褐色	粘土	マンガン鉄・オリーブ鉄色シルトブロックを含む。		3	10Y4-1(0)褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン・鉄色シルトと炭化物を多量含む。
SK327	1	23Y4-2(0)褐色	シルト	酸化物・植物を含む。	SK334	1	10Y4-4(0)褐色	シルト	酸化鉄・マンガンを含む。
	2	25Y3-2(0)褐色	粘土質シルト	炭化物・植物を含む。		2	10Y5-2(0)褐色	シルト	酸化鉄・マンガンを含む。

第215図 SK320・323・326~334土坑平面図・断面図

ち上がる。断面形は皿状で、底面には若干凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は、土師器片が出土した。

SK338土坑（第216図、図版19） W350・N0-S0グリッドで検出した。SX345、1436・1437と重複関係にあり、SX345より新しく、他の遺構より古い。平面形はほぼ円形で、規模は径73cm、深さ34cmで、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK339土坑（第216図） W350・N10グリッドで検出し、西側が搅乱で削平されている。SK348、P1337と重複関係にあり、P1337より古く、SK348より新しい。平面形は楕円形であったと思われ、長軸方向はN-80°-Eである。検出した規模は長軸130cm、短軸115cm、深さ30~40cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや西側に傾斜する。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK340土坑（第216図、図版19） W350・N0-S0グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径85cm、深さ25~40cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや南側に傾斜する。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK341土坑（第216図） W340~350・N0-S0グリッドで検出した。SD11と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-4°-Eである。規模は長軸115cm、短軸90cm、深さ16~23cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK343土坑（第216図） W350・N0-S0~S10グリッドで検出した。P1459・1463・1464・1472と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形で、規模は径80cm、深さ19cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK344土坑（第216図） W340・N0-S0グリッドで検出した。SD10・316・317、P1281・I282と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、規模は一辺100cm、深さ28cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK348土坑（第216図） W340~350・N10グリッドで検出した。SK339、SD10、P1339と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-48°-Eである。検出した規模は長軸113cm、短軸方向72cm、深さ40cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

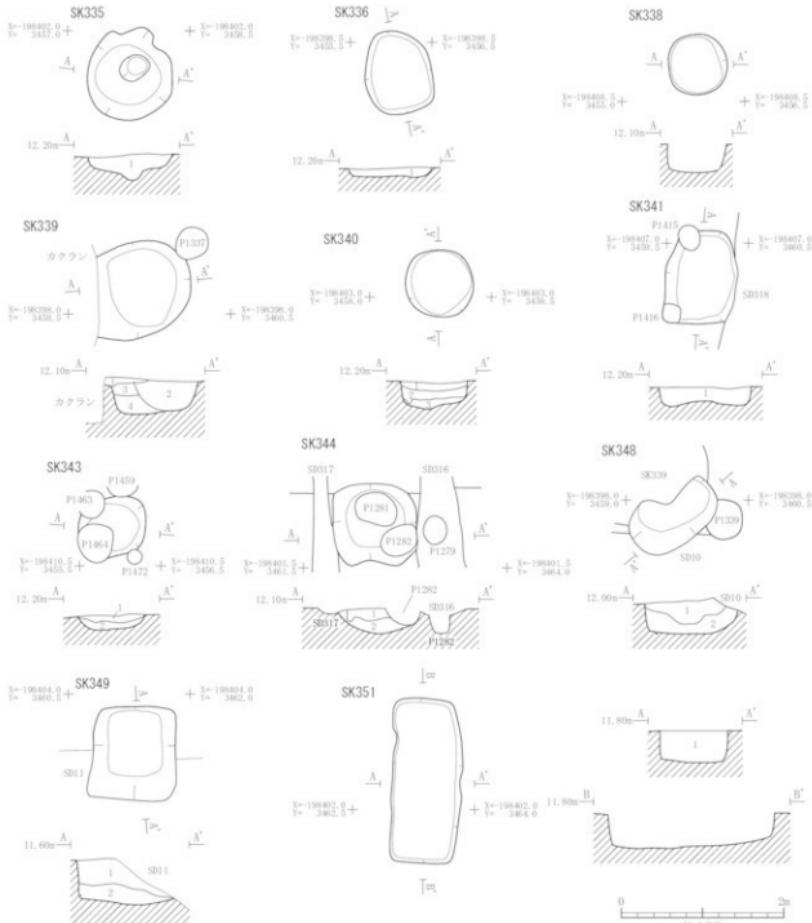
SK349土坑（第216図、図版20） W340・N0-S0グリッドで検出した。SD11・317、P1299と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は長方形で、長軸方向はN-2°-Eである。規模は長軸115cm、短軸100cm、深さ56cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK351土坑（第216図、図版20） W340・N0-S0グリッドで検出した。SD316と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-3°-Eである。規模は長軸205cm、短軸87cm、深さ32~39cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は、縄文土器片が出土した。

3) 性格不明遺構

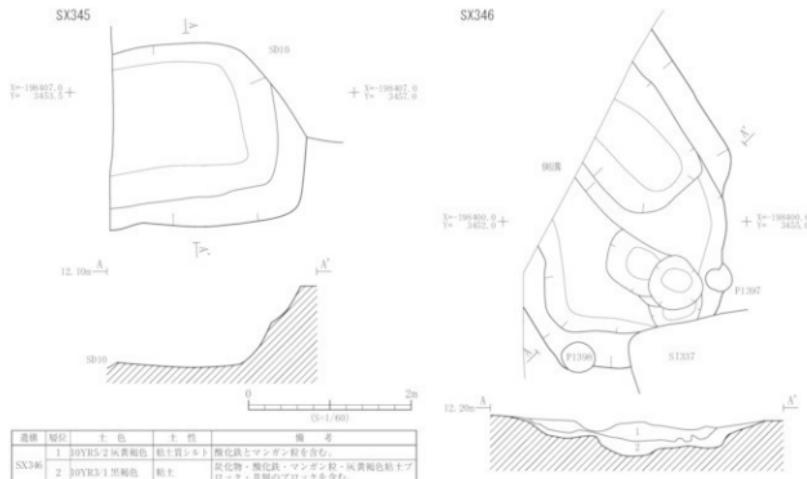
SX345性格不明遺構（第217図） W350・N0-S0グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。SK338、SD11、P1211~1213・1426・1427・1429~1431・1433~1438と重複関係にあり、SD11より新しく、他の遺構より古い。平面形は隅丸長方形と思われ、長軸方向はN-87°-Eである。検出した規模は長軸238cm、短軸226cm、深さ10~95cmである。遺物は、土師器小型片が出土した。

SX346性格不明遺構（第217図） W350・N0-S0~N10グリッドで検出した。SI337、SK334、SD10、P1397・1398と重複関係にあり、SD10より新しく、他の遺構より古い。平面形は不整楕円形と思われ、検出した規模は北東から南西320cm、北西から南東方向の検出長300cm、深さ20~47cmである。底面には落ち込みがあり、両側には段

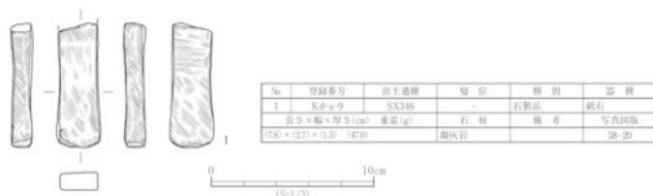


遺構	層	土色	土性	備考	遺構	層	土色	土性	備考	圖考
SK335	1	10Y4/10赤褐色	砂質シルト	酸化鉄を多く含む。	SK343	2	25Y3/2黒褐色	粘土	マンガン・オリーブ褐色シルトブロックを含む。	
SK336	1	23Y6/20黒褐色	砂質シルト	黒褐色シルトと炭化物を少量含む。					黒色砂質シルトブロックを大量。炭化物と共に層の小ブロックを含む。	
	2	23Y4/4オーライト色	粘土質シルト	黄色小粒子を含む。	SK344	1	SV3/2オーリーブ色	粘土質シルト	炭化物・粘土化粘土質シルトブロック。層内の小ブロックを含む。	
	2	23Y4/1黒褐色	シルト	黄褐色シルトと黒褐色シルトを含む。		2	3V4/26オーリーブ色	シルト	炭化物・粘土化粘土質シルトブロック。層内の小ブロックを含む。	
SK339	1	23Y4/20赤褐色	粘土質シルト	-	SK348	1	10Y6/20K 黄褐色	シルト	炭化鉄・粘土化・マンゴン鉄・に赤い黄褐色シルトブロックを含む。	
	2	23Y4/10赤褐色	シルト	-		2	13Y4/28オーリーブ色	シルト	炭化鉄・に赤い黄褐色シルトブロックを含む。	
	3	7.5Y4/10赤褐色	砂質シルト	-	SK349	1	10Y4/4C赤褐色	粘土質シルト	マンゴン鉄・灰褐色粘土質シルトブロック・層内の小ブロックを含む。	
	4	7.5Y4/10赤褐色	砂質シルト	-		2	10Y5/29K 黄褐色	粘土	炭化鉄・に赤い黄褐色シルトブロック・灰褐色シルトブロックを含む。	
SK340	1	23Y4/4黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄・黒色小粒子(マンガン)を多量含む。	SK351	1	10Y4/16赤褐色	粘土質シルト	マンゴン鉄・灰褐色粘土質シルトブロック・層内の小ブロックを含む。	
	2	23Y4/1黒褐色	シルト	-						
	3	粘土質シルト	炭化物	-						
SK341	1	23Y4/1黒褐色	シルト	マンゴン鉄・黒褐色シルトブロックを含む。						
SK342	1	23Y4/20赤褐色	シルト	マンゴン鉄・黒褐色シルトブロックを含む。						

第216図 SK335・336・338~341・343・344・348・349・351土坑平面図・断面図



第217図 SX345・346性格不明遺構平面図・断面図



第218図 SX346性格不明遺構出土遺物

を有する。堆積土は2層に分層される。遺物は、砥石が出土し、第218図に図示した。

4) 溝跡

SD10溝跡（第212・219図、図版19） W340～350・N0・S0～N10グリッドで検出した。SD316・317、SK331・332・336・344・348、SX346、P1268～I274・I281・I284・I339・I351・I365と重複関係にあり、SK344・348、P1281・I284より新しく、他の遺構より古い。方向はN-88°-Wの東西溝で、規模は長さ10.60m、幅220～270cm、深さ30～70cmである。断面形は逆台形で、堆積土は4層に分層され、1～2層は人為的な埋土である。遺物は、土師器壺片や須恵器壺片、繩文土器片等が出土した。

SD11溝跡（第212・219図、図版19） W340～370・N0-S0グリッドで検出した。1B区で検出された溝跡の延長部分に位置し、同一の溝と思われる。SK298、323、326、341、349、SX345、SD316～318、P1181・1183・1188・1190・1191・1195～1197・1216・1228・1233・1235・1252・1299・1304～1308・1387～1390・1392・1393・1403・1407～1412・1414・1415・1417～1428・1430・1438～1440・1445・1491～1506・1508～1533・1539・1651と重複関係にあり、SK349より新しく、他の遺構より古い。方向はN-88°-Wの東西溝で、規模は長さ24.45m、幅270～370cm、深さ83～110cmである。断面形は逆台形ないしはU字形で、堆積土は6層に分層され、2・5層は細分される。遺物は、土師器壺片や高台付壺片、須恵器壺片、壺片、丸瓦等が出土した。時期は近世と思われる。

SD296溝跡（第212・219図、図版19） W350～370・S10グリッドで検出した。SK300・304、SD309・321、P1578・1580～1583・1637と重複関係にあり、SD309・321より新しく、他の遺構より古い。方向は東西正方位の東西溝で、規模は長さ25.10m、幅390～470cm、深さ150cmである。断面形は逆台形で、堆積土は9層に分層され、1・3・6～8層は細分される。遺物は、中近世遺物の他に土器片1点が出土しており、第220・221図に図示した。第220図2・3が瀬戸・美濃系陶器志野菊花皿、4は志野鉄絵皿である。2～4は17世紀前半に比定される。5は連歛下駄、第221図1・2は茶臼の上臼で、3は砾石である。

SD308溝跡（第212・219図） W370・S20グリッドで検出した。SK311、SD321、P1615と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-87°-Wの東西溝で、規模は長さ3.15m、幅140cm、深さ20cmである。断面形は幅広のU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD309溝跡（第212・219図） W370・S10～20グリッドで検出した。SK305・306、SD296・321・325、P1630・1631と重複関係にあり、SD325より新しく、他の遺構より古い。方向はN-5°-Eの南北溝で、規模は長さ10.80m、幅70～160cm、深さ23～46cmである。断面形は幅広のU字形であるが、壁面に凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD310溝跡（第212・219図） W360～370・S20グリッドで検出した。方向はN-85°-Eの東西溝で、規模は長さ4.15m、幅45～74cm、深さ13cmである。断面形は逆台形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD316溝跡（第212・219図） W340・N0-S0～N10グリッドで検出した。SK344・351、SD10・11、P1251・1256～1258・1279・1280・1282・1302・1304・1305・1308・1309と重複関係にあり、SK344・351、SD10・11、P1254・1282・1302・1308より新しく、他の遺構より古い。方向は南北正方位の南北溝で、規模は長さ17.75m、幅20～85cm、深さ10～22cmである。断面形は幅広のU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD317溝跡（第212・219図） W340・N0-S0～N10グリッドで検出した。SK344・349、SD10・11、P1283・1292・1293・1300・1306・1310・1311と重複関係にあり、SD10・11、SK344・349、P1283・1300より新しく、他の遺構より古い。方向は南北正方位の南北溝で、規模は長さ10.00m、幅15～68cm、深さ6～18cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は、瀬戸・美濃系陶器志野菊花皿が出土し、第220図1に図示した。SD296出土の志野菊花皿とは同じ手であり、17世紀前半に比定される。

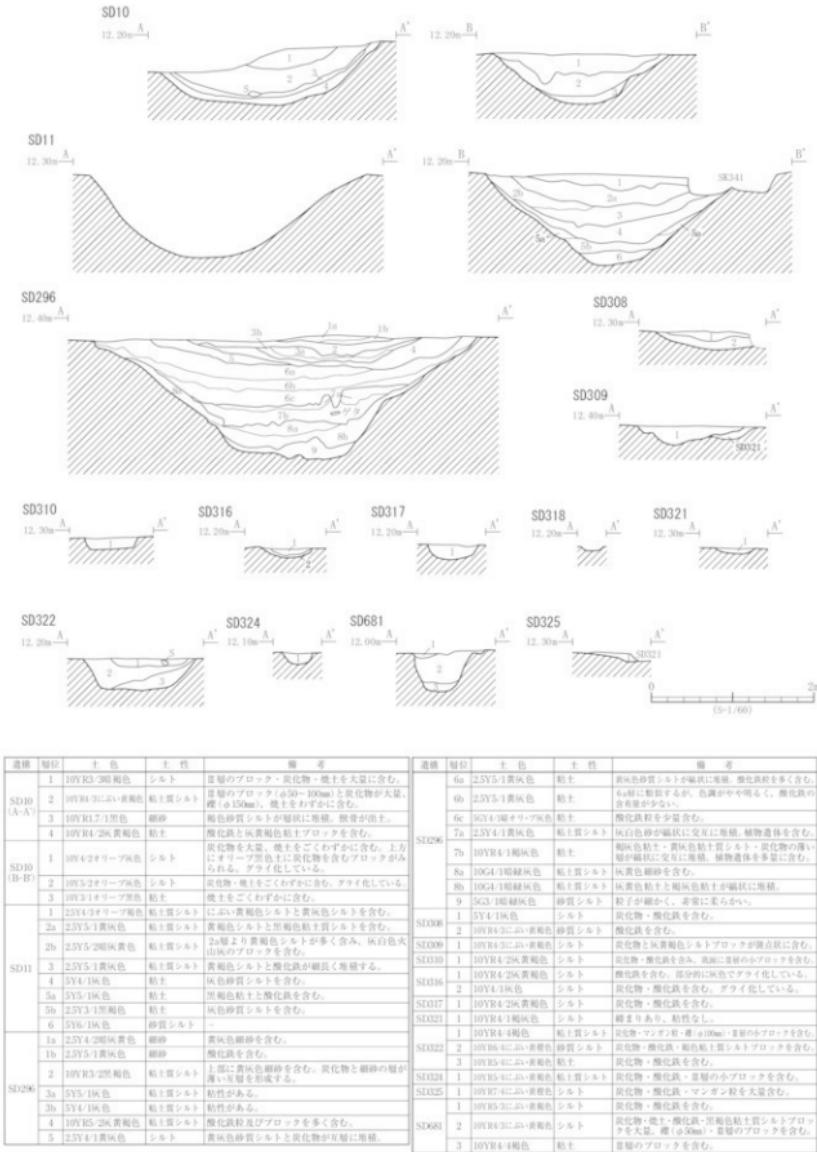
SD318溝跡（第212・219図） W340・N0-S0グリッドで検出した。SK341、SD11と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-2°-Eの南北溝で、規模は長さ5.50m、幅20～50cm、深さ5～10cmである。断面形はU字形と思われる。遺物は出土していない。

SD321溝跡（第213・219図） W370・S10～30グリッドで検出した。SK306、SD308・309・325、P1208・1641・1643・1644と重複関係にあり、SD308・309・325より新しく、他の遺構より古い。方向はN-7°-Eの南北溝で、規模は長さ19.30m、幅20～70cm、深さ5～12cmである。断面形はU字形と思われる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD322溝跡（第212・219図） W370・S30グリッドで検出した。SD324と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はL字状で、方向はN-85°-W、N-3°-Eでの南北・東西方向の溝で、規模は長さ5.70m、幅115～170cm、深さ35cmである。断面形は逆台形で、堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD324溝跡（第212・219図） W370・S30グリッドで検出した。SD322と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-1°-Wの南北溝で、規模は長さ4.45m、幅32～42cm、深さ13～29cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD325溝跡（第212・219図） W370・S20～30グリッドで検出した。SD309・321、P1641・1642と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-5°-Eの南北溝で、規模は長さ3.05m、幅は不明、深さは7～12cmである。断面形



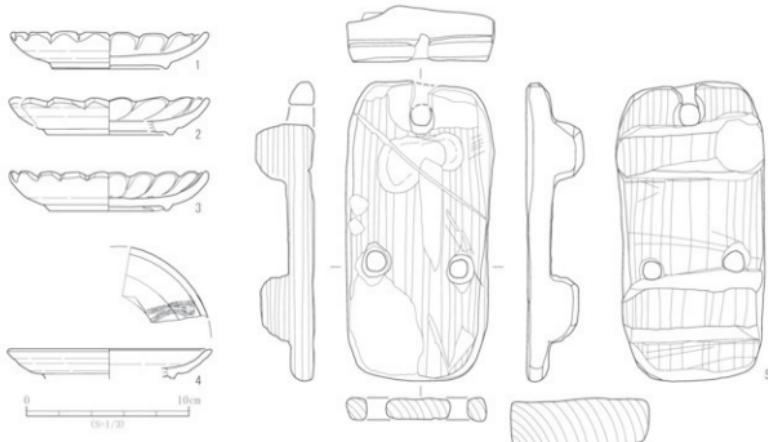
第219図 SD10・11・296・308~310・316~318・321・322・324・325・681満跡断面図

は不明で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD681遺跡（第212-219図） W340・N10グリッドで検出した。P1231・1236と重複関係にあり、P1236より新く、P1231より古い。方向はN-70°-Wの北西-南北方向の溝で、規模は長さ210m、幅58~100cm、深さ45~50cmである。断面形は逆台形で、堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

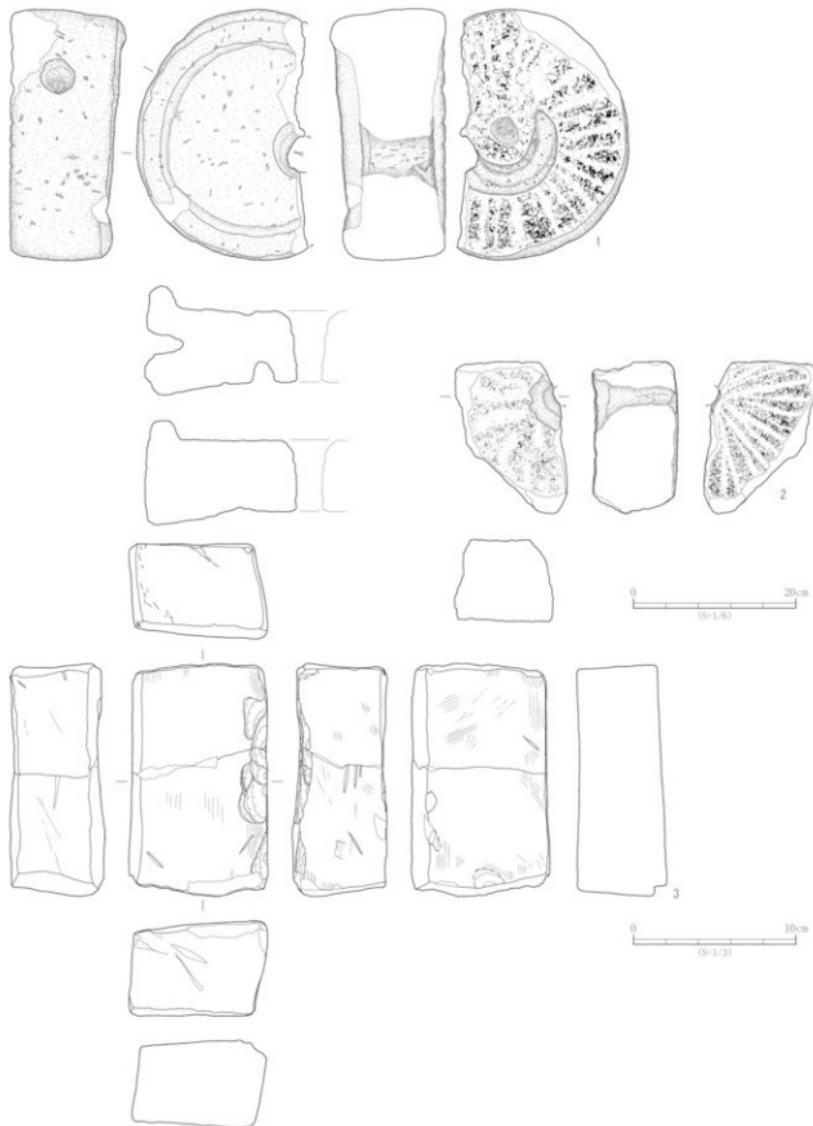
5) ピット（第212図）

490基のピット（P992・1162~1650）を検出した。調査区中央から北東側のW340~370・N0-S0~N10に分布している。遺物は、土師器環、内黒土師器環、須恵器甕、近世陶磁器等が出土した。このうちP1232から出土した土師器1点、P1218・P1246から出土した中近世陶器各1点、P1224・P1237から出土した砥石各1点を第222図に図示した。1は瀬戸・美濃産陶器天目碗で16世紀後半代の製品、2は瀬戸・美濃系陶器志野皿で17世紀前半代の製品である。3は土師器環である。半球形で口縁部が内湾する。4は方形の砥石、5は自然縞の上面を使った砥石である。



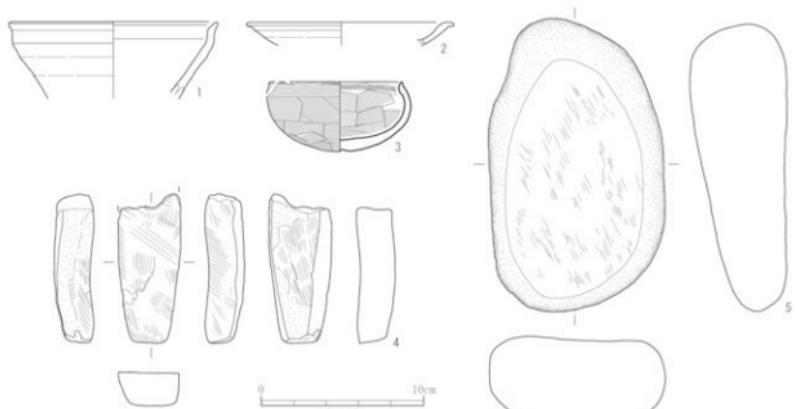
No.	登録番号	出土地點	規 格	材 質	器 形	寸法×底径×器高 (cm)	特 徴	来 地	時 期	写真図版
1	I-17	SD0117	-	施釉陶器	志野菊花瓶	11.9×7.6×22	ロクロ→焼打ち焼形 長石釉	瀬戸・美濃系	17世紀前半	30-1
2	I-18	SD0296	3	施釉陶器	志野菊花瓶	(11.8)×7.6×22	ロクロ→焼打ち焼形 長石釉	瀬戸・美濃系	17世紀前半	30-2
3	I-19	SD0296	-	施釉陶器	志野菊花瓶	(11.9)×7.2×23	ロクロ→焼打ち焼形 長石釉	瀬戸・美濃系	17世紀前半	30-3
4	I-20	SD0296	-	施釉陶器	志野风轮瓶	(24.1)×7.8×18	ロクロ 長石釉・黄釉	瀬戸・美濃系	17世紀前半	30-4
5	I-1	SD0296	3	木製品	下瓶	長18.2×幅8.7×高さ31~35	透画下駄	-	-	30-5

第220図 溝跡出土出土遺物（1）



第221図 溝跡出土遺物（2）

No.	登録番号	出土遺物	層	種	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kd-g-4	SD296	-	石製品	断面	30.5×(26.6)×14.1	9,4000	安山岩	上刃部分。	39-6
2	Kd-g-5	SD296	1	石製品	断面	(35.5)×137×10.0	22,750	安山岩	上刃部分。	39-7
3	Kd-g-10	SD296	-	石製品	砾石	14.2×8.5×5.8	1,2630	安山岩	-	-



No.	登録番号	出土遺物	層	種	形	寸法(底径×高さ×厚さ) (cm)	特徴	用	時期	参考文献
1	I-21	P1210	-	施釉陶器	天目系	12.5 × 8 × 4.6	ロクド・共箱	施口・共造系	16世紀後半	39-8
2	I-22	P1246	-	施釉陶器	志野系反対	11.6 × 8 × 4.4	ロクド・長石柄	施口・共造系	17世紀前半	39-9
3	C-48	P1232	-	土器	环	11.0 × 8.0 × 4.2	外面調整	内面調整	備考	写真同版
No.	登録番号	出土遺物	層	種	形	寸法(底径×高さ) (cm)	重量(g)	石材	備考	写真同版
4	Kd-2-11	P1224	-	石器品	砾石	9.0 × 3.8 × 2.4	(111.0)	凝灰岩		39-11
5	Kd-2-12	P1237	-	石器品	砾石	17.9 × 10.7 × 5.7	1779.0	凝灰岩		39-12

第222図 ピット出土遺物

(2) V層検出の遺構と遺物 (第223図)

1) 土 坑

SX352土坑 (第224図、図版20) W360・N0-S0グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。平面形は梢円形と思われ、長軸方向はN-25°-Eである。検出した規模は長軸115cm、短軸60cm、深さ8~18cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は、土師器破片が1点出土し、第225図に図示した。土師器壺底部片である。平底で木葉痕がある。

2) 性格不明遺構

SX354性格不明遺構 (第226図、図版20) W360~370・N0-S0~S10グリッドで検出し、北西側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と思われ、検出した規模は北東から南西265cm、北西から北東の検出長88cm、深さ30~40cmで、断面形は逆台形である。底面には段差があり、南西側が低く、北東側が高い。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からI・II群に分けられ、II群からI群への変遷が考えられる。

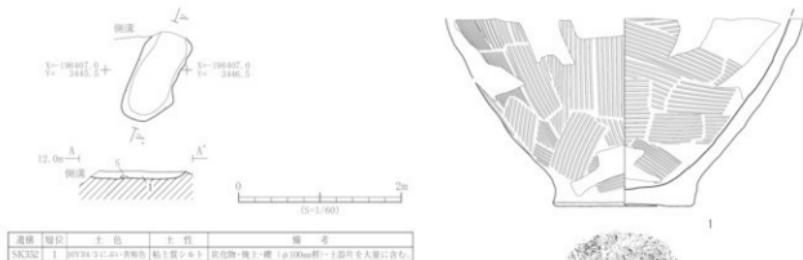
I群 (第223・227図、図版19) 調査区中央~北東側で検出した。II群と重複関係にあり、本群が新しい。東西方向の遺構群で、18条の小溝で構成されている。方向はN-75~88°-E・N-76~88°-Wで、検出長0.90~8.65m、幅15~40cm、深さ2~34cm、小溝の間隔は粗密があり密集している箇所では0~0.50m、まばらな箇所では3.00~3.50mである。遺物は出土していない。

II群 (第226・227図、図版19) 調査区東部で検出した。I群と重複関係にあり、本群が古い。南西~北東方向の遺構群である。2条の小溝で構成されており、小溝の間隔は12mと離れている。方向はN-37~65°-Eで、検出

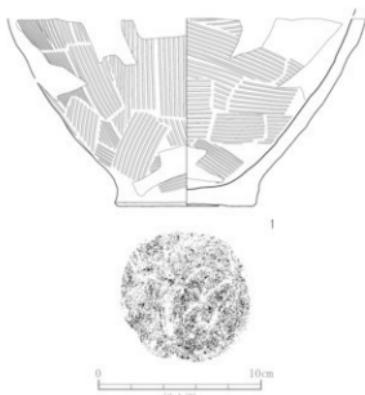
第4節 下ノ内遺跡3A区の調査



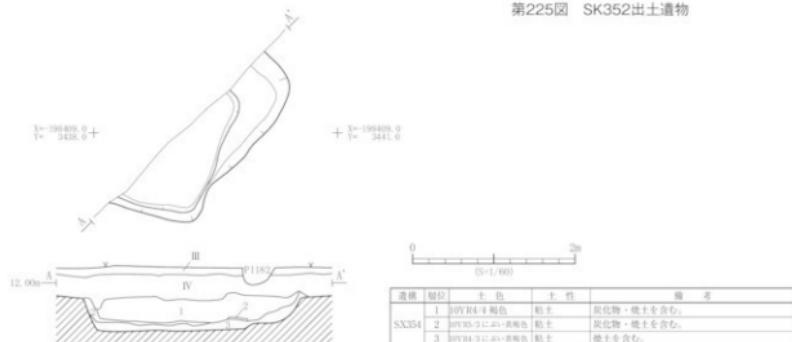
第223図 下ノ内遺跡3A区V層遺構配置図面



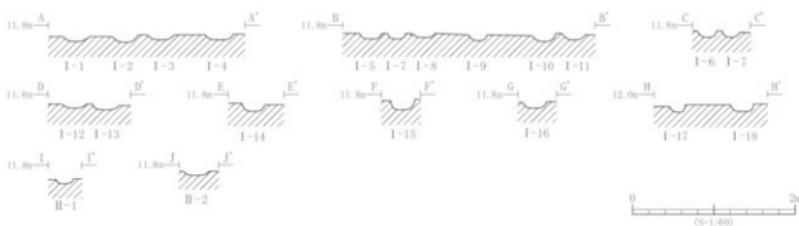
第224図 SK352土坑平面図・断面図



第225図 SK352出土遺物

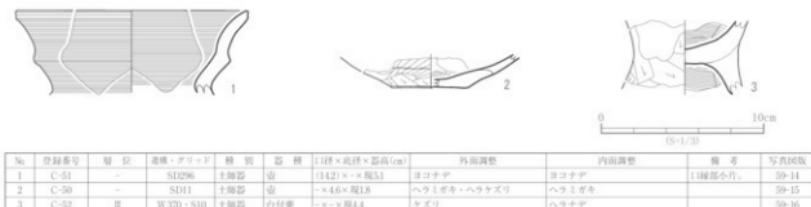


第226図 SX354性格不明遺構平面図・断面図



第227図 小溝状遺構群断面図

第4節 下ノ内遺跡4A区の調査



第228図 遺構外出土遺物

長は1.80~4.20m、幅15~48cm、深さ1~5cmである。遺物は出土していない。

4) ピット群（第223図）

104基のピット（P1652~1755）を検出した。W340~360・N10~S10に分布している。遺物は各ピットから土師器小片が出土した。

(3) 遺構外出土の遺物（第228図）

土師器を第228図に3点を図示した。1は土師器二重口縁壺の口縁部辺である。2は壺の底部、3は台付壺の脚部である。

10. 4A区の調査

4A区では上面の削平により、Ⅲ層と同時に一部V層を検出した。基本層Ⅲ層上面（古代～近世の遺構検出面）において、竪穴住居跡4軒、土坑6基、河川跡1条、溝跡2条、ピット25基、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡1軒、ピット1基を検出した。Ⅶ層上面（绳文時代後期の遺構検出面）において、性格不明遺構3基、ピット18基を検出した。また、調査区西端にトレンチを設定して調査を行い、X層上面から埋設土器を1基検出した。Ⅲ層とV層を同時に検出したことから遺構配置図は同一のものとした。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては、遺構配置図にのみ表示している。

(1) Ⅲ層検出の遺構と遺物（第229図）

1) 竪穴住居跡

S1357竪穴住居跡（第230図、図版20・21）

【位置】 W280~290・S150グリッドに位置する。

【新旧関係】 本住居跡と重複する遺構はない。

【規模・形態】 長軸（南北）3.25~3.35m、短軸（東西）3.15mの方形である。

【主軸方位】 カマド基準でN-90°-Eである。

【堆積土・構築上】 13層に分層した。1・2層は住居堆積土で炭化物・焼土などが含まれる。3~6はピット埋土、7~13層はカマド関連層位で、12・13層はカマド抽構築土である。

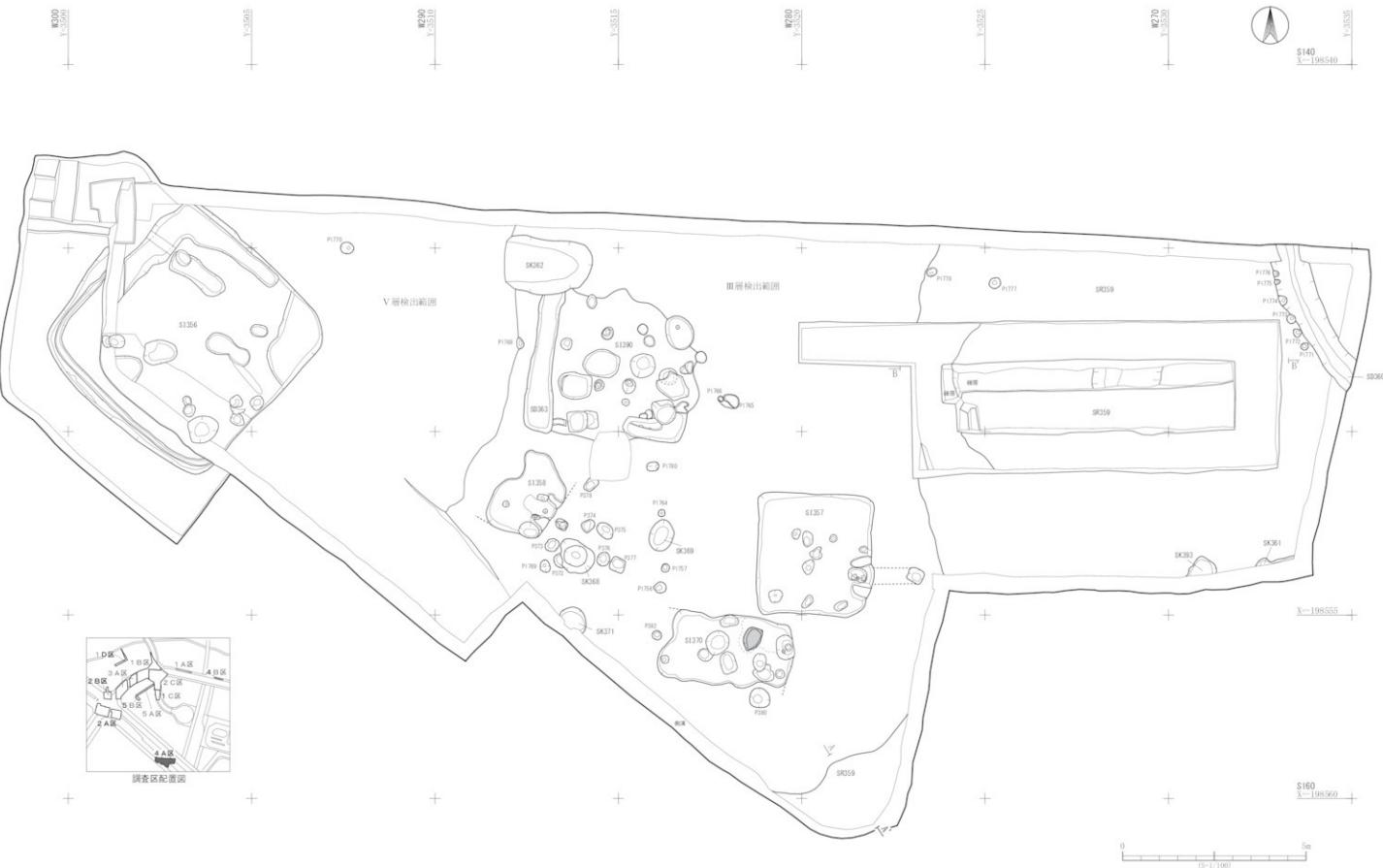
【壁面】 床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は14~23cmである。

【床面】 挖り方の底面であるⅢb層を直接床面としている。

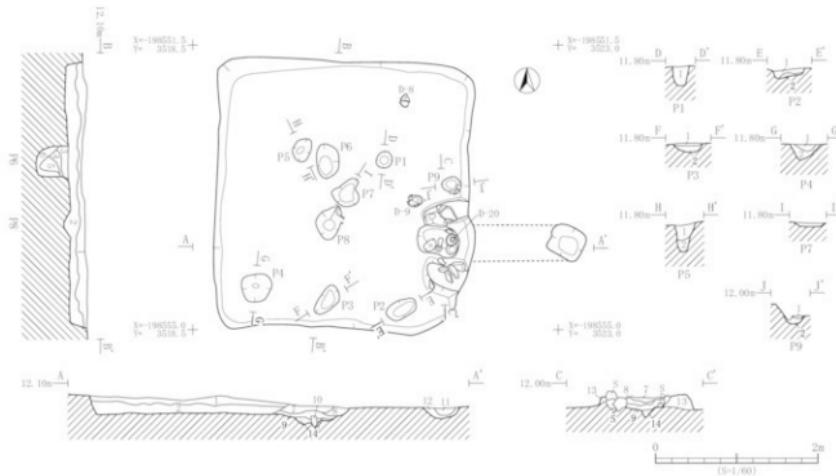
【柱穴】 住居跡内から9個のピットを検出したが、配置に明確な規則性を持つものは検出されていない。規模は径22~68cm、深さは5~35cmである。

【周溝】 検出されなかった。

【カマド】 住居跡東壁の南寄りに位置している。構造・規模は両袖部が壁面から平行して延び、袖部の長さは45~50cm、高さは床面から5~20cmが残存している。また、袖部基部から袖石と思われる被熱した自然礫を検出した。燃焼部



第229図 下ノ内道跡4A区Ⅳ層・V層遺構配置図



構造	層位	土色	土性	備考	構造	層位	土色	土性	備考
S1357	1	HOYR4-4褐色	シルト	炭化物・焼土・マンガン・土器片を含む。	S1357	1	HOYR4-3に赤褐色	シルト	-
	2	HOYR4-4褐色	シルト質粘土	炭化物・焼土を含む。		2	HOYR4-2B褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。
	3	HOYR2-4B褐色	粘土質シルト	-		3	HOYR4-2B褐色	シルト	-
S1357'	4	HOYR4-4褐色	細砂	繊維がなく。	S1357	4	HOYR4-2B褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。
P6	5	HOYR4-4褐色	シルト質粘土	繊維がなく。		5	HOYR4-3C-4B褐色	シルト	粘土質シルト・焼土・ブロック(△20mm)を含む。
	6	HOYR4-3C-4B褐色	シルト質粘土	(3-6層付近)		6	HOYR4-2B褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。
	7	HOYR4-3C-4B褐色	粘土	炭化物・焼土・小ブロックを含む。		7	HOYR4-3C-4B褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。
	8	HOYR5-3C-4B褐色	粘土	焼土ブロックを含み、上方に炭化物が薄く当接する。		8	HOYR5-3C-4B褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。
	9	25YR5-6B褐色	粘土質シルト	焼土ブロックを含む。		9	HOYR5-3C-4B褐色	シルト	焼土を含み、上方に炭化物を含む。
S1357'	10	HOYR3-4B褐色	粘土	炭化物・焼土を多く含む。		10	HOYR5-3C-4B褐色	シルト	焼土を含む。
P7	11	HOYR4-4褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土をわずかに含む。		11	HOYR3-3C-4B褐色	シルト	-
	12	HOYR4-3C-4B褐色	粘土	マンガン粒を含む。(1-12層出しひき)		12	HOYR4-4褐色	シルト	炭化物・焼土・土器片を少量含む。
	13	HOYR4-3C-4B褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。(カマド袖部)		13	HOYR4-4褐色	粘土	焼土ブロックを多く含む。
	14	-	-	(カマド側方)		14	-	-	-

第230図 S1357堅穴住居平面図・断面図

は奥行き52cm、幅35cmで、中央から土師器長胴甕が出土した。煙道部は長さ143cm、幅45cm程で、削平のため検出できなかったが、煙出し部は一辺40cm、深さ13cmの隅丸形のピット状になっている。

【その他の施設】P1は南東隅から検出され、カマドの脇に位置することから貯蔵穴であると考えられる。平面形は68×54cmの楕円形で、深さは10cmである。

【出土遺物】堆積土から多量の土師器片が出土し、そのうち13点を第231図に図示した。1～8はロクロ土師器環である。3は内面に線刻で綾杉文のような文様が施されている。9～13はロクロ土師器甕である。うち9～12は甕の口縁部片で、13は底部片である。出土土師器から、本住居跡の年代は9世紀後半～末ごろと考えられる。

S1358堅穴住居跡（第232図、図版20・21・26）

【位置】W290・S150グリッドに位置し、住居跡の南隅付近とカマド周辺のみ残存していると考えられる。

【新旧関係】検出部分では本住居跡と重複する遺構はない。

【規模・形態】残存範囲は北東・南西約2.45m、北西・南東約1.75mである。

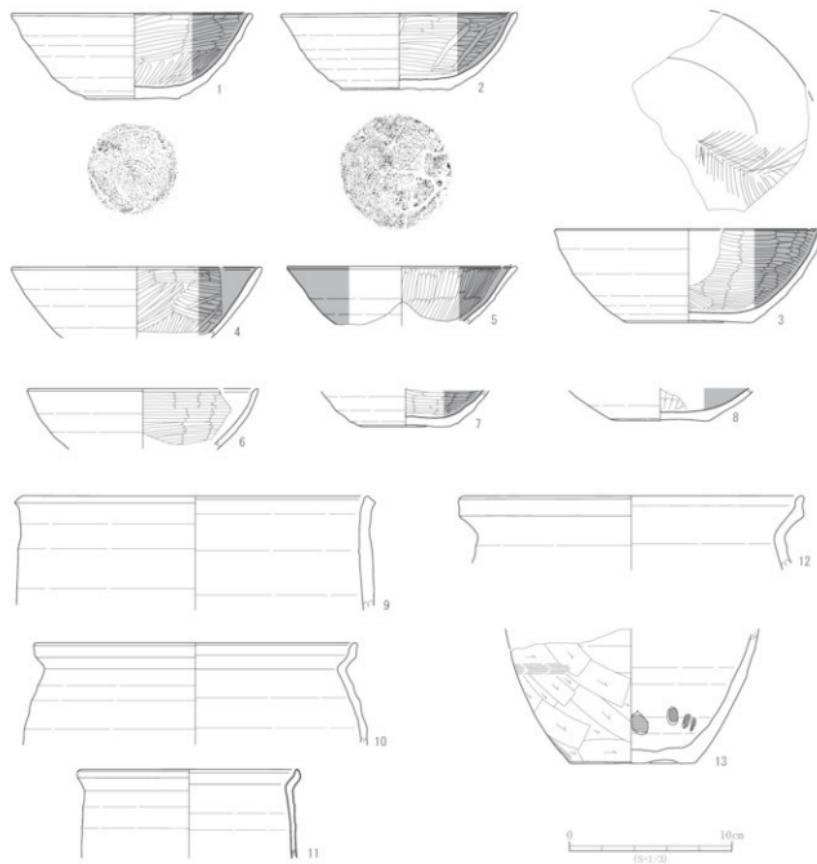
【主軸方位】カマド基準でN-127°Eである。

【堆積土・構築土】2層に分層され、1層にはマンガン粒と遺物が含まれる。

【壁面】検出されなかった。

【床面】カマド周辺は掘り方埋土上面を床面としていたと考えられる。

第4節 下ノ内遺跡4A区の調査



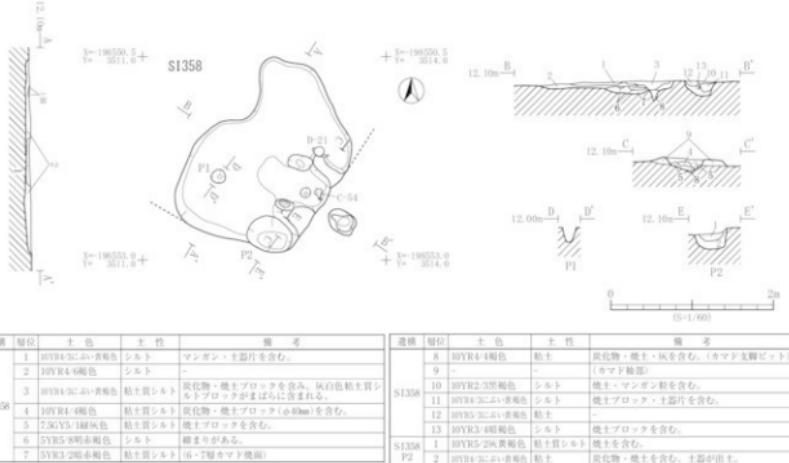
No.	登録番号	出土遺物	層	記	種	別	器	種	外側調整	内面調整	備考	写真版
1	D-8	SI357	-		土器	环		14.0×56×5.2	ロクロナデ	ハラミガキ・黒色處理	60-1	
2	D-9	SI357	床直		土器	环		14.6×66×4.6	ロクロナデ	底部斜削系切り	60-2	
3	D-10	SI357	-		土器	环		16.0×(7.6)×5.6	ロクロナデ	底部斜削系切り	60-3	
4	D-11	SI357	-		土器	环		15.2×-×R4.3	ロクロナデ	ハラミガキ・黒色處理	60-4	
5	D-12	SI357 カマド	-		土器	环		14.0×-×R4.5	ロクロナデ	ハラミガキ・黒色處理	60-5	
6	D-13	SI357	-		土器	环		14.0×-×R4.5	ロクロナデ	ハラミガキ	60-6	
7	D-14	SI357	床直		土器	环		>5.0×R2.4	ロクロナデ	底部斜削系切り	60-7	
8	D-15	SI357	-		土器	环		>5.9×R1.95	ロクロナデ	底部斜削系切り	60-8	
9	D-16	SI357	-		土器	束		[22.0]×-×R6.9	ロクロナデ	ロクロナデ	60-9	
10	D-17	SI357	-		土器	束		[19.4]×-×R6.1	ロクロナデ	ロクロナデ	60-10	
11	D-18	SI357 カマド	-		土器	束		[13.6]×-×R5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	60-11	
12	D-19	SI357	-		土器	束		[20.0]×-×R4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	60-12	
13	D-20	SI357 カマド	-		土器	束		>7.6×R4.2	ロクロナデ・ハラケヅリのちナダ	ロクロナデのち削オサエ		

第231図 SI357堅穴住居跡出土遺物

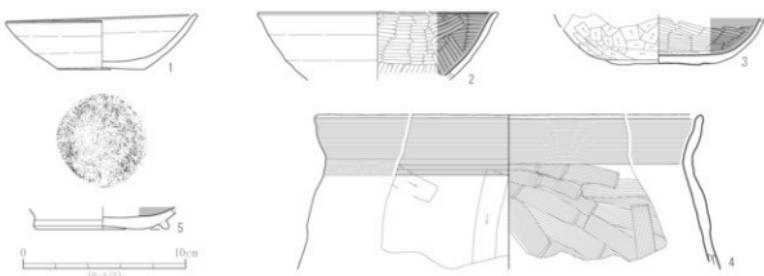
【柱穴】住居跡内から5個のピットを検出したが、柱穴とは考えられず、配置や規模などからその内1個は貯蔵穴、3個はカマドの掘り方に伴うものと考えられる。規模は径10~55cm、深さは3~20cmである。

【周溝】検出されなかった。

【カマド】住居跡東壁の南隅寄りに付設されていると考えられる。構造・規模は両袖部が壁面から平行して延び、袖部の長さは45~50cm、高さは床面から8cm程が残存している。また、両袖部の先端からは袖石の付設に用いられたと思われるピット2個、燃焼部の奥壁寄りからは支脚の付設のために穿たれたと考えられるピット1個が検出されている。カマドやその周辺から被熱した自然縞・土器片が出土した。燃焼部は奥行き90cm、幅55cmで、煙道に続



第232図 SI358堅穴住居跡平面図・断面図



No.	登錄番号	遺構種類	層位	標 高	幅 厚	1辺幅×奥行×頂高(cm)	外側調整	内側調整	備 考	写真番号
1	D-21	SI358 カマド施	-	土器层	环	11.6×52×3.2	ロクロナイト 瓦頭削除取切り	ロクロナイト		60-14
2	D-22	SI358	2	土器层	环	(14.4) × × × 約40	ロクロナイト	ハラミガキ・黑色処理		60-15
3	C-53	SI358	床底	土器层	环	~5.2×32.9	瓦頭削除取切りのチリ	ハラミガキ		60-16
4	C-54	SI358カマド	2	土器层	环	(23.8) × × × 約9.65	ヨコナダ・ハラミガキ・泡オサ子	ヨコナダ・ヘラナダ		60-18
5	D-23	SI358	2	土器层	高台付环	~8.2×幅1.3	ロクロナイト 瓦頭削除取切り →高台貼付け→全面ナメ	ロクロナイト・黑色処理		60-17

第233図 SI358堅穴住居跡出土遺物

第4節 下ノ内遺跡4A区の調査

く奥壁は10cm程ほぼ垂直に立ち上がる。火床面には5cmほど焼土が堆積しており、周囲は被熱・赤変していた。

【その他の施設】P2はカマド脇に位置し、住居跡南隅と推定される場所で検出した。構築位置・形態・規模などから貯蔵穴の可能性が高いと考えられる。

【掘り方】住居跡の全容は不明であるが、カマドの周辺が不整形に2cm前後掘り込まれている。

【出土遺物】堆積土から土器片が出土しており、1～5の5点を第234図に図示した。1～2はロクロ成形の壺である。底部は糸切りである。3は平底の壺である。5は高台付壺の高台部である。4は壺の口縁部～体部上半である。1～3の壺から、本住居跡の年代は9世紀後半ごろと考えられる。

S1370竪穴住居跡（第234図、国版20・21）

【位置】W290・S150グリッドに位置しており、住居跡の北東部が残存しているものと考えられる。

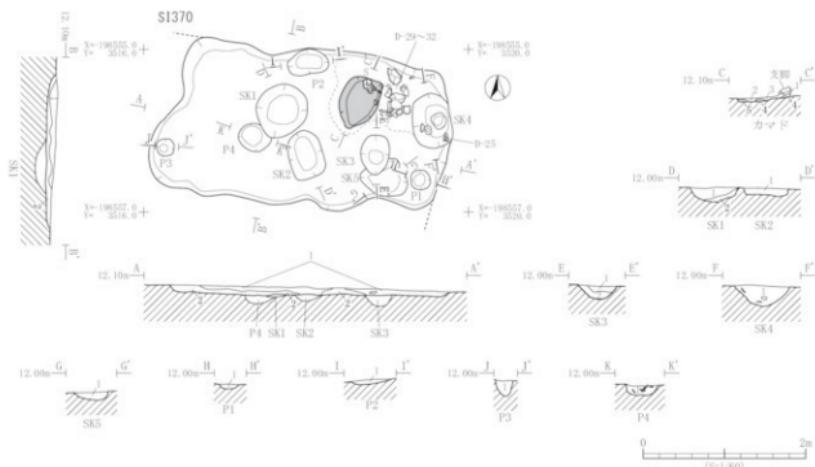
【新旧関係】検出部分では本住居跡と重複する遺構はない。

【規模・形態】残存範囲は東西約3.60m、南北約2.00mである。

【主軸方位】カマド基準でN=14°-Eである。

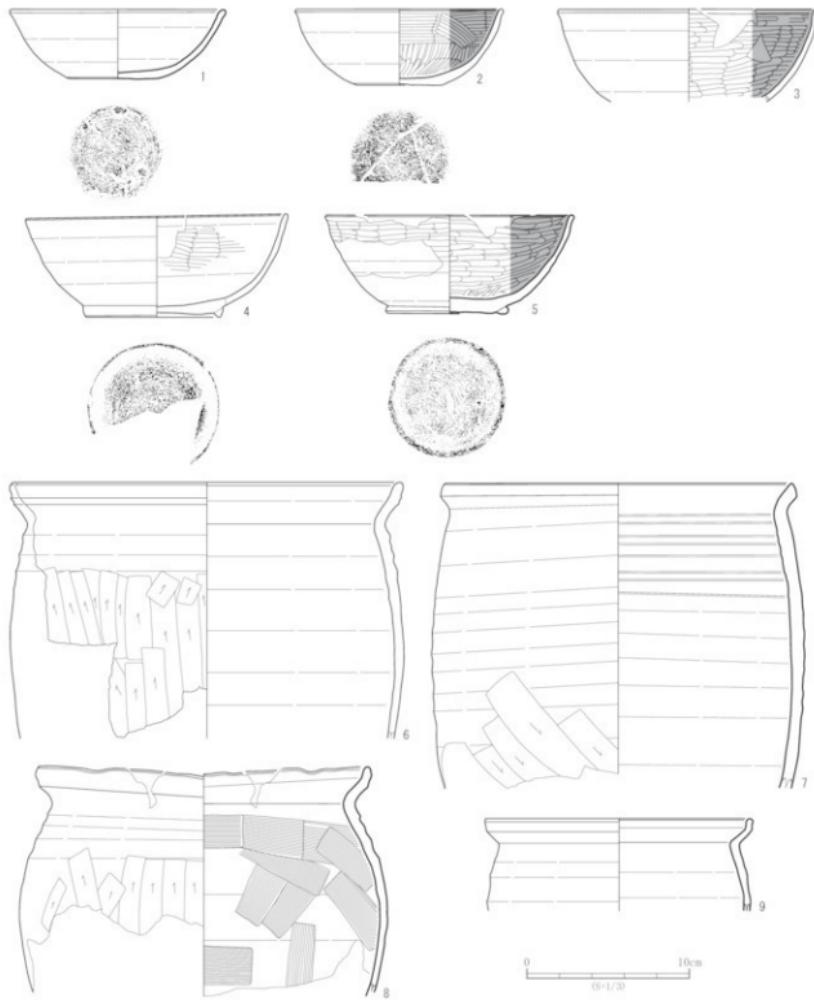
【堆積土・構築上】2層に分層された。住居堆積土と考えられるが、2層は床面形成時の貼床の可能性もある。カマド関連層位は6層で、3～5層には焼土・炭化物などが含まれている。

【壁面】床面から緩やかな角度で立ち上がり、壁高は北壁で最大8cmである。



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
S1370	1	10YR3-28黄褐色	シルト	-	S1370	1	10YR3-30褐色	粘土質シルト	燒土・磚・遺物を含む。中央部に炭化物が多く、明るい褐色土質シルトを含む。
	2	10YR4-6褐色	シルト	-		SK4	-	-	-
S1370 カマド	1	7.5YR2-20褐色	-	灰・焼土粒を含む。	S1370	1	10YR3-29黄褐色	シルト	炭化物を多く、燒土を若干含む。
	2	7.5YR3-20褐色	シルト	炭化物・燒土・灰を含む。		SK5	-	-	-
	3	7YR2-4褐色	シルト	燒土。	S1370	1	10YR4-4褐色	粘土質シルト	炭化物・燒土を含む。
	4	7.5YR3-20褐色	-	灰・焼土粒を含む。		P1	1	10YR4-4褐色	粘土質シルト
	5	10YR4-4褐色	シルト	-	S1370	1	10YR4-4褐色	粘土質シルト	灰・燒土粒を含む。
S1370 SK1	1	10YR3-4褐色	粘土	炭化物・燒土を含む。		P2	1	10YR4-4褐色	粘土
	2	10YR4-6褐色	シルト	-	S1370	1	10YR3-46褐色	粘土質シルト	炭化物・燒土・遺物を含む。
S1370 SK2	1	10YR4-6褐色	シルト	上面が焼けている。		P4	1	10YR3-46褐色	粘土質シルト
	2	10YR4-20褐色	粘土	炭化物・燒土を含む。					

第234図 S1370竪穴住居跡平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺物	層	種別	器種	寸法径×底径×高さ(cm)	外面調整	内部調整	備考	写真回数
1	D-24	SI370	-	土器器	环	132×5.5×42	ロクロナド	底部斜板へラ切り	ロクロナド	60-19
2	D-25	SI370-SK4	-	土器器	环	126×4.6×50	ロクロナド	底部斜板へラ切り	ハラミガキ・黒色処理	60-20
3	D-26	SI370-SK1	-	土器器	环	(16.0)××56	ロクロナド		ハラミガキ・黒色処理	60-21
4	D-27	SI370	-	土器器	高台付环	158×8.2×62	ロクロナド	底部斜板へラ切り	ハラミガキ	60-22
5	D-28	SI370	-	土器器	高台付环	150×7.1×60	ロクロナド	底部斜板へラ切り	ハラミガキ・黒色処理	60-23
6	D-29	SI370	-	土器器	束	(24.0)××規15.6	ロクロナド	ハラケズリ	ロクロナド	60-24
7	D-30	SI370	-	土器器	束	212××規16.7	ロクロナド	ハラケズリ	ハラメ・ロクロナド	60-25
8	D-31	SI370カマド	-	土器器	束	(30.2)××規13.8	ロクロナド	ハラケズリ	ロクロナド・ハラナド	60-26
9	D-32	SI370SK2	-	土器器	束	(16.4)××規56	ロクロナド		ロクロナド	60-27

第235図 SI370堅穴住居出土遺物

【床面】住居跡の北側は掘り方埋土上面を床面としていたと考えられる。

【柱穴】住居跡内から4個のビットを検出したが、規則的に配置されたものは検出されず主柱穴とは考えられない。規模は径20~50cm、深さは5~20cmである。

【周溝】検出されていない。

【カマド】住居跡北壁の北東隅寄りに付設されていたと推定される。袖部は消失しており、燃焼部のみが確認された。奥行き56cm、幅47cmで、北側から支脚と考えられる礎が出土している。

【その他の施設】住居跡内から土坑5基（SK1~5）を検出した。平面形は略円形・楕円形・不整形と様々で、規模は長さ48~68cm、幅35~50cm、深さは10~25cmである。その中でSK4はカマド脇に位置し、住居跡北東隅と推定される場所から検出された。規模は68×48cmの楕円形で、深さは25cmである。位置・形態・規模などから貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】住居跡の全容は不明であるが、カマドの周辺が2~3cm掘り込まれている。

【出土遺物】堆積土から須恵器片、土師器片が多量に出土している。このうち9点を第235図に図示した。1は須恵器环である。平底で、底部は糸切り調整である。2~9は土師器で、全てロクロ成形のものである。2~3は环である。底部は糸切りである。4~5は高台付环である。底部は糸切りである。6~9は壺である。7は内面に回転ハケメ調整が施されている。9はやや小振りな壺である。本住居跡のロクロ成形の土師器は他の住居跡出土のものに比べて口径と底径との法量比がやや小さく、非ロクロ土師器壺が共伴していない。以上のことから本住居跡の年代は9世紀後半~10世紀前半頃と考えられる。

SI390堅穴住居跡（第236図、図版20・21）

【位置】W290・S140~150グリッドに位置するが、重複する遺構に削平され遺存状態は良好ではない。

【新旧関係】SK362、SD363と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。

【規模・形態】残存範囲は東西4.00m、南北4.10mである。

【主軸方位】カマドが検出されず、壁面も確定できなかったことから主軸方位は不明である。

【堆積土】住居跡の遺存状態が良好でないことから住居埋土は分層に至っていない。

【壁面】遺構間の重複と削平の影響によりほとんどが消失している。

【床面】掘り方の底面であるⅢb層を直接床面としている。

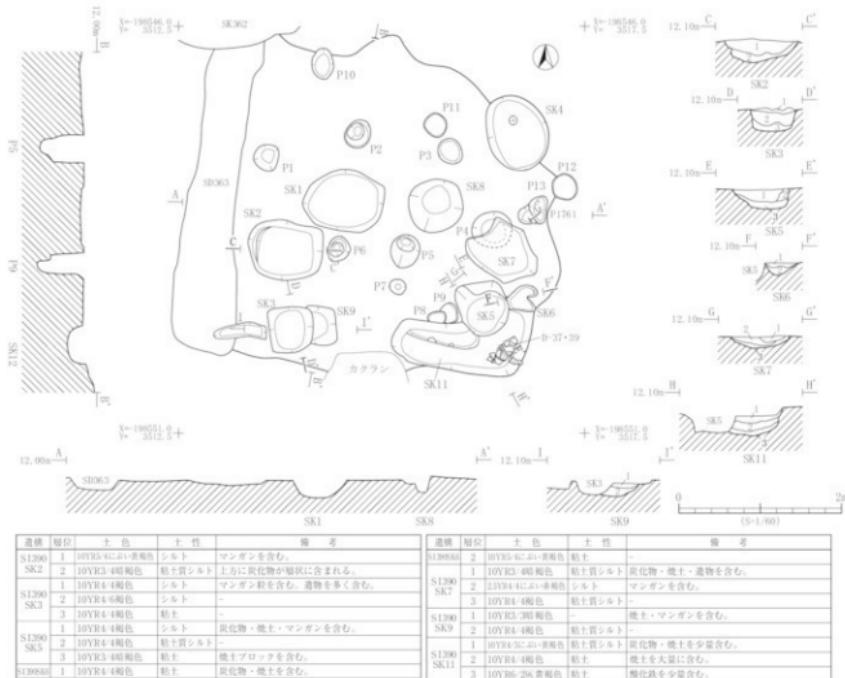
【柱穴】住居跡の遺存状態が良好でないから判然としないが、配置・規模からP1~P6が主柱穴と考えられ、規模は径30~50cm、深さは8~63cmである。柱痕跡は確認されなかった。その他に住居跡内で8個のビットが確認されている。

【周溝】住居跡の南西隅で検出した。断面形はU字形で、規模は長さ63cm、幅10~17cm、深さは8cmである。

【カマド】検出されなかった。

【その他の施設】住居跡内から土坑11基（SK1~9・11）を検出した。平面形は略円形・楕円形・隅丸方形・不整形・L字状と様々で、規模は長さ45~165cm、幅25~85cm、深さは12~35cmである。その中で住居跡の東側や南東側で検出したSK7・11には埋積土中に焼土・炭化物・粘土などが含まれている。SK11は住居跡の南東隅と推定される場所から検出されていることから貯蔵穴の可能性がある。

【出土遺物】堆積土から須恵器片、土師器片が多数出土している。そのうち土師器10点を第237図に図示した。1は环である。2~5はロクロ成形の环である。4はロクロ成形の高台付环である。底部は糸切りで、高台が剥落している。6~10は壺である。このうち6はロクロ成形の壺で、底部は上げ底状になっている。7・8は底部を欠いた壺である。9はロクロ成形の壺の底部片である。10は非ロクロ土師器壺である。口径と底径との法量比の大きな环、ロクロ土師器と非ロクロ土師器の混在する状況から、本住居跡の年代は9世紀後半と考えられる。



第236図 S1390堅穴住居平面図・断面図

2) 土坑

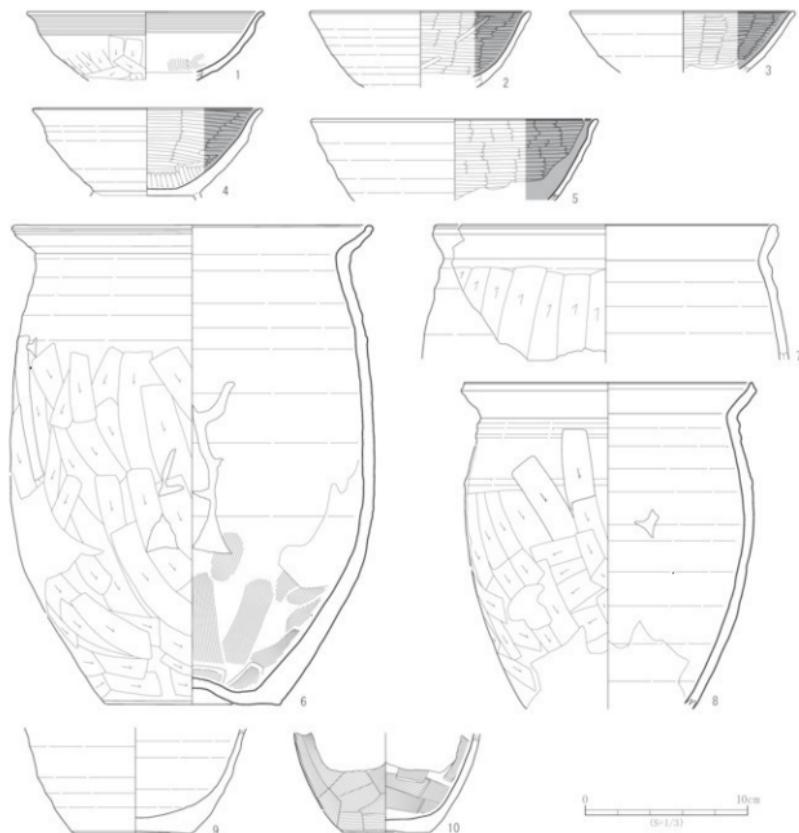
SK361土坑（第239図） W 270・S 150グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びるため、平面形は不明である。検出した規模は東西110cm、南北20cm、深さ8cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は、土師器内黒坏片や須恵器壺口縁部片が出土した。

SK362土坑（第239図） W 290・N 140グリッドで検出した。S1390・SD363と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-86°-Wである。検出した規模は長軸240cm、短軸150cm、深さ34~41cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には若干凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK368土坑（第239図、図版21） W 290・S 150グリッドで検出した。SK372と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-50°-Wである。規模は長軸105cm、短軸85cm、深さ18cmで、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は、土師器内黒坏小片や土師器甕小片、ロクロ成形の土師器片等が出土しており、そのうち土師器甕を第238図に示した。ロクロ成形の甕である。口径と底径との法量比は小さく、10世紀前半の所産と考えられる。

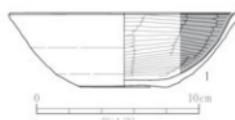
SK369土坑（第239図） W 290・S 150グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-20°-Eである。規模は長軸85cm、短軸63cm、深さ7cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は单層である。遺物は、土師器内黒坏片が出土した。

第4節 下ノ内遺跡4A区の調査



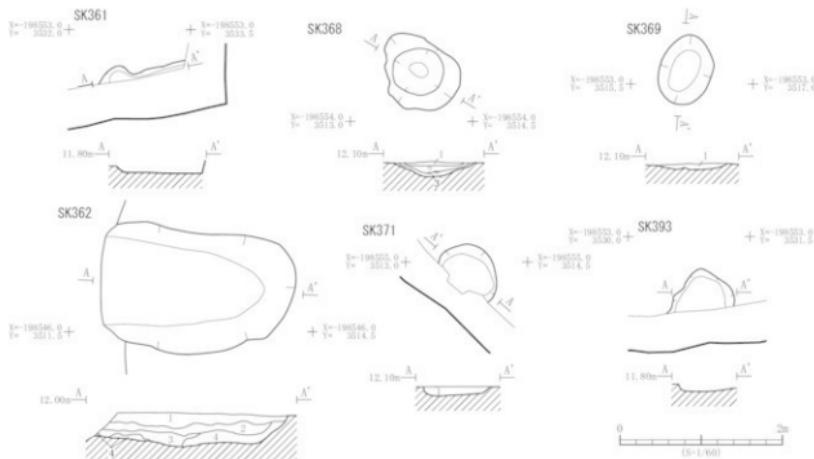
No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-55	SI390 SK2	-	土器	盆	14.0××底4.4	ヨコナデ・ヘラケツリ	ヨコナデ・ヘラミサキ	61-1	
2	D-33	SI390 SK3	-	土器	盆	13.0××底4.6	ヨコナデ	ハラミガキ・黒色施理	61-2	
3	D-34	SI390	-	土器	盆	13.0××底4.7	ヨコナデ	ハラミガキ・黒色施理	61-3	
4	D-35	SI390 SK3	-	土器	高台付杯	14.0××底4.5.3	ヨコナデ	ハラミガキ・黒色施理	61-4	
5	D-36	SI390 SK2	-	土器	盆	17.6××底4.2	ヨコナデ	ハラミガキ・黒色施理	61-5	
6	D-37	SI390 SK11	-	土器	甕	22.0×10.6×29.3	ヨコナデ・ヘラケツリ	ヨコナデ・指ナデ・指オサキ	61-6	
7	D-38	SI390 SK2	-	土器	甕	21.0××底8.2	ヨコナデ・ヘラケツリ	ヨコナデ	61-7	
8	D-39	SI390 SK11	-	土器	甕	17.4××底20.0	ヨコナデ・ヘラケツリ	ヨコナデ	61-8	
9	D-40	SI390 SK11	-	土器	甕	×7.3×底8.3	ヨコナデ	底部回転系切り	ヨコナデ	61-9
10	C-56	SI390	-	土器	甕	×5.3×底6.0	ヘラナデ			61-10

第237図 SI390堅穴住居跡出土遺物



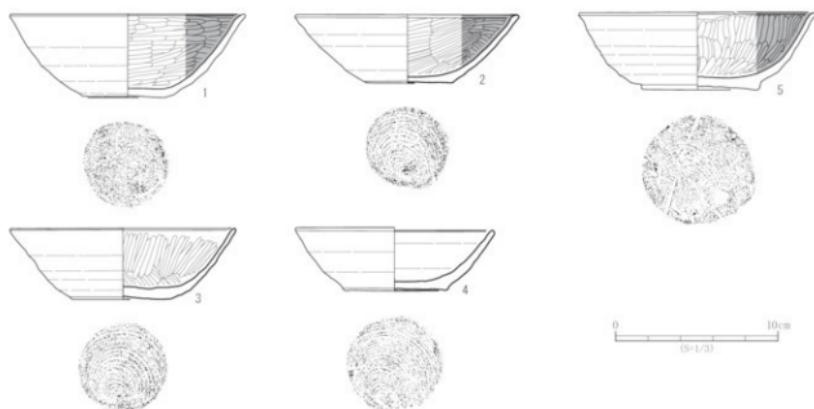
No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	D-41	SK368	-	土器	盆	14.0×5.2×4.5	ヨコナデ	ハラミガキ・黒色施理	61-11	

第238図 SK368土坑出土遺物



遺構	層厚	土色	土性	備考	遺構	層厚	土色	土性	備考
SK362	1	10YR4/3-C:4V4黃褐色	粘土質シルト	燒土・マンガンを含む。	SK368	2	-	-	に高い赤褐色シルト質燒土・暗赤褐色シルトを含む。
	2	10YR4/2H4黃褐色	粘土	マンガンを含む。		3	10YR4/3C:4V4黃褐色	シルト	
	3	10YR4/4褐色	粘土	炭化物を若干含む。		3	10YR4/2H4褐色	シルト	炭化物・焼土・遺物を含む。
	4	10YR4/6褐色	粘土	-	SK371	1	10YR4/3C:4V4黃褐色	シルト	遺物を含む。
SK368	1	10YR3/3H褐色	シルト	炭化物・焼土・マンガンを含む。					

第239図 SK361・362・368・369・371・393土坑平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	寸法(×既往×器高(cm))	外側調整	内側調整	備考	写真図版
1	D-42	SK371	-	土器部	II	149×54×49	クロクナデ	底部回転系切引	ハラミガキ・黒色處理	61-12
2	D-43	SK371	-	土器部	II	138×50×42	ロクロナデ	底部回転系切引	ハラミガキ・黒色處理	61-13
3	D-44	SK371	-	土器部	II	138×58×43	ロクロナデ	底部回転系切引	ハラミガキ	61-14
4	D-45	SK371	-	赤陶土器	II	22.0×6.2×3.8	ロクロナデ	底部回転系切引	ロクロナデ	61-15
5	D-46	SK371	-	土器部	高台付II	21.4×6.8×46	ロクロナデ	底部回転系切引	ハラミガキ・黒色處理	61-16

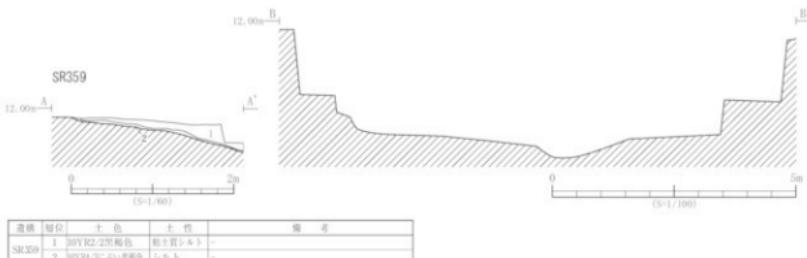
第240図 SK371土坑出土遺物

SK371土坑（第239図、図版21） W290・S150グリッドで検出した。南西側の調査区外へ延びる。平面形は円形ないしは梢円形であったと考えられ、検出した規模は北西から南東が84cm、北東から南西が長さ57cm、深さ7～14cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は、土師器壺が5点出土しており、第240図に図示した。1～4はロクロ成形の土師器壺である。底部は糸切りである。5はロクロ成形の土師器高台付壺である。いずれも口径と底径との法量比は小さく、10世紀前半の所産と考えられる。

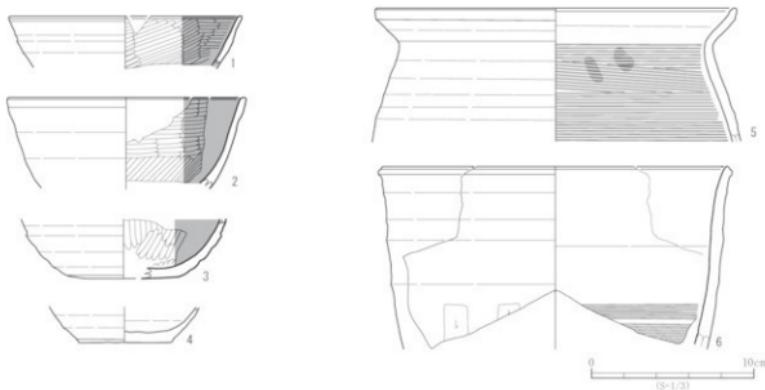
SK393土坑（第239図） W270・S150グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。平面形は梢円形で、長軸方向はN-31°-Eと思われる。検出した規模は北東から南西の長さが70cm、北西から南東が68cm、深さ1～8cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は、土師器内黒環片が出土した。

3) 河川跡

SR359河川跡（第229・241図） W270～290・S140～160グリッドで検出した。トレンチを設定して調査を行った。南北方向の自然流路で、規模は幅約11.60m以上、深さは最深部で2.4mを越える。SD360、SK361・398・P1777・



第241図 SR359河川跡断面図



No.	登録番号	出土遺構	剖面	種別	器種	寸(横×底径×器高)(cm)	外面調整	内部調整	備考	写真図版
1	D-47	SK359	-	土師器	壺	(14.0)×××H3.2	ロクロテア	ハラミガキ・黒色処理	62-2	
2	D-48	SK359	-	土師器	壺	(14.2)×××H3.5	ロクロテア	ハラミガキ・黒色処理	62-3	
3	D-49	SK359	-	土師器	壺	~×6.8×H16	ロクロテア 瓶部糸切り	ハラミガキ・黒色処理	62-4	
4	D-50	SK359	-	赤陶土器	壺	~×5.5×H21	ロクロテア 瓶部糸切り	ロクロナゲ	62-5	
5	D-51	SK359	-	土師器	壺	11.0××H8.0	ロクロテア	ロクロナゲ・回輪ハケメ	62-6	
6	D-52	SK359	-	土師器	壺	(11.0)××H11.1	ロクロテア・ハラキズリ	ロクロナゲ・回輪ハケメ	62-7	

第242図 SR359河川跡出土遺物

1778と重複し、本河川跡が最も古い。南端での堆積土は2層に分けられる。遺物は、土器片が多量に出土し、このうち6点を第242図に図示した。1~3はロクロ成形の土器片である。4は赤焼土器で、底部は糸切りである。5・6はロクロ成形の土器片である。内面には回転ハケメが施されている。

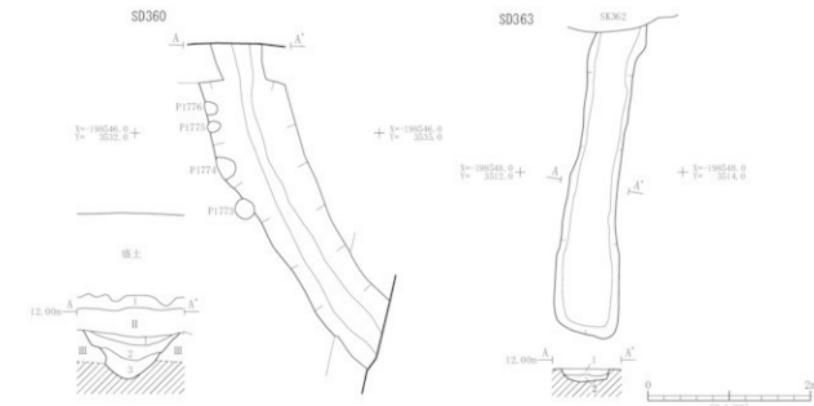
4) 溝跡

SD360溝跡（第244図）W270・S140グリッドで検出した。P1772~1776と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-25°-Wのやや蛇行する北西-南東方向の溝で、規模は長さ4.20m、幅50~110cm、深さ22~53cmである。断面形はU字形である。遺物は、土器片内壁片等が出土しており、このうち1点を第243図に図示した。高台付環の底部片である。

SD363溝跡（第244図）W290・S140~150グリッドで検出した。SI390、SK362と重複関係にあり、SK362より古く、他の遺構より新しい。方向はN-8°-Eの南北溝で、規模は長さ3.90m、幅52~80cm、深さ9~14cmである。断面形はU字形である。遺物は出土していない。



第243図 SD360溝跡出土遺物



第244図 SD360・363溝跡平面図・断面図

5) ピット（第229図）

32基のピット（P3・373~380・385・391・1756~1759・1761~1766・1768・1769・1771~1778・1780）を検出した。調査区中央から東側のE290~310・S150~210に分布している。遺物は出土していない。

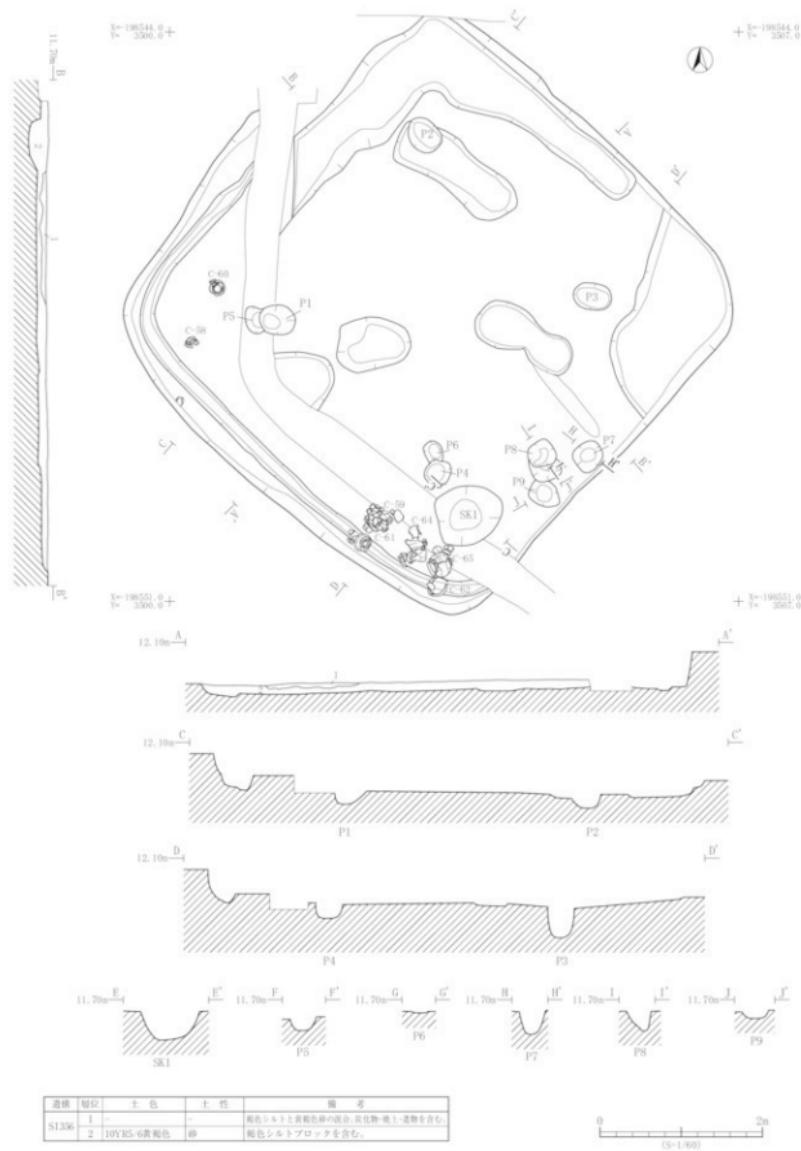
(2) V層検出の遺構と遺物（第229図）

1) 壁穴住居跡

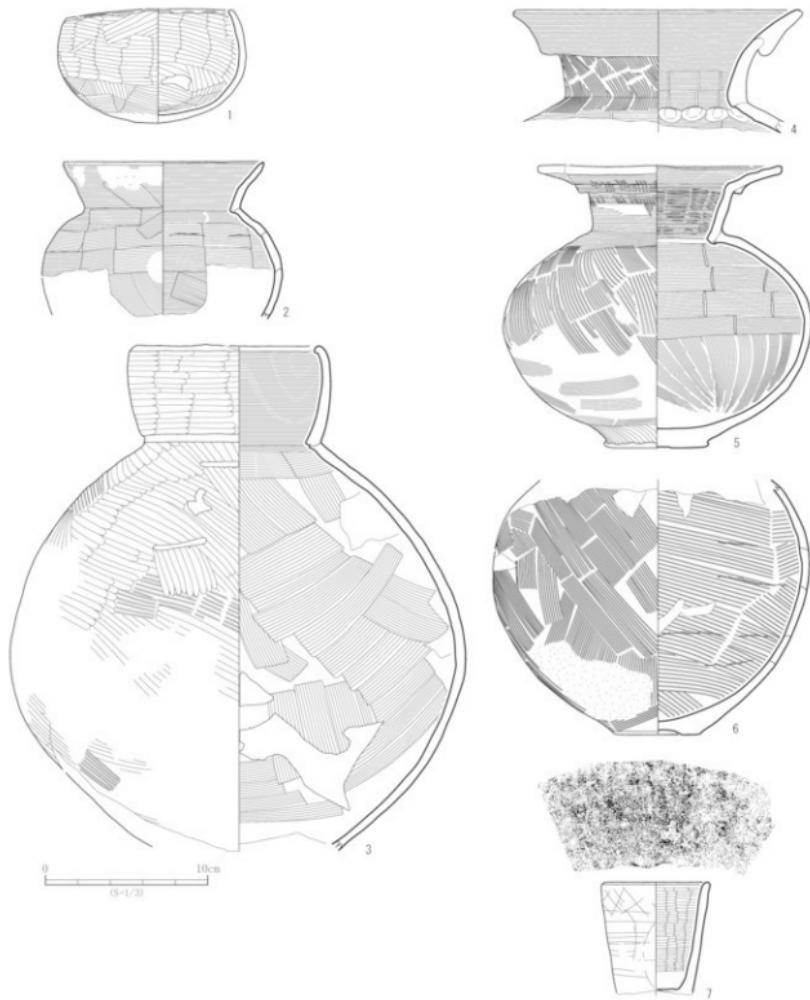
S1356壁穴住居跡（第245図、図版20）

【位置】 W300~310・S140~150グリッドに位置し、V層で確認した。住居跡の中央から東側の上部は削平を受けている。

第4節 下ノ内遺跡4A区の調査



第245図 S1356竪穴住居平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺物	層	位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	参考	写真図版
1	C-57	SI356	-		土器器	环	19.9××6.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	62-8	
2	C-58	SI356	-		土器器	壺	11.6××現9.4	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	62-9	
3	C-59	SI356	床直		土器器	壺	13.7××現31.0	ヘラミガキ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ	62-10	
4	C-60	SI356	床直		土器器	二重口壺	17.6××現7.3	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ・指すサニ	62-11	
5	C-61	SI356	床直		土器器	壺	14.9×6.4×17.1	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ・ナデ	62-12	
6	C-62	SI356	床直		土器器	壺	×5.3×現15.5	ハケメ	ハケメ	ドーナツ状底部	62-13
7	C-63	SI356	-		土器器	コップ状	6.4×現6.9×現4.4	ヘラミガキ	ヘラミガキ	縫制あり。	62-14

第246図 SI356竪穴住居跡出土遺物（1）

【新旧関係】本住居跡と重複する遺構はない。

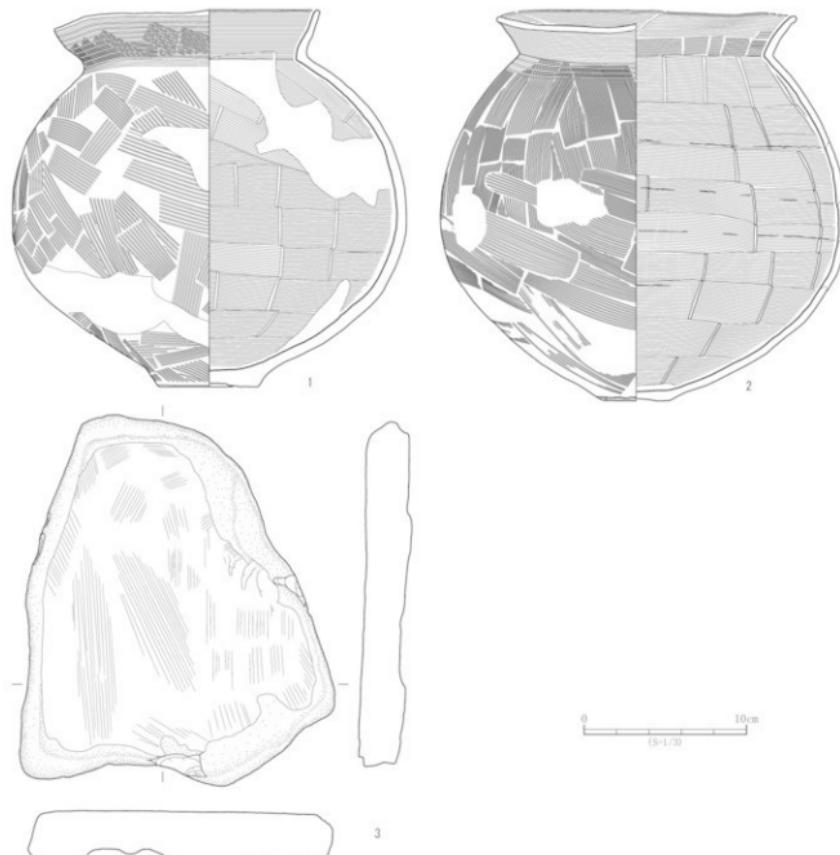
【規模・形態】長軸（北東-南西）6.06m、短軸（北西-南東）5.60~6.20mの方形である。

【主軸方位】長軸方向を基準とした方向はN-50°-Wである。

【堆積土・構築土】2層に分層され、1層には炭化物・焼土・土器片などが含まれる。

【壁面】床面からやや急角度で立ち上がり、壁高は遺存状態の良い南西壁で38cmである。

【床面】掘り方の底面を直接床面としている。



No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口幅×底径×器高(cm)	外面調整	内部調整	備考	写真図版
1	C-64	SI1356	-	土器部	素	16.1×6.0×28.0	ヨコナダ・ハケメ	ヨコナダ・ハラナダ	ドーナツ状底部	62-13
2	C-65	SI1356	床面	土器部	素	18.3×4.0×23.6	ヨコナダ・ハケメ	ヨコナダ・ハケメ・ハラナダ		63-1
No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
3	Kd-p-13	SI1356	-	礫石部	礫石	安山岩	22.6×19.3×3.2	1925.0		63-2

第247図 SI1356竪穴住居跡出土遺物（2）

【柱穴】配置及び規模からP1～P4が主柱穴と考えられ、P1とP4には重複が確認された。その他には南東壁際からP7～P9が検出されている。規模は径20～48cm、深さは2～38cmである。柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】南西壁際と北西壁際の南西側で確認されたが、壁面から3～30cm内側を巡っている。断面形はU字形で、規模は幅11～22cm、深さ2～26cmである。

【カマド・炉】確認されなかった。

【その他の施設】SK1は住居跡の南隅付近に位置する。平面形は82×72cmの不整形円形で、深さは35cmである。位置や規模から貯蔵穴の可能性が高いと考えられる。

【出土遺物】堆積土から多量の土師器片と石製品が出土し、このうち10点を第246・247図に図示した。第246図1は環である。半球形である。2は小振りの壺である。3は大型の壺である。球胴で、やや寸詰まった筒状の頸部～口縁部をもつ。4・5は二重口縁壺である。4は口縁部～頸部片である。5はやや小型である。6は壺の胴部片～底部片である。球胴である。7はコップ状の容器で、外面には線刻で平行沈線、格子状沈線、弧状の沈線が刻まれている。台杯壺の脚部の可能性も考えられるが、内面にもヘラミガキされていたことから容器とした。第247図1・2は壺である。両者とも球胴である。3は砥石である。広い範囲で擦痕が観察される。壺や二重口縁壺から、本住居跡の年代は4世紀末～5世紀前半と考えられる。なお、1の环は混入遺物である可能性がある。

(3) VII層検出の遺構と遺物(第250図、図版21)

1) 性格不明遺構

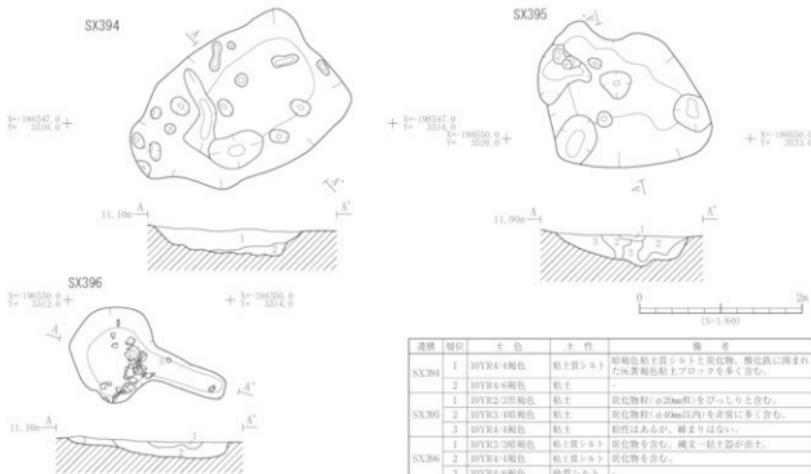
SX394性格不明遺構(第248図) W290・S140グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-59°-Eである。規模は長軸262cm、短軸180cm、深さ30～48cmである。底面と壁面にはビット状の浅い落ち込みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は、縄文土器27点、土製品2点、石器1点が出土し、縄文土器1点、土製品2点、石器1点を第251図に図示した。1は深鉢の口縁部である。2は断面が楕円形で柱状を呈するもので、土偶の脚部とも考えられるが上部に剥離の痕跡がみられないことから不明土製品とした。実測図の破線以下がやや薄黒く変色している。3は土製円盤である。8は残存する刃部の形状と欠損部位の状況から、つまみ部を欠損した石匙とした。刃部は裏面から正面へ向かう比較的急角度の二次加工を施して作出され、形状は横型である。

SX395性格不明遺構(第248図) W280・S140-150グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-60°-Wである。規模は長軸228cm、短軸190cm、深さ20～37cmである。底面と壁面にはビット状の浅い掘り込みがある。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器6点が出土し、1点を第251図4に図示した。小型土器の底部である。

SX396性格不明遺構(第248図) W290・S150グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-71°-Eである。規模は長軸200cm、短軸30～110cm、深さ8～23cmである。堆積土は3層に分層される。遺物は、縄文土器13点、土製円盤1点が出土し、第251図に縄文土器2点、土製円盤1点を図示した。5は底部から直線的に開き締め腰風の深鉢である。7の土製円盤は土器の胴部破片を利用している。

2) 埋設土器

SX397埋設土器(第249図) W300・S140グリッドで検出した。トレンチ調査で掘り下げを行った際にX層で検出した。掘り方の平面形は径45cmの円形で、深さ38cmである。深鉢が正位の状態で埋設されていた。堆積土は3層に分層され、3層は掘り方埋土である。埋設されていた土器を第252図に図示した。1は胴部中位が緩やかに括れ、口縁部が外側に開き、沈線区画の文様帶により「O」字状の区画が形成される。底部はナデにより無文である。2は堆積土から出土したもので、口縁部が内傾する壺である。橋状の把手を有し、内外面に赤彩が施される。



第248図 SX394～396性格不明遺構平面図・断面図

3) ピット (第250図)

18基のピット (1770・1781～1797) を検出した。調査区中央から西側のW290～300・S140に分布している。遺物は、土器師小破片が出土した。

(4) 遺構外出土の遺物 (第253～263図、図版64～67)

古い時代の頃に説明を行う。また縄文時代の遺物は量が多いことから煩雑となるため、土器・石器に分けた層位ごとに説明する。

縄文時代

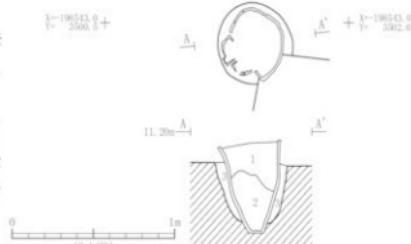
土 器

VII層出土土器・土製品 (第253～256図、図版64・65)

縄文土器23点、土製品6点を図示した。口縁部が外側に開く器形の深鉢または浅鉢が主体をなす。第253図1は口縁部直下が緩やかに屈り、2は底部から外反して口縁部が開き、山形小突起による波状口縁となる。5はミニチュア土器で、手づくねで成形され底部は丸底である。第255図1の浅鉢は口縁部に平行沈線文が巡り、縦位の短沈線文によって「クランク」状となる。2～10は沈線文で文様が構成される。7は補修孔が3ヶ所にみられるが、その内の1ヶ所は未貫通である。11～14の土製円盤は胴部破片を利用して成形される。15は不明土製品であるが、台付のミニチュア土器の可能性もある。16は臼形の耳栓である。

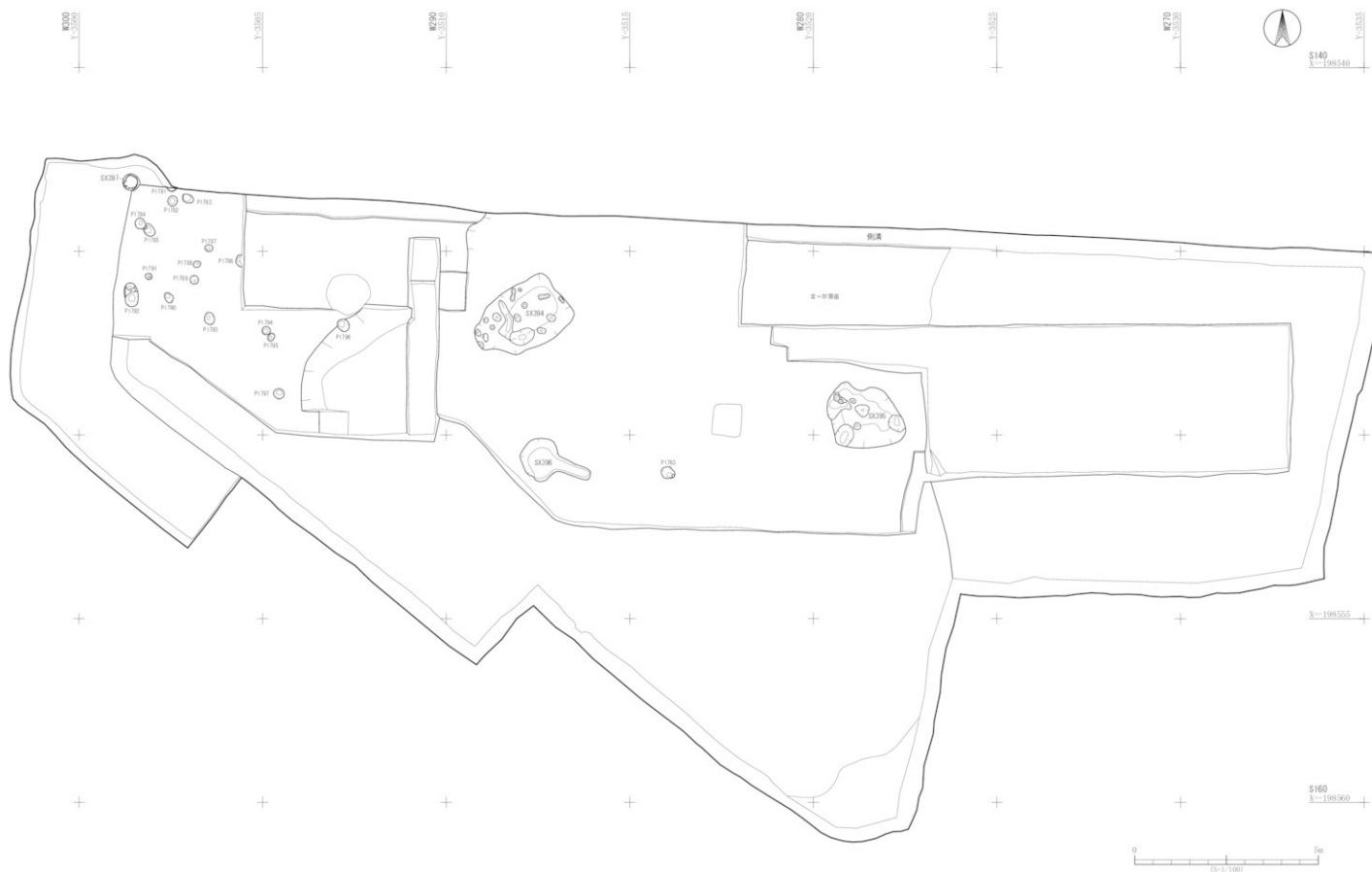
VII層出土土器・土製品 (第256・257図、図版65・66)

縄文土器12点、土製品2点を第256・257図に図示した。1・3・4は粗製の深鉢である。3は波状口縁となる。4は頭部が「く」の字に屈折し、屈折部分に押圧縄文が施文される。第257図1は臺である。頭部から胴部上半部に平行沈線で縄文帯と無文帯が交互に配される。2～6は破片資料である。2は外面及び口唇部に付加条文 (LR



第249図 SX397埋設土器平面図・断面図

遺構	層位	土色	土性	備考
SX397		1 10YR2-3II褐色 2 10YR3-4III褐色 3 10YR4-5IV褐色	粘土 粘土 粘土	炭化物をぐわざかに含む。 底部に灰青褐色土ブロックを含む。 黄褐色砂質シルト(貝殻)をブロックで含む。



第250図 下ノ内遺跡4A区VII層遺構配置図